

令和4年度 業務実績報告書

(第3期中期計画・第4事業年度)

令和5年6月



地方独立行政法人 静岡県立病院機構

目 次

I 機構の概要（令和4年4月1日時点）

1 名 称	1
2 所 在 地	1
3 法人の設立年月日	1
4 設 立 団 体	1
5 目 的	1
6 業 務	1
7 資本金の額	1
8 代表者の役職氏名	1
9 役 員	2
10 組 織 図	2
11 法人が運営する病院の概要	3

II 当該事業年度における業務実績報告

1 対 象 期 間	5
2 業務実績全般	5
(1) 機 構 全 体	5
(2) 総 合 病 院	15
(3) こころの医療センター	16
(4) こども病院	17
3 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため とるべき措置	18
(1) 医療の提供	18
(2) 医療従事者の確保及び質の向上	24
(3) 医療に関する調査及び研究	24
(4) 医療に関する地域への支援	28
(5) 災害等における医療救護	29
4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	30
(1) 効率的な業務運営体制の強化	30
(2) 事務部門の専門性の向上	31
(3) 収益の確保と費用の節減	31
5 項目別実績	33
(参考) 用語解説	61

【数値の表記方法について】

この報告書内の数値は表示単位未満を四捨五入のため、各項目の和と総計が一致しない場合がある。



静岡県立総合病院



地方独立行政法人 静岡県立病院機構

Shizuoka Prefectural Hospital Organization

ともにつくる 信頼と安心の医療

静岡県における保健医療施策として求められる高度又は特殊な医療の提供、地域医療の支援等を行うことにより、県内医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与することを目的とする



静岡県立こころの医療センター



静岡県立こども病院

I 機構の概要 (令和4年4月1日時点)

1 名 称

地方独立行政法人静岡県立病院機構

2 所 在 地

静岡市葵区北安東四丁目 27 番 1 号

3 法人の設立年月日

平成 21 年 4 月 1 日

4 設立団体

静岡県

5 目 的

静岡県における保健医療施策として求められる高度又は特殊な医療の提供、地域医療の支援等を行うことにより、県内医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与する。

6 業 務

(1) 病院の名称及び所在地

名 称	所 在 地
静岡県立総合病院	静岡市葵区北安東
静岡県立こころの医療センター	静岡市葵区与一
静岡県立こども病院	静岡市葵区漆山

(2) 業務の範囲

- ・医療を提供すること。
- ・医療に関する調査及び研究を行うこと。
- ・医療に関する技術者の研修を行うこと。
- ・医療に関する地域への支援を行うこと。
- ・災害等における医療救護を行うこと。
- ・及び上記の附帯業務。

7 資本金の額

6, 8 2 2, 7 3 3, 4 6 9 円

8 代表者の役職氏名

理事長 田 中 一 成

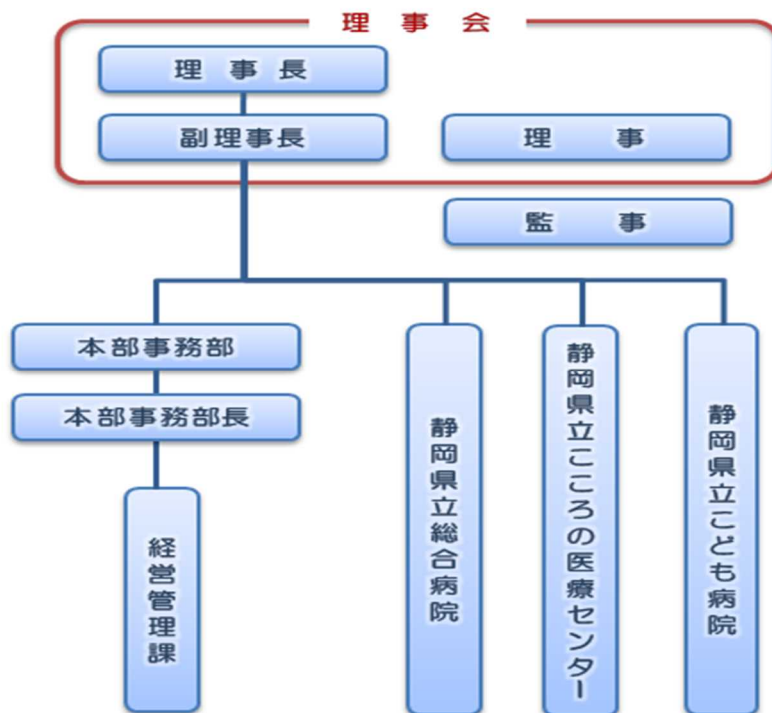
9 役 員

(令和4年4月1日現在)

役 員 名	区 分	氏 名
理 事 長	常 勤	田 中 一 成
副 理 事 長	常 勤	山 口 重 則
理 事	常 勤	小 西 靖 彦
理 事	常 勤	村 上 直 人
理 事	常 勤	坂 本 喜三郎
理 事	非 常 勤	渡 邊 裕 司
理 事	非 常 勤	中 村 彰 宏
理 事	非 常 勤	渡 邊 昌 子
理 事	非 常 勤	星 野 希代絵
監 事	非 常 勤	伊 藤 みさ子
監 事	非 常 勤	高 橋 純 子

(定款に定めた定数 理事長1名・副理事長1名・理事7名以内・監事2名)

10 組 織 図



○ 全職員数 (令和4年4月1日現在、現員)

医 師 ※	480名
看 護 師	1,398名
医 療 技 術	369名
事 務 ほ か	141名
計	2,388名

※ 職員数には、アソシエイトを含む。また、医師には歯科医師8名、自治医大初期研修医4名、へき地指定公立病院派遣医6名、有期職員医師165名を含む。

11 法人が運営する病院の概要

(1) 病院の名称・所在地等

(令和4年4月1日現在)

区 分	地方独立行政法人 静岡県立病院機構		
病院名	総 合 病 院	こ こ ろ の 医 療 セ ン タ ー	こ ど も 病 院
所在地	静岡市葵区北安東 4丁目27-1	静岡市葵区与一 4丁目1-1	静岡市葵区漆山860番地
開 設 年月日	昭和58年2月1日	昭和31年11月1日	昭和52年4月1日
診療科 (医療法)	内科、救急科、心療内科、精神科、循環器内科、心臓血管外科、腎臓内科、泌尿器科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、脳神経外科、消化器内科、消化器外科、呼吸器内科、呼吸器外科、産婦人科、乳腺外科、小児科、整形外科、リハビリテーション科、心臓リハビリテーション科、眼科、頭頸部・耳鼻いんこう科、血液内科、皮膚科、形成外科、歯科口腔外科、麻酔科、放射線科、病理診断科、腫瘍内科	精神科、内科、外科、歯科	小児科、小児救急科、新生児小児科、血液・腫瘍内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、アレルギー科、神経内科、循環器内科、皮膚科、小児外科、消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、耳鼻いんこう科、泌尿器科、眼科、歯科、麻酔科、放射線科、産科、精神科、児童精神科、臨床検査科、病理診断科、リハビリテーション科
	31科	4科	29科
許 可 病床数 (3年度)	一 般 662床 (稼働658床) 結 核 50床	精 神 280床 (稼働172床)	一 般 243床 (稼働209床) 精 神 36床
年間延 患者数 (4年度計画)	入 院 224,978人 外 来 454,534人	入 院 54,546人 外 来 39,975人	入 院 75,948人 外 来 116,867人
理 念	信頼し安心できる質の高い 全人的医療を行います	安全・良質・優しいこころの 医療を、いつでもどこでも 誰にでも	私たちは、すべての子ども と家族のために、安心と信 頼の医療を行います
備 考	昭和23年6月 中央病院 昭和33年3月 富士見病院	「養心荘」 平成9年4月1日名称変更	

※昭和39年4月1日 中央病院、富士見病院、養心荘の3病院で病院事業会計開始。

(2) 施設状況

(令和4年4月1日現在)

区分	病棟		許可病床数	内 容
総 合	本 館	3 A	40	産婦人科、小児科（新生児）、消化器外科、病院管理ベッド
		3 B	36	小児科、耳鼻咽喉科、総合内科、病院管理ベッド、救命救急科
		3 C	26	血液内科、病院管理ベッド
		3 D	18	新型コロナウイルス感染症
		4 A	45	腎臓内科、泌尿器科、眼科
		4 B	47	消化器外科、泌尿器科、整形外科、腎臓内科
		4 D	—	
		5 A	47	消化器内科、消化器外科、腫瘍内科、病院管理ベッド
		5 B	45	整形外科、消化器内科、病院管理ベッド
		5 D	4	休床
		6 A	20	新型コロナウイルス感染症
		6 B	50	結核
		6 C	47	呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、皮膚科
		6 D	39	呼吸器内科、呼吸器外科、歯科口腔外科、放射線科
	北 館	1 E	16	救命救急科
		3 E	41	整形外科、脳神経内科、救急科
		4 E	34	消化器外科、乳腺外科、形成外科、循環器内科
		5 E	28	緩和医療科、消化器内科、病院管理ベッド
	循環器病 センター	3 G	14	集中治療室（I C U）、冠疾患集中治療室（C C U）
		4 G	47	循環器内科、心臓血管外科
		5 G	48	脳神経内科、脳神経外科
	先端医学棟	4 M	20	高度治療室（H C U）
	計		712	（稼働 708 床）
こ こ ろ	北 1		42	医療観察法 12 床、慢性重症 30 床
	北 2		45	救急
	北 3		54	（休棟）
	南 1		42	回復期
	南 2		43	救急
	南 3		54	（休棟）
	計		280	（稼働 172 床）
こ ど も	北 2		36	新生児集中治療室（N I C U）、回復治療室（G C U）
	北 3		30	休床
	北 4		28	感染観察
	北 5		28	内科系幼児学童
	西 2		24	産科、母体胎児集中治療室（M F I C U）
	西 3		25	循環器科
	C C U		12	H C U 型一般病棟 全診療科対象
	P I C U		12	小児集中治療室（P I C U）
	西 6		48	外科系
	東 2		36	こころの診療科
	計		279	（稼働 245 床）

Ⅱ 当該事業年度における業務実績報告

1 対象期間

令和4年4月1日から令和5年3月31日までの1年間
(中期計画の期間 平成31年4月1日から令和6年3月31日までの5年間)

2 業務実績全般

(1) 機構全体

ア 総 括

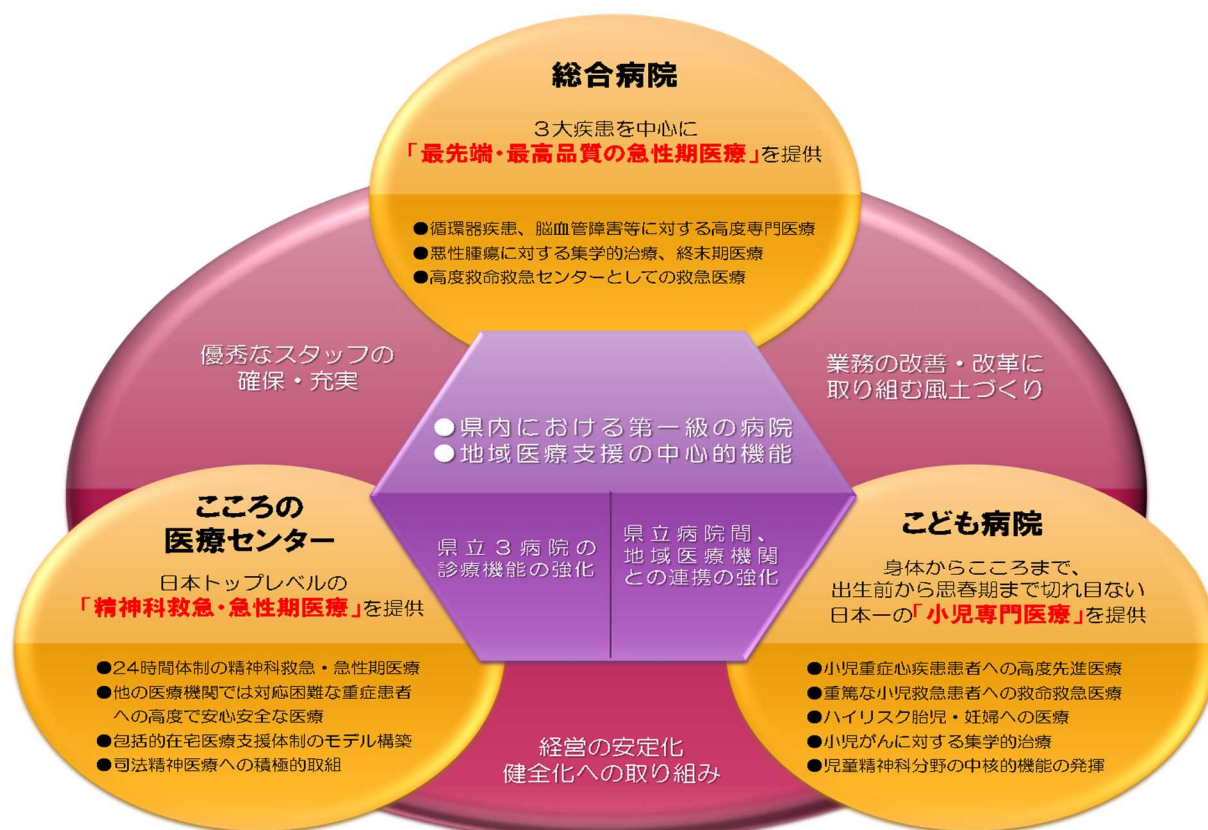
静岡県立病院機構は、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等の分野において第一級の病院であること及び地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、地方独立行政法人の特徴である機動性や効率性等を発揮した病院経営に取り組んでいる。

新型コロナウイルス感染症(SARS-CoV-2、以下「新型コロナウイルス感染症」という。)については、総合病院とこども病院は「重点医療機関」として、こころの医療センターは「協力医療機関」として、県からの指定を受けて対応を行っている。

令和4年度の経営状況(3病院計)は、令和2～3年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、収支については、空床補償等の各種補助金が適切に交付されたことにもあり、経常利益が509百万円(経常収支比率101.0%)当期純利益が347百万円となり、地方独立行政法人化後14年連続で黒字決算を達成した。

引き続き、本機構は、医療の質を高め、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等に積極的に取り組み、医療面では充実した質の高い医療を提供し、経営面では機能的で効率的な病院経営を推進し、本県の医療の確保と向上に貢献していく。

県立病院機構が目指す病院像



イ 業務実績

(ア) 入院診療

- ・ 総合病院は、年度計画（以下「計画」）を下回る入院延患者数(▲25,768 人)となり、患者1人1日当たり入院単価（以下、入院単価：入院収益÷年延入院患者数）は計画を上回った(+1,636 円)。
- ・ こころの医療センターは、計画を下回る入院延患者数(▲4,264 人)となり、入院単価は計画を上回った（+1,040 円）。
- ・ こども病院は、計画を下回る入院延患者数（▲8,071 人）となり、入院単価は計画を上回った（+4,237 円）。

(イ) 外来診療

- ・ 総合病院は、計画を上回る外来延患者数（+1,242 人）となり、患者1人1日当たり外来単価（以下、外来単価：外来収益÷年延外来患者数）も計画を上回った（+632 円）。
- ・ こころの医療センター病院は、計画を下回る外来延患者数（▲3,214 人）となり、外来単価も計画を下回った（▲155 円）。
- ・ こども病院は、計画を上回る外来延患者数（+830 人）となり、外来単価も計画を上回った（+876 円）。

○ 令和4年度 業務量及び単価等年間（税込）

区 分		総 合	こころ	こども	合計
入 院	入院延患者数(人)	199,210 (224,978)	50,282 (54,546)	67,877 (75,948)	317,369 (355,472)
	病床稼働率(%)	一般82.6 (一般91.1)	80.1 (86.9)	75.9 (84.6)	80.7 (88.9)
	入院患者1人 1日当たり単価(円)	92,523 (90,887)	26,279 (25,239)	102,596 (98,359)	84,182 (82,410)
外 来	外来延患者数(人)	455,776 (454,534)	36,761 (39,975)	117,697 (116,867)	610,234 (611,376)
	外来患者1人 1日当たり単価(円)	25,151 (24,519)	6,359 (6,514)	15,957 (15,081)	22,246 (21,538)

※ （ ）書きは、当初計画数値を示す。

※ 患者1人1日当たり単価は税込金額（調定額ベースで算定）。

※ 病床稼働率は、稼働病床（総合病院は結核病床を除く）で算定。

<参考資料>

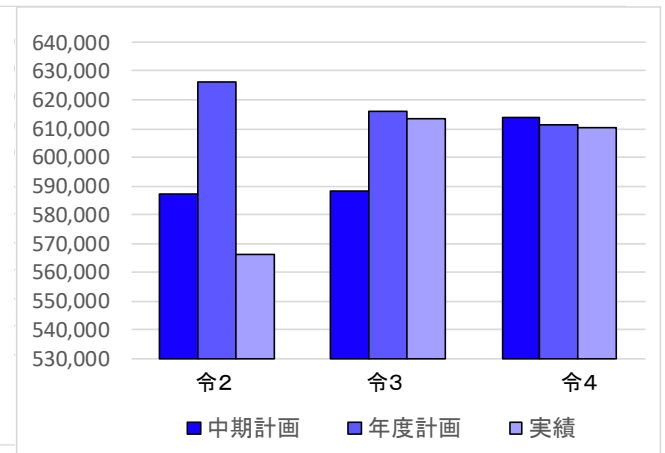
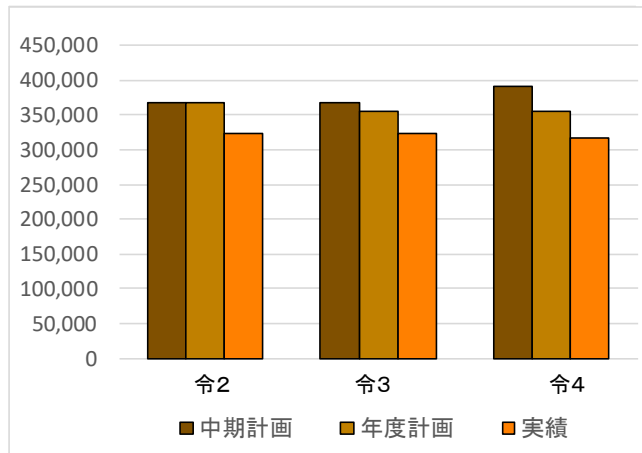
○患者数の推移（令和2年度実績～令和4年度）

入院延患者数（3病院計）

（単位：人）

外来延患者数（3病院計）

（単位：人）



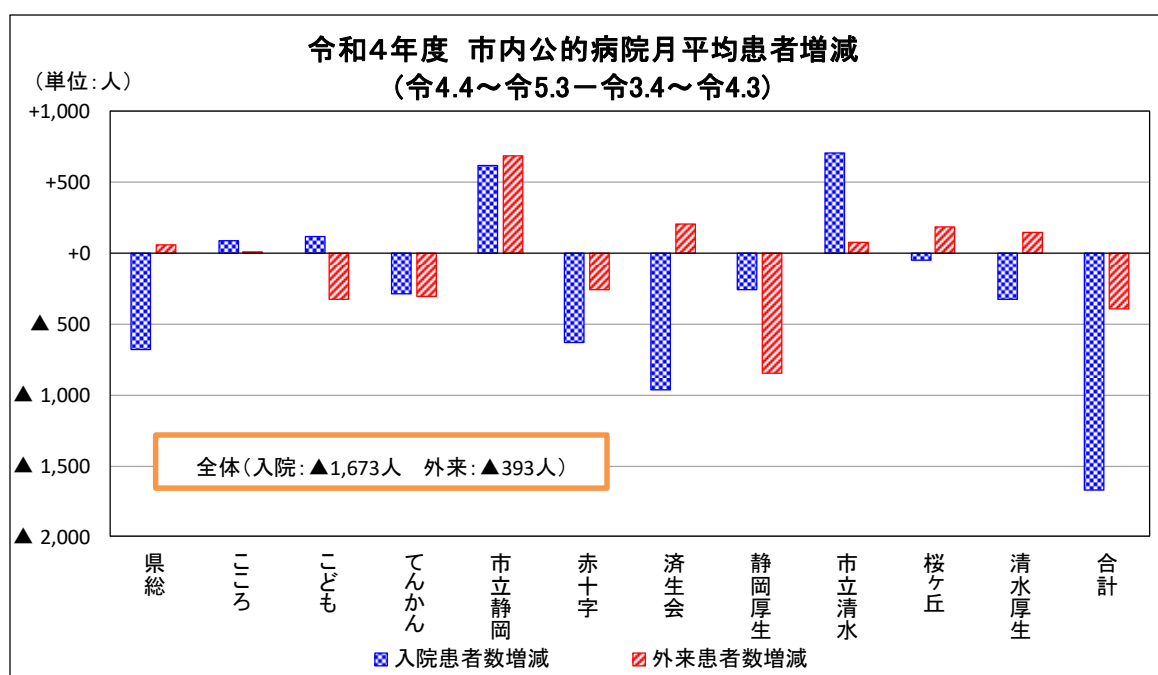
- ・ 令和4年度の入院延患者数は中期計画、年度計画を下回り、令和2年度・3年度実績も下回った。
- ・ 令和4年度の外来延患者数は中期計画、年度計画を下回り、3年度実績も下回った。

○市内公的病院患者動向（月平均延患者数：令4－令3 比較）

（単位：人）

<参考資料> 市内公的病院患者動向（月平均患者数：令4.4～令5.3－令3.4～令4.3比較）

区 分		県総	こころ	こども	てんかん	市立静岡	赤十字	済生会	静岡厚生	市立清水	桜ヶ丘	清水厚生	合計
入院	令4	16,601	4,190	5,656	8,245	12,740	11,564	12,769	5,021	10,058	3,750	3,079	93,673
	令3	17,283	4,108	5,540	8,529	12,124	12,192	13,734	5,280	9,356	3,800	3,401	95,346
	差	▲ 682	+82	+117	▲ 284	+615	▲ 628	▲ 965	▲ 259	+702	▲ 49	▲ 322	▲ 1,673
	率	▲ 3.9(%)	+2.0(%)	+2.1(%)	▲ 3.3(%)	+5.1(%)	▲ 5.1(%)	▲ 7.0(%)	▲ 4.9(%)	+7.5(%)	▲ 1.3(%)	▲ 9.5(%)	▲ 1.8(%)
外来	令4	37,981	3,063	9,808	2,680	21,255	16,226	21,764	6,763	14,327	5,079	7,073	146,020
	令3	37,921	3,058	10,140	2,989	20,574	16,489	21,556	7,612	14,255	4,895	6,924	146,413
	差	+60	+6	▲ 332	▲ 309	+681	▲ 263	+208	▲ 849	+72	+184	+149	▲ 393
	率	+0.2(%)	+0.2(%)	▲ 3.3(%)	▲ 10.3(%)	+3.3(%)	▲ 1.6(%)	+1.0(%)	▲ 11.1(%)	+0.5(%)	+3.8(%)	+2.1(%)	▲ 0.3(%)



- ・ 市内公的病院の入院延患者数は全体で1.8%の減少、外来延患者数は全体で0.3%の減少となった。

(ウ) 令和4年度収支(税込)

① 収益的収支(税込)

(単位: 千円)

区分	款	項	最終予算額 (計画)	決算額 (実績)	増減額 (達成度)	決算額 (前年度)	増減額 (前年比)
収益	営業 収益	医業収益	42,320,701	40,894,634	▲ 1,426,067	40,746,473	148,161
		運営費負担金収益	6,875,990	6,869,490	▲ 6,500	6,864,087	5,403
		その他営業収益	2,561,815	2,597,153	35,338	2,463,005	134,148
		小計	51,758,506	50,361,277	▲ 1,397,229	50,073,566	287,712
	営業外 収益	運営費負担金収益	124,010	130,510	6,500	135,913	▲ 5,403
		その他営業外収益	491,336	488,339	▲ 2,997	255,014	233,324
		小計	615,346	618,849	3,503	390,927	227,921
	臨時利益	臨時利益	368,606	34,780	▲ 333,826	52,376	▲ 17,596
	計		52,742,458	51,014,906	▲ 1,727,552	50,516,869	498,037
費用	営業 費用	医業費用	51,249,695	49,518,496	▲ 1,731,199	48,120,328	1,398,168
		一般管理費	391,434	360,444	▲ 30,990	383,200	▲ 22,756
		小計	51,641,129	49,878,940	▲ 1,762,189	48,503,528	1,375,412
	営業外 費用	財務費用	239,692	240,545	853	246,548	▲ 6,003
		その他営業外費用	446,597	352,077	▲ 94,520	366,338	▲ 14,261
		小計	686,289	592,622	▲ 93,667	612,886	▲ 20,264
	臨時損失	臨時損失	415,040	196,154	▲ 218,886	226,847	▲ 30,693
	計		52,742,458	50,667,716	▲ 2,074,742	49,343,261	1,324,455
経常利益		46,434	508,564	462,130	1,348,079	▲ 839,515	
当期純利益		0	347,191	347,191	1,173,608	▲ 826,417	

※単位未満四捨五入のため各項目の和と総計が一致しない場合がある(以下同様)。

- ・ 医業収益は、入院延患者数、外来延患者数が計画を下回ったため、計画を1,426,067千円下回った。
- ・ その他営業収益は空床補償等の新型コロナウイルス感染症関連補助金が交付され、計画を35,338千円上回った。
- ・ 営業費用は計画を1,762,189千円下回り、経常利益は計画を462,130千円上回る508,564千円となり、経常収支比率100%以上(101.0%)を達成した。

② 資本的収支年間(税込)

(単位: 千円)

区分	款	項	最終予算額 (計画)	決算額 (実績)	増減額 (達成度)	決算額 (前年度)	増減額 (前年比)
収入	資本収入	長 期 借 入 金	8,265,000	2,336,000	▲5,929,000	3,065,000	▲729,000
		長期貸付金回収額	-	41,905	41,905	48,000	▲6,095
		補助金・寄附金等	69,276	148,490	79,214	126,940	21,549
		計	8,334,276	2,526,395	▲5,807,881	3,239,940	▲713,546
支出	資本支出	建 設 改 良 費	10,937,650	2,657,239	▲8,280,411	3,738,821	▲1,081,581
		償 還 金	5,544,000	5,539,616	▲4,384	3,086,197	2,453,419
		長 期 貸 付 金	120,739	89,594	▲31,145	90,377	▲783
		計	16,602,389	8,286,449	▲8,315,940	6,915,394	1,371,055
総 収 支			▲8,268,113	▲5,760,054	2,508,059	▲3,675,454	▲2,084,600

- ・ 建設改良費は、3病院共通電子カルテシステムの整備が、半導体不足等の理由により令和5年度となったことなどから、計画を8,280,411千円下回る2,657,239千円となった。

(エ) 病院別収支

① 収益的収支年間(税込)

(単位: 千円)

款	項	総 合	こころ	こども	法人計
営業 収益	医 業 収 益	30,404,862	1,570,125	8,919,647	40,894,634
	運営費負担金収益	2,658,981	1,079,027	3,131,482	6,869,490
	そ の 他 営 業 収 益	1,751,656	112,039	733,458	2,597,153
	小 計	34,815,499	2,761,191	12,784,587	50,361,277
営業外 収益	運営費負担金収益	81,019	973	48,518	130,510
	そ の 他 営 業 外 収 益	446,514	7,334	34,491	488,339
	小 計	527,533	8,307	83,009	618,849
臨時利益	臨 時 利 益	34,780	0	0	34,780
収 益 計 (予 算 額 ※ < 計 画 >) (増 減 額)		35,377,812 (36,400,900) (▲ 1,023,088)	2,769,498 (2,864,868) (▲ 95,370)	12,867,596 (13,476,690) (▲ 609,094)	51,014,906 (52,742,458) (▲ 1,727,552)
営費 業用	医 業 費 用	34,504,922	2,529,945	12,483,629	49,518,496
	一 般 管 理 費	120,148	120,148	120,148	360,444
	小 計	34,625,069	2,650,093	12,603,777	49,878,940
営業外 費用	財 務 費 用	150,674	1,952	87,919	240,545
	そ の 他 営 業 外 費 用	239,727	14,065	98,284	352,077
	小 計	390,401	16,017	186,204	592,622
臨時損失	臨 時 損 失	127,295	491	68,368	196,154
費 用 計 (予 算 額 ※ < 計 画 >) (増 減 額)		35,142,765 (36,400,900) (▲ 1,258,135)	2,666,602 (2,864,868) (▲ 198,266)	12,858,349 (13,476,690) (▲ 618,341)	50,667,716 (52,742,458) (▲ 2,074,742)
経 常 利 益 (予 算 額 ※ < 計 画 >) (増 減 額)		327,561 (35,595) (291,966)	103,388 (3,924) (99,464)	77,615 (6,915) (70,700)	508,564 (46,434) (462,130)
当 期 純 損 益 (予 算 額 ※ < 計 画 >) (増 減 額)		235,047 (0) (235,047)	102,896 (0) (102,896)	9,248 (0) (9,248)	347,191 (0) (347,191)

- ・ 総合病院の経常利益は327,561千円で、計画を291,966千円上回った。
- ・ こころの医療センターの経常利益は103,388千円で、計画を99,464千円上回った。
- ・ こども病院の経常利益は77,615千円で、計画を70,700千円上回った。

② 資本的収支年間（税込）

（単位：千円）

款	項	総 合	こころ	こども	法人計
資本 収入	長 期 借 入 金	1,551,840	29,280	754,880	2,336,000
	長期貸付金回収額	26,458	2,714	12,733	41,905
	そ の 他 収 入	54,248	0	94,242	148,490
	計	1,632,546	31,994	861,855	2,526,395
資本 支出	建 設 改 良 費	1,675,727	35,277	946,235	2,657,239
	償 還 金	4,385,982	104,214	1,049,420	5,539,616
	長 期 貸 付 金	56,586	5,800	27,208	89,594
	計	6,118,295	145,291	2,022,863	8,286,449
総 収 支		▲ 4,485,749	▲ 113,297	▲ 1,161,009	▲ 5,760,054

- 令和4年度の建設改良費は2,657,239千円となった。その内訳は、3病院の器械備品等資産購入が1,780,135千円（A）、建設改良工事等が877,104千円（B）である。（A）の主なものとしては、総合病院のPET-CT装置の更新、こども病院のCT撮影装置の更新を行った。（B）の主なものとしては、総合病院で本館電気設備改修工事、第Ⅱ期リニューアル工事（精神科病棟改修工事）、3病院共通としてネットワーク機器の更新工事を行った。
- また、長期貸付金89,594千円は、看護師確保対策として、当機構に就職を希望する看護学生に対して修学資金の貸付を行っているほか、職員の育成及び資質向上等を目的に、職員に対し資格等の取得に必要な資金の貸付を行った。

（オ）決算指標年間＜3病院計＞（税込）

区 分	項 目	当初計画	見込	増減
収 支 構 造	経常収支比率（％）	100.1	101.0	+0.9
	医業収支比率（％）	85.8	82.6	▲3.3
収 入 構 造	病床稼働率（％）	88.9	80.7	▲8.2
	入院患者1人1日当たり単価（円）	82,410	84,182	+1,772
	外来患者1人1日当たり単価（円）	21,538	22,246	+708
費 用 構 造	職員給与費比率（％）	55.3	58.1	+2.8
	材料費比率（％）	33.3	36.2	+2.9

※ 患者1人1日当たり単価は、調定額ベースで算定。

※ 病床稼働率は、稼働病床（総合病院は結核病床を除く）で算定。

- 収支構造の各指標は、経常収支比率が計画を0.9ポイント上回る101.0%となった。また、医業収支比率は計画を3.3ポイント下回る82.6%となった。
- 収入構造では、入院単価は計画を1,772円上回り、外来単価は計画を708円上回った。
- 費用構造では、職員給与費比率は計画を2.8ポイント上回り、材料費比率は計画を2.9ポイント上回った。

【収支構造】

- ・ 経常収支比率 $\text{経常収益} \div \text{経常費用} \times 100$
病院が安定した経営を行うための財政基盤を確保するための指標で、適正な区分負担を前提として100%以上が望ましい。
- ・ 医業収支比率 $\text{医業収益} \div \text{医業費用} \times 100$
医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標で、100%以上が望ましい。

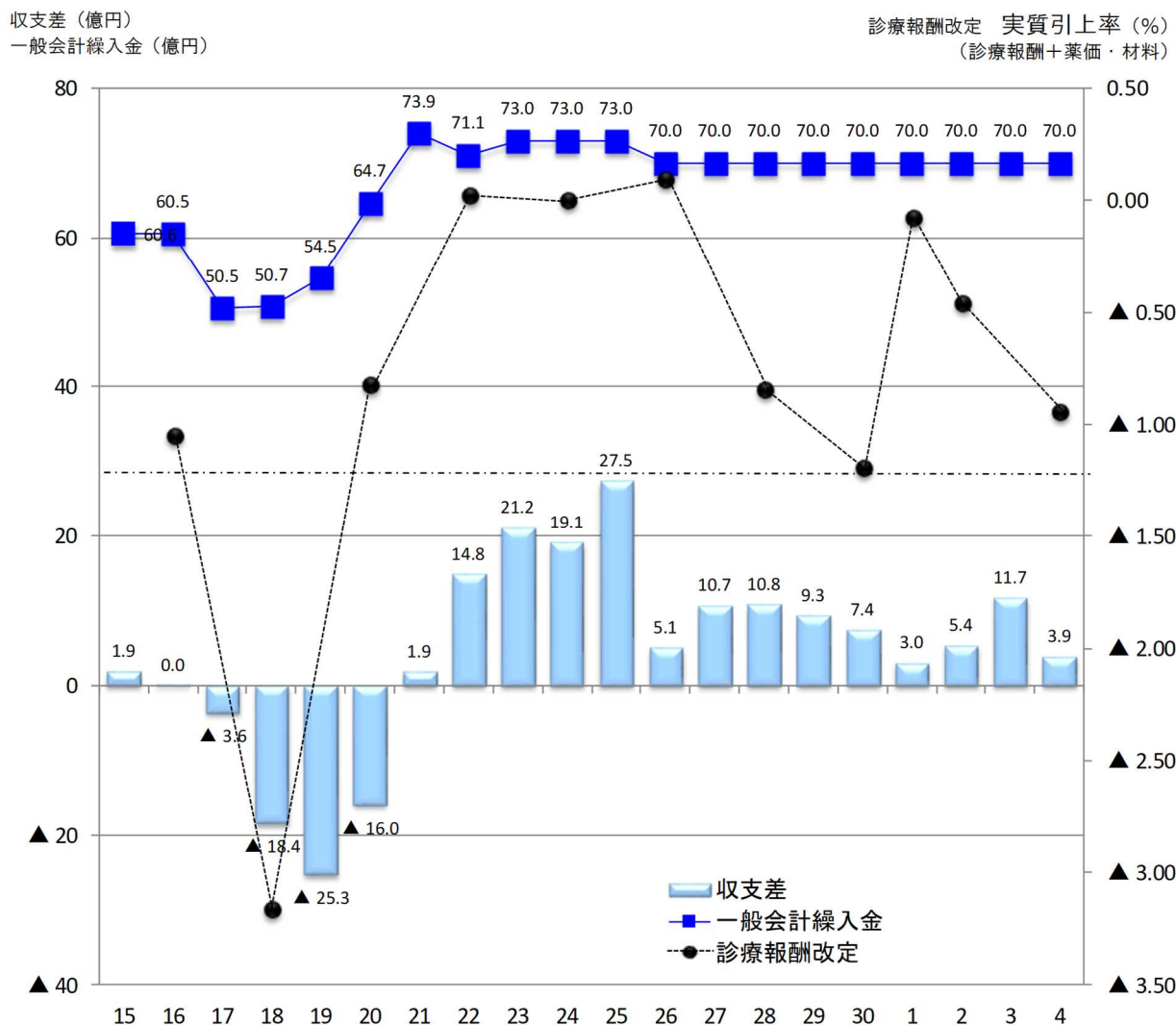
【収入構造】

- ・ 病床稼働率 $\text{年間延入院患者数} \div \text{年延病床数 (稼働病床} \times \text{歴日数)} \times 100$
病院の施設が有効に活用されているか判断する指標である。
- ・ 入院患者1人1日当たり単価 $\text{入院収益} \div \text{年延入院患者数}$
- ・ 外来患者1人1日当たり単価 $\text{外来収益} \div \text{年延外来患者数}$
病院の収入分析をするうえで基本的な指標。収入を増加させるため、患者数(量的要素)と1人当たりの収入(質的要素)が重要となる。

【費用構造】

- ・ 職員給与比率(職員給与費対医業収益比率) $\text{職員給与費} \div \text{医業収益} \times 100$
病院の職員数等が適正であるか判断する指標。職員給与費をいかに適切なものとするかが病院経営の重要なポイントである。
- ・ 材料費比率(材料費対医業収益比率) $\text{材料費} \div \text{医業収益} \times 100$
この比率が高い場合、材料費の購入価格(方法)を見直し、材料費の削減を図る必要がある。(薬品・診療材料・その他)

(力) 決算状況の推移 (収支と繰入金(県負担金)・診療報酬の改定) (3病院計)



- ※ 平成17年度から平成19年度までは繰入金10億円を抑制(県財政事情を勘案)。
- ※ 平成21年度から地方独立行政法人へ移行したため、一般会計繰入金は運営費負担金に名称変更。
- ※ 平成24年度の診療報酬改定率は薬価部分を市場価格の下落を反映して1.375%引き下げ一方、医師の診療行為や入院料などの本体部分は1.379%引き上げた結果、実質的な改定率は+0.004%となった。
- ※ 平成26年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定を0.63%引き下げ一方、本体部分を0.73%引き上げた結果、全体改定率は+0.10%となった。(消費税率引上げ対応分を除いた実質改定率は▲1.26%)
- ※ 平成28年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定をそれぞれ1.22%、0.11%引き下げ一方、本体部分を0.49%引き上げた結果、全体改定率は▲0.84%となった。
- ※ 平成30年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定をそれぞれ1.65%、0.09%引き下げ一方、本体部分を0.55%引き上げた結果、全体改定率は▲1.19%となった。
- ※ 令和元年10月の診療報酬改定率は、薬価の改定を0.51%引き下げ、材料価格の改定を0.03%引上げ、本体部分を0.41%引き上げた結果、全体改定率は▲0.07%となった。
- ※ 令和2年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定をそれぞれ0.99%、0.02%引き下げ一方、本体部分を0.55%引き上げた結果、全体改定率は▲0.46%となった。
- ※ 令和4年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定をそれぞれ1.35%、0.02%引き下げ一方、本体部分を0.43%引き上げた結果、全体改定率は▲0.94%となった。

(キ) 職員の状況 (各年度4月1日現在)

① 正規職員

(単位：人)

区分	総 合		こころ		こども		本 部		計	
	令4	令5	令4	令5	令4	令5	令4	令5	令4	令5
医師	195	202	13	14	99	106	-	-	307	322
歯科医師	6	5	-	-	2	2	-	-	8	7
看護師	837	847	122	127	436	432	3	2	1,398	1,408
看護師	835	845	122	127	436	432	3	2	1,396	1,406
准看護師	2	2	-	-	-	-	-	-	2	2
医療技術	255	260	27	27	86	85	1	1	369	373
研究員	1	1	-	-	-	-	-	-	1	1
事務	65	65	14	14	27	27	34	33	140	139
計	1,359	1,380	182	182	650	652	38	36	2,223	2,250

※ アソシエイトを含む。

② 有期職員

(単位：人)

区分	総 合		こころ		こども		本 部		計	
	令4	令5	令4	令5	令4	令5	令4	令5	令4	令5
医師	110	104	11	7	44	40	-	-	165	151
歯科医師	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
看護師	60	69	8	7	15	16	-	-	83	92
看護師	60	69	8	7	14	15	-	-	82	91
准看護師	-	-	-	-	1	1	-	-	1	1
医療技術	27	30	4	3	21	20	-	-	52	53
研究員	1	1	-	-	-	-	-	-	1	1
事務	160	165	14	13	55	54	3	3	232	235
補助職員	85	92	9	10	26	22	1	1	121	125
計	443	462	46	40	162	153	4	4	654	656

※ 補助職員：看護助手、薬剤助手、放射線助手、検査助手等 ※短期間特別研修医は含まない。

(ク) 令和5年度職員の採用状況 (令和4年度採用試験実施状況) (令和5年3月末現在)

- 看護師の採用については、定期募集を年3回、経験者募集を年10回計画し、募集を行っている。
きめ細やかな対策を迅速に実施することができ、看護師採用数の確保につながった。
- 人材確保のため、県内の養成校への訪問や修学資金の貸与、県内コンビニ、ショッピングモールへの看護師募集ポスター掲示を実施し、必要な看護師を採用している。(平28 136人、平29 113人、平30 113人、令元 123人、令2 102人、令3 113人、令4 116)
- また、看護学生向けに就職情報を提供する民間事業者が開催する合同就職説明会への参加や就職情報サイトへの情報掲載等を積極的に行うと伴に、看護師就職説明会において、看護学生を集めるために説明会出展の周知メールの送信、当日は、看板等の設置やノベルティの配布を行った。
- 医療技術については28人(薬剤師3人(一般2人、経験者1人)、診療放射線技師5人(一般)、臨床検査技師5人(一般)、臨床工学技師4人(一般)、理学療法士3人(一般2人、経験者1人)、作業療法士1人(一般)、視能訓練士2人(一般1人、経験者1人)、言語聴覚アソシエイト1人(一般)、医療ソーシャルワーカー1人(一般)、精神保健福祉士1人(経験者)、心理療法士1人(経験者)、遺伝カウンセラー1人)を確保した。
- 事務については、正規職員4人を確保した。

令和4年度採用試験実施状況

(単位：人)

区 分	令4試験実施 【令5採用】	令3試験実施 【令4採用】	差 引
看 護 師	116	113	3
事 務	4	3	1
医 療 技 術	28	18	10
計	148	134	14

※前倒し採用は試験実施年度に集計。

令和4～5年度職員数の推移

(単位：人)

区 分		令4.4.1 現員数 a	4年度中 採用者数 b	4年度中退職者数 C	うち令5.3.31 退職者数 d	令5.3.31 現員数 e=a+b-c+d	令5.4.1 採用者数 f	令5.4.1 現員数 g=e-d+f
医 師	正 規	315	14	44	30	315	44	329
	有 期	165	22	184	153	156	148	151
	計	480	36	228	183	471	192	480
看 護 師		1,398	6	108	61	1,357	112	1,408
医 療 技 術		369	-	23	13	359	27	373
研 究 員		1	-	-	-	1	-	1
事 務		140	3	25	17	135	21	139
	うちプロパー	85	2	7	2	82	6	86
計		2,388	45	384	274	2,323	352	2,401

※アソシエイトを含む(令4 看護10人、医療技術12人、事務21人 令5 看護10人、医療技術13人、事務19人)

※正規医師には、歯科医師、自治医初期研修医、へき地代診医師を含む

※有期医師の契約は1年更新、短期間特別研修医は除く

(ケ) 補助職員（医療秘書、助手等）の配置状況（各年度4月1日現在）

(単位：人)

区分		平30	令元	令2	令3	令4	令5
総合	医師事務補助	71	70	76	72	72	70
	看護助手	66	61	58	56	58	59
	コメディカル助手	22	20	23	26	28	27
	小計	159	151	157	154	158	156
こころ	医師事務補助	2	2	1	2	1	1
	看護助手	8	9	9	9	9	7
	コメディカル助手	2	2	2	2	2	2
	小計	13	13	12	12	12	10
こども	医師事務補助	19	20	19	20	18	18
	看護助手	25	22	21	21	21	20
	コメディカル助手	5	6	8	6	6	5
	小計	49	48	48	47	45	43
合計	医師事務補助	92	92	96	94	91	89
	看護助手	99	92	88	86	88	86
	コメディカル助手	29	28	33	34	36	34
	合計	220	212	217	214	215	209

(2) 総合病院

<理 念>

「信頼し安心できる質の高い全人的医療を行います」

全人的医療：身体、精神、心理、生活様式などを含めた総合的な視点から、患者さん自身の全体的な健康回復を目指す医療

<基本方針>

- 1 医療を受ける人々の立場に立ち、説明に基づく心のこもった医療を行います。
- 2 県内の中核病院として高度医療や先進的医療に取り組み、地域医療を支援します。
- 3 救急医療、災害医療、へき地医療、結核医療などの政策医療を積極的に担います。
- 4 将来の医療を担う質の高い人材を育成します。
- 5 快適な職場環境の整備と透明性の高い健全な病院運営に努めます。

<総 括>

総合病院は、県内医療機関の中核的病院として、各疾患の総合的な医療をはじめ、3大疾患（循環器疾患、脳疾患、がん疾患）に対する高度・専門医療や救急・急性期医療を提供している。

先端医学棟、循環器病センター等における最新の設備と医療機器を最大限に活用し、循環器疾患、脳疾患に対する高度・専門医療、がん疾患に対する集学的治療及び終末期医療、高度救命救急センターとしての救急医療を主要事業の三本柱として取り組んでいる。

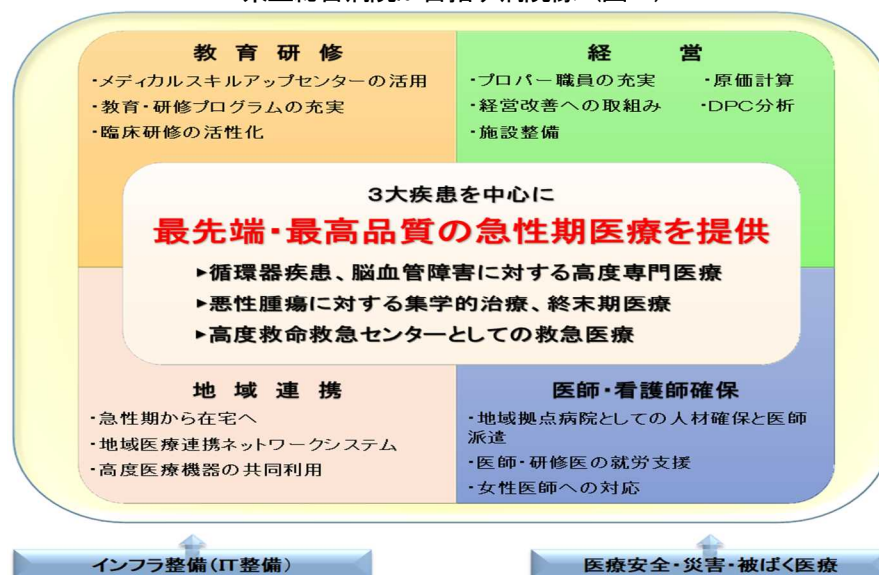
また、県内の中核的病院として、高度・専門・特殊医療を提供するため、紹介・逆紹介の推進による地域の医療機関との機能分化及び連携強化に努めている。

経営面においては、医療の高度化、手術件数増加に伴う診療材料費の増加や、化学療法実施件数増加に伴う薬品費の増加（がん治療薬：オプジーボ、キイトルーダ、テセントリク、等）に対応するため、施設基準の積極的な取得の他、平均在院日数の短縮、集中治療系病棟（ERHCU、ICU、HCU）の稼働率向上や入院料加算算定件数の増加、各診療科の稼働状況にあわせた病床再編等の経営改善に取り組んでいる。

令和4年度は、外来延患者数については前年度を上回った。また、入院延患者数については、コロナ病床を常時確保したことなどにより前年度を下回った。入院単価、外来単価については、高度で専門的な医療の提供と、適切なベッドコントロールに努めており、前年度の単価を上回った。

今後も県立総合病院が目指す病院像（図1）のとおりに、県立病院としての役割を果たすべく、各種機能の強化に努める。

県立総合病院が目指す病院像（図1）



(3) こころの医療センター

<理 念>

安全・良質・優しいこころの医療を、いつでもどこでも誰にでも

<基本方針>

- 1 患者さんの人権と尊厳を守ります。
- 2 24時間365日、精神科救急医療を提供します。
- 3 最新の知識と技術を取り入れた高度専門医療を提供します。
- 4 手厚いチーム医療によって早期退院を目指します。
- 5 在宅医療とリハビリテーション、社会参加を支援します。
- 6 社会資源を開拓し、連携を強化します。
- 7 司法精神医療、災害医療などの公益医療に主体的に参加します。
- 8 社会人・組織人・医療人としての人材育成に努めます。
- 9 広い視野に立って研鑽を重ね、積極的に社会へ情報発信します。
- 10 健全で透明性の高い病院経営を目指します。

<総 括>

こころの医療センターでは、日本トップレベルの「精神科救急・急性期医療」を提供するため、「救急・急性期医療の充実」、「在宅医療の拡充」、「高度な医療技術の導入」及び「司法精神医療の充実」を重点的に推進し、目標とする精神科医療の体制整備（図2参照）に取り組んでいる。

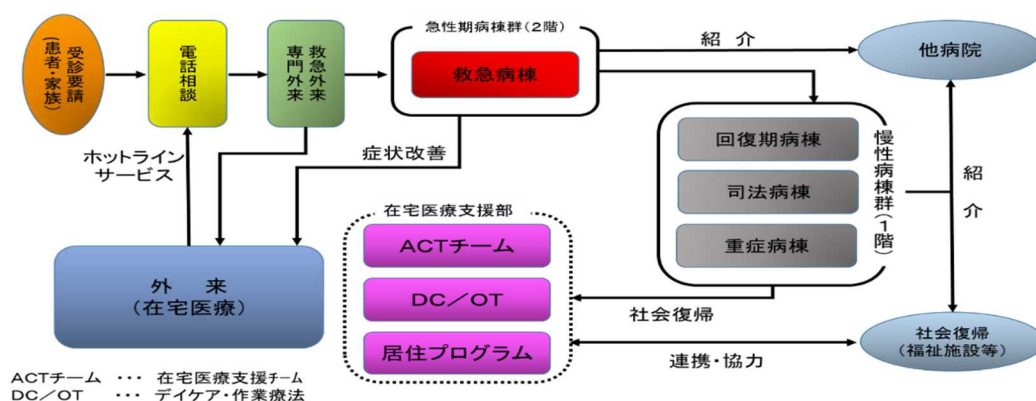
平成22年度より急性期病棟群（救急及び急性期病棟）を中心に救急・急性期患者の受け入れを行い、それを後方的に支援する慢性病棟群（回復期及び慢性重症病棟）との機能分化を進め、平成25年度には急性期病棟を救急病棟に移行する等、診療体制を強化した。平成28年度及び平成30年度に南1病棟の一部個室化を進め、救急病棟、回復期病棟における病棟間の連携強化を図り、効率的な病棟運営に努めている。

一方、精神科における医療は、「入院医療中心から地域生活中心へ」という方針が世界的趨勢であることから、在宅医療支援部門を強化し、多職種チームによる地域生活での支援体制の整備と長期入院者の退院促進に取り組んでいる。

あわせて、退院後の安定的な生活を維持し、再入院を防止することを目的に、患者に対する心理・社会的治療に積極的に取り組んでいる。

また、先端薬物療法（クロザピン）や修正型電気けいれん療法（m-ECT）など、高度な医療の導入に積極的に取り組むとともに、医療観察法指定入院医療機関として安定した運営を継続するなど、県内精神医療の中核病院としての役割を果たすべく取り組んでいる。

こころの医療センター診療体制（図2）



(4) こども病院

<理 念>

「私たちは、すべての子どもと家族のために、安心と信頼の医療を行います。」

<基本方針>

「患者中心の医療サービスの継続」

「地域の医療機関と連携し、診断・治療が困難なこどもの患者へ
質の高い効果的な医療を提供」

こども病院が目指す方向 (図3)

- | | |
|------------|--------------------|
| 1 専 門 病 院 | 安全を重視した質の高い医療 |
| 2 教 育 | 教育内容の充実が最大目標の一つ |
| 3 地 域 連 携 | 相互支援に基づいた地域医療連携 |
| 4 効率的な病院経営 | 独善に陥らない標準的な経営と改善努力 |
| 5 働きやすい病院 | スタッフの満足度が高い労働環境 |

*平成24年4月改定



<総 括>

こども病院は、昭和52年度の開院以来、静岡県の地域医療、小児医療に貢献するという設立趣旨に則り、高度かつ先進的な医療を実践している。

現在では、県内小児医療の中核病院として、循環器疾患医療、小児救急医療、周産期医療、小児がん医療、児童精神科医療を中心に、すべての小児の健康問題に対応可能な小児専門総合医療施設として、質の高い医療を県民に提供している。

また、平成31年4月1日付けで、これまでの小児がん医療への取組により、厚生労働省から全国15施設の小児がん拠点病院の1つとして新たに指定（令和5年4月1日に指定更新）された。拠点病院として、診療体制の整備、地域医療機関との連携、移行期医療への対応などさらなる機能強化を進めている。令和4年度には、前年度に整備した設備（クリーン度アップをした個室等）の活用を図っている。

令和2年度には、静岡県からの受託により「移行期医療支援センター」を設置し、全国的に課題となっている成人移行患者への支援について取り組んできた。令和4年度は移行期医療推進協議会を立ち上げるとともに、移行先となり得る医療機関連携マップの作成を目指し調査を開始した。

令和4年4月には、こども家庭庁の事業の柱のひとつでもある小児虐待に対応するため、静岡県から「児童虐待早期発見医療体制整備事業」を受託し、相談窓口の設置や教育研修など地域の医療機関、児童相談所等を支援している。

3 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1) 医療の提供

ア 総合病院

○ 業務実績を示す各種指標

- ・ 入院延患者数及び病床稼働率は、病棟の一部を新型コロナウイルス感染症専門病棟として運用したことや平均在院日数の短縮等の影響により計画値を下回ったが、入院単価については計画値を上回った。
- ・ 外来延患者数、外来単価については、共に計画値を上回った。
- ・ 入院単価の主な増加要因は、高度で専門的な医療の提供と、適切なベッドコントロールに努め、DPC医療機関係数が増加したことで、単価の上昇につなげたことによる。

また、外来単価の増加要因は、外来化学療法件数の増加、高額薬剤（がん治療薬：オプジーボ、キイトルーダ、テセントリク等）の使用等、高度医療に取り組んだ効果によるものである。

令和4年度 業務量及び単価等年間

区分				年度計画	年間実績	増減	達成率(%)
入院	一般病床	入院延患者数	(人)	220,025	195,950	▲24,075	89.1
		病床稼働率	(%)	90.0	81.6	▲9.5	89.6
		平均在院日数	(日)		11.2		
	結核病床	入院延患者数	(人)	4,953	3,260	▲1,693	65.8
		病床稼働率	(%)	27.1	17.9	▲9.2	66.1
		平均在院日数	(日)		61.6		
	患者1人1日当たり単価		(円)	90,887	92,523	+1,636	101.8
外来	外来延患者数		(人)	454,534	455,776	+1,242	100.3
	患者1人1日当たり単価		(円)	24,519	25,151	+632	102.6

※患者1人1日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。病床稼働率は入院延患者数÷稼働病床数で算定。

- ・ 紹介率及び逆紹介率は計画値を上回った。今後も病診・病病連携の推進に努める。

令和4年度 紹介率・逆紹介率年間

(単位：%)

区 分	年度計画	年間実績	増 減
紹 介 率	90 以上	91.3	+1.3
逆 紹 介 率	175 以上	188.2	+13.2

※紹介率・逆紹介率の算定方法は、用語解説を参照。

- ・ 医療の提供については、循環器疾患及び、脳疾患に対する高度・専門医療、がん疾患に対する集学的治療及び終末期医療、高度救命救急センターとしての救急医療を主要事業の三本柱として重点的に取り組んでおり、令和3年3月の厚生労働省告示により、全国1,764のDPC病院の中で、引き続きDPC特定病院群（全国181病院が指定）を維持し、大学病院本院群と同等の高度医療及び医師研修を実施する病院として認められた。（県内では総合病院を含め6病院）
- ・ 循環器疾患、脳疾患に対する医療については、先端医学棟3階に設置したCT・MRI・血管造影の3種類のハイブリッド手術室を活用し、最新の治療器材と鮮明な画像診断により、経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）、ステントグラフト内挿術、経皮的僧帽弁接合不全修復術（MitraClip）等の低侵襲で高度な手術を実施している。特に、心臓血管外科では、認定機関としてダ・ヴィンチ使用手術（僧帽弁形成術）を実施している。
- ・ がん疾患に対する医療については、手術、化学療法、放射線治療等を効果的に組み合わせた高度な集学的治療を実施しており、静岡医療圏における地域がん診療連携拠点病院である当院に対して症例が集約化されている。
手術は、先端医学棟3階、4階に設置したハイブリッド手術室、内視鏡手術室、ロボット支援手術室を含む23室の手術室を効率的に運用し、手術件数を着実に伸ばしている。放射線治療は、先端医学棟1階に設置したリニアック3台を稼働し、強度変調回転放射線治療（VMAT）や脳定位放射線治療、体幹部定位放射線治療等の高精度な放射線治療を実施している。化学療法は、リニューアル整備した外来化学療法センターにおいて、がん専門資格を有する腫瘍内科を始めとする医師、看護師、薬剤師等が連携し、安全かつ適切な治療を行っている。
また、緩和ケアセンター（緩和ケアチーム）では、がん患者に対して適切な緩和医療を提供する他、地域の医療機関等との定期的なカンファレンスを通じて連携強化に取り組んでいる。
- ・ 救急医療については、高度救命救急センターとして重症熱傷、重症外傷、急性中毒等の重篤な救急患者の受入を行っている。また、ドクターカーを活用し、救命救急センターのスタッフが災害や事故の現場に急行又は搬送途中の救急車とドッキングして治療を開始することにより、救命率の向上に繋がっている。
- ・ 令和4年度も、新型コロナウイルス感染症に係る院内検査及び患者受入体制の充実に努めた。
特に、新型コロナウイルス第8波の拡大により、令和4年12月以降は最大24床（本館6階24床）を確保していたが、それを大きく上回る患者を受け入れることとなった。また、院内におけるVREの感染に対処するため、6月にVRE病棟を開設し、感染対策に努めた。
- ・ 結核病棟については、結核病床を有する病院の多くが新型コロナウイルス感染症病床へ切り替える状況だが、総合病院においては50床を維持し、県内における結核患者の8割以上を受入可能な体制を整えている。
- ・ 令和4年9月に先端医学棟2階で火災が発生したが、病理学部門を仮移設し、診療を継続している。同年11月から解体工事に着手し、令和5年9月末に復旧工事を終える予定であり、被害及び復旧に要する費用は保険で充当される予定ため、経営への影響も少ない見込である。
- ・ 施設整備については、無菌病棟が本館3C（旧手術室）へ移設したため、跡地（本館4D）を精神科病棟へ改修する工事を行い、令和5年4月から運用を開始した。

【精神科病棟改修工事】

病状対応型フレキシブル個室	廊下
 A photograph of a hospital room. It features a white hospital bed with a metal frame and wheels, positioned against a light-colored wall. A doorway is visible in the background, leading to another room. The floor is made of light-colored wood.	 A photograph of a long, modern hospital corridor. The floor is dark brown with a white square tile in the center. The walls are white with a long, narrow light fixture running along the top. On the right side, there are large glass windows looking out onto a bright area. On the left, there are several white doors and a small white cabinet.
スタッフステーション	デイルーム
 A photograph of a staff station. It is a room with various medical equipment, including a large white machine with a screen, a sink, and several chairs. The room has large windows on the right side, providing natural light. The floor is light-colored.	 A photograph of a bright, modern lounge area. It features two round wooden tables with blue chairs. The room has large windows on the right side, providing a view of the outside. The floor is made of light-colored wood, and the walls are white.

イ こころの医療センター

○ 業務実績を示す各種指標

- 入院については、延患者数及び病床稼働率は計画値を下回ったが、患者1人1日当たり単価は計画値を上回った。
- 外来については、延患者数、患者1人1日当たり単価ともに、計画値を下回った。

令和4年度 業務量及び単価等年間

区 分		年度計画	年間実績	増減	達成率(%)
入 院	入 院 延 患 者 数 (人)	54,546	50,282	▲4,264	92.2
	入院患者1人1日当たり単価 (円)	25,239	26,279	+1,040	104.1
	平 均 在 院 日 数 (日)		104.5		
	病 床 稼 働 率 (%)	86.9	80.1	▲6.8	92.2
外 来	外 来 延 患 者 数 (人)	39,975	36,761	▲3,212	92.0
	外来患者1人1日当たり単価 (円)	6,514	6,359	▲155	97.6

※ 患者1人1日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。平均在院日数は、医療観察法病床を除いて算定。病床稼働率は入院延患者数÷稼働病床数で算定。

- 紹介率及び逆紹介率は、いずれも計画値を下回った。
地域の医療機関や行政機関と協働し紹介率や逆紹介率の向上に努めていく。

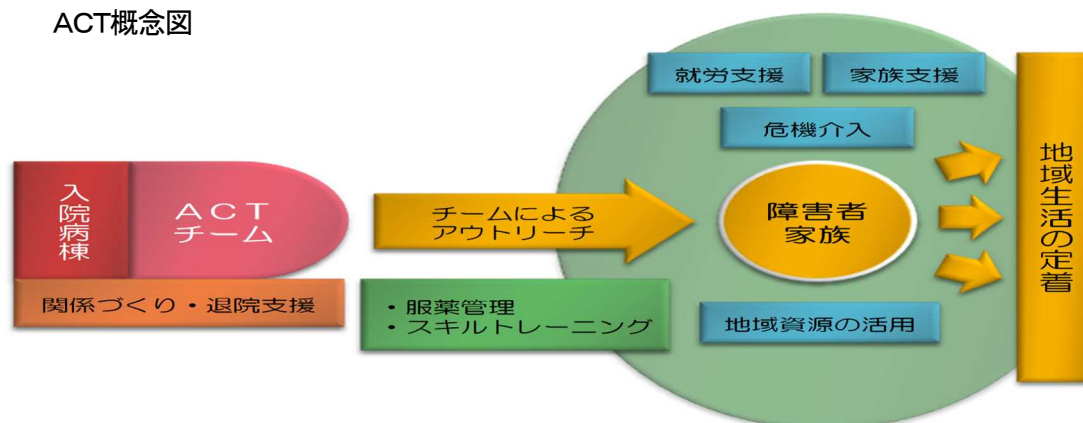
令和4年度 紹介率・逆紹介率年間見込

(単位：%)

区 分	年度計画	年間実績	増 減
紹 介 率	57.0	53.6	▲3.4
逆 紹 介 率	30.0	26.9	▲3.1

- 救急・急性期を中心とした診療体制の整備を図るとともに、包括的在宅医療支援体制モデルの構築や精神科救急相談体制の整備など、退院後の在宅支援を行うシステムを構築することで、「早期に集中的治療を行い、早期に社会復帰する」という体制づくりを進めている。
- 先端薬物療法(クロザピン)や高度な治療法である修正型電気けいれん療法(m-ECT)の実施など、医療水準の向上と重症患者の病状改善に積極的に取り組んだ。
- 退院後の安定した地域生活の維持、再入院の防止に向け、心理・社会的治療の一環として、患者に対する心理教育・家族教室に積極的に取り組んだ。
- 包括的在宅ケア(ACCT)チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活支援モデルの構築を進めた。

ACT概念図



- ・ 県内唯一の医療観察法指定入院医療機関として本県及び他県関係の入院処遇対象者を受け入れており、機能の充実を図り、地域完結型の医療環境の形成を進めている。
- ・ 新型コロナウイルス感染症については、県の要請により病床を4床（うち2床をスタッフ用）整備しており、令和4年度は6人の患者を受入れた。
- ・ 病院での面会に制限がある場合においても患者とその家族等を繋ぐことが出来るよう、オンラインによる「面会」を可能にする体制を整備し、実施している。

ウ こども病院

○ 業務実績を示す各種指標

- ・ 入院については、延患者数は計画を下回ったが、単価は計画を上回った。
- ・ 外来については、延患者数・単価ともに計画を上回った。

令和4年度 業務量及び単価等年間

区 分		年度計画	年間実績	増減	達成率(%)
入 院	入 院 延 患 者 数 (人)	75,948	67,877	▲8,071	89.4
	入院患者1人1日当たり単価 (円)	98,359	102,596	+4,237	104.3
	平 均 在 院 日 数 (日)		8.2		
	病 床 稼 働 率 (%)	84.6	75.9	▲8.7	89.7
外 来	外 来 延 患 者 数 (人)	116,867	117,697	+830	100.7
	外来患者1人1日当たり単価 (円)	15,081	15,957	+876	105.8

※患者1人1日当たり単価は、税込金額（調定額ベースで算定）。平均在院日数は、NICU、GCU、MFICU、PICU、精神科、短期滞在を除いて算定。病床稼働率は入院延患者数÷稼働病床数で算定。

- ・ 紹介率は計画を下回ったが、逆紹介率は計画を上回った。今後とも病診連携や病病連携を推進していく。

令和4年度 紹介率・逆紹介率年間

(単位：%)

区 分	年度計画	年間実績	増減
紹 介 率	94.0	91.1	▲ 2.9
逆 紹 介 率	53.0	61.4	+ 8.4

- ・ 循環器科、心臓血管外科を中心とした連携による診療、カテーテル治療や遠隔エコー診断等の先進的治療など、循環器疾患に対する高度先進的医療の提供に努めた。
- ・ 総合周産期母子医療センターの指定を受け周産期医療の中核を担い、ハイリスク胎児・妊婦、新生児に高度な先進的治療を提供した。
- ・ これまでの小児がん医療への取組が評価され、平成31年4月に厚生労働省から全国15施設の小児がん拠点病院の1つとして指定（令和5年4月1日に指定更新）されており、小児がん相談室の設置等により体制整備に努めている。令和4年度には、3年度に整備した病棟のWi-Fi環境を活用し、入院中の高校生小児がん患者へのオンライン学習支援を本格的に開始した。オンライン学習支援と県教育委員会による方針決定・運用により、留年や通信制の高校に編入することなく、高校卒業が可能になった。
- ・ 令和元年12月には、がんゲノム医療連携病院となり、がん診療におけるゲノム検査を実施している。
- ・ 小児救命救急センターの指定を受けており、令和3年6月のICUの統合後に心臓重症患者の受入を開始した小児集中治療センター（PICU）と、小児救急センター（ER）を中心に、24時間365日を通して、2次・3次救急患者を中心に多くの小児救急患者を受け入れた。
- ・ こころの診療科では、小児専門病院内に設置され、開放・閉鎖の2つの病棟を有していることから、多くの患者を受け入れた。また、厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に参画し、ネットワーク構築のため医療機関、学校、地域等との連携強化に努める等、県内の児童精神科医療における中核的な機能を発揮している。
- ・ 新型コロナウイルス感染症への対応については、県から重点医療機関に指定されており、最大で34床（PICU2床、NICU1床、MFICU1床、北4病棟28床、CCU2床）の受入れ体制を確保したほか、県内医療機関から感染症患者受入の相談に対応するなど、小児感染症対応の最後の砦としての役割を担った。
- ・ 令和5年3月には、CT装置を更新し、撮影画像がより鮮明になった。また、低線量での撮影が可能となり、放射線感受性が高い小児患者の治療負担の軽減を図っている。
- ・ 令和5年3月には、ガンマカメラ装置を更新し、より鮮明な画像の撮影が可能となった。

救急の体制



ドクターヘリ



ドクターカー



小児救急センター

北5病棟



AYAラウンジ



クリーン病室



クリーンエリア

医療の高度化に対応した器械整備



リニアック装置



アンギオ装置



CT装置



ガンマカメラ装置

(2) 医療従事者の確保及び質の向上

ア 総合病院

- ・ 医療技術者の研修については、研修医の海外研修への派遣や看護師の認定看護師研修への派遣、県立大学との共同研究等により、県立病院に相応しい医療技術者の育成に努めている。
また、先端医学棟稼働に伴い、循環器病センター6階から先端医学棟2階へ拡張移転したメディカルスキルアップセンターにおいては、模擬病室の設置や各種高度なシミュレーターの導入により、院内外の多くの医療従事者に利用されており、医療の質の向上に寄与している。
- ・ 国際交流では、友好協力協定及び覚書を締結している中国浙江省の7医院からこれまでに研修生延べ85人（うち医師61人）を受け入れている。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修生の相互派遣等の往来を伴う交流は実施できなかったが、令和4年3月には静岡県社会健康医学大学院大学の開学式において浙江省衛生健康委員会をはじめとする関係医療機関の幹部を紹介した他、4月には浙江大学医学院附属邵逸夫医院の新棟竣工式に田中理事長よりビデオ祝辞を送付した。また、6月には、静岡県立病院機構及び総合病院の新体制を紹介する目的で、浙江省衛生健康委員会とWEB会談を実施した

イ こころの医療センター

- ・ 医療技術者の研修については、認定看護師研修の派遣等、精神医療の向上に資する人材の育成に努めている。特に認定看護師については、5名の精神科認定看護師等が在籍し、医療の質の向上に貢献している。

ウ こども病院

- ・ セミナーや研修会を定期的を開催するとともに、認定看護師研修等に職員を積極的に派遣するなど、院内外の研修会等を通じて病院全体の医療技術の向上に努めた。
- ・ 国際交流においては、友好協力協定を締結しているマレーシア国立循環器病センターとの間で診療支援を行った。令和5年1月には、マレーシア国立循環器病センターからインドネシア国籍の重症先天性心疾患児を受け入れ、高度な手術・術後管理を行い、3月には元気に退院いただくことができた。同センターや、同じく友好協力協定を締結している浙江大学医学院附属儿童医院、深セン市小児病院との間の医師・看護師の研修派遣・受入れ等については、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響で中止している。
- ・ 院内保育所において、二重保育等の保育サービスに対応している。
- ・ 始業、終業時にBGM（癒やしの音楽）を放送し、職員のストレスを軽減を図った。

(3) 医療に関する調査及び研究

- ・ リサーチサポートセンターを活用した研究に取り組んでおり、令和4年度における文部科学省科学研究費の応募・採択状況は、応募件数2件、採択件数1件で研究費3,250千円を受入れている
- ・ 静岡社会健康医学大学院大学との連携も引続き強化しており、難聴児の介入効果など3件の共同研究を行ったほか、令和5年度の修学に向けて博士前期課程に1名、新たに設置される「博士後期課程」に1名の修学候補者を選定した。
- ・ リサーチサポートセンターのきこえとことばのセンター（静岡県乳幼児聴覚支援センター）では、令和3年10月にNTTコミュニケーション科学基礎研究所と音声知覚・言語発達のメカニズムを解明することを目的に締結した協定により共同研究を実施しているほか、言語聴覚士を増員し療育面でも聴覚障害児の支援をしている。令和4年度には、これまでの研究成果などを活かし、静岡社会健康医学大学院大学における全国初の「聴覚・言語コース」の認可に貢献している。
- ・ 効率的な病院運営のため、診療情報（DPCデータ）に基づく症例分析を行い、医局会においてDPC入院期間Ⅱ以内での退院状況や副傷病名の付与率向上等に係る説明と協力依頼により、平均在院日数の短縮や

DPCコーディングの適正化に取り組んでいる。

【医学研究奨励の内訳】 令和4年度

病 院	研 究 課 題	部 署	構成人数
総 合	EMT 阻害による Claudin-low 乳癌の活性化シグナル伝達経路の同定	乳腺外科	1
	結腸癌に対するロボット支援下腹腔鏡下手術の有用性	大腸外科	6
	SGLT2 阻害薬による尿糖排泄量と腎疾患患者の臨床的特徴との関連	腎臓内科	12
	神経症・うつ状態を有する喫煙者の禁煙治療における抑肝散の効果に関する二重盲検無作為化比較試験	臨床研究部	4
	胃切除術後合併症に対する予防・治療としてのポリグリコール酸(PGA)シートの有用性の検討	消化器外科	7
	性腺機能低下症例における末梢血キスペプチンとオキシトシン濃度の生理的意義の検討	糖尿病・内分泌内科	12
	閉塞性黄疸を伴う切除企図膵癌に対する 8mm 径被覆型メタリックステント留置の安全性と有効性に関する前向き観察研究	肝胆膵内科	5
	急性期病院の入院患者における院内転倒を予測する予測因子の同定とその予測モデル開発のための後ろ向きコホート研究	看護部外来東	8
	重症多発外傷に対する REBOA の有効性、JTDB の観点から	救命救急科	1
	糖尿病患者における脆弱性骨折の実態調査	糖尿病・内分泌内科	3
	MR elastography による中枢神経疾患の弾性率の臨床的有用性確立と病態解明	放射線科	6
	ARMC5 遺伝子異常症の病態解明	リサーチサポートセンター	1
	禁煙補助薬を使用したニコチン依存症管理料算定患者における禁煙成功の要因	看護部 6D 病棟	3
	心臓手術患者における炎症と活動量低下による筋萎縮のメカニズム解明と身体機能の関係性	リハビリテーション科	5
	ヒドロコルチゾン含有オキシテトラサイクリン塩酸塩軟膏による抜歯後の不快症状緩和に関する臨床学的検討	歯科口腔外科	5
	腹腔鏡下直腸脱手術における術式の検討	消化器外科	1
	腹腔鏡下大腸癌手術の術後鎮痛に対するアセトアミノフェン定時投与と硬膜外麻酔の比較検討	消化器外科	1

病 院	研 究 課 題	部 署	構成人数
総 合	大血管炎の病態解明を目指したゲノム解析	臨床研究部	2
	静岡県立総合病院の DNA 検体を用いた形質横断的ゲノム解析	臨床研究部	2
	地域医療支援病院の看護組織におけるナレッジマネジメント（知識創造プロセス）の実態	看護部外来南	1
	乾癬患者におけるメタボリック症候群関連病態に対する生物学的製剤治療の有効性	皮膚科	4
	喘息および COPD 患者の治療応答性規定因子の解明	呼吸器内科	4
	大腿骨近位部骨折における二次骨折のリスク因子の検討	整形外科	1
	非切除膀胱癌における仮性動脈瘤破裂についての後方視的研究	消化器内科	3
	胆管ステント留置による総胆管結石治療の前向き試験	消化器内科	6
	PPGL 症例の SDHB 遺伝子解析および SDHB 免疫組織科学染色の検討	糖尿病・内分泌内科	3
	肥満合併 2 型糖尿病患者における、トリプトファン代謝産物とインスリン抵抗性の検討	糖尿病・内分泌内科	2
	行動変容を促す患者教育の個別化指導への遺伝子多型情報の応用可能性の探究	糖尿病・内分泌内科	3
	Integrating Deep Phenotypic Information and GWAS Studies for Diabetes Precision Medicine	糖尿病・内分泌内科	4
	開心術を受ける高齢患者の術前の健康関連希望と術後回復の質の関連	看護部外来南	2
	大規模ランダム化比較試験データを用いた胃癌術後短期合併症の危険因子の検討（JCOG0912 副次解析）	消化器外科	6
	胃癌術前 CT 画像所見と臨床所見より機械学習で求めた長期予後予測法の開発	消化器外科	6
	切除不能再発肝細胞癌における PD-L1 発現状況が化学療法に及ぼす影響に関する研究	消化器外科	5
	破傷風トキソイドワクチンの説明用紙の配布による追加接種の遵守率の後方視的検討	救命救急科	8
	非乳頭部十二指腸上皮性腫瘍と胃の萎縮に関する検討	消化器内科	1
	計	35	144

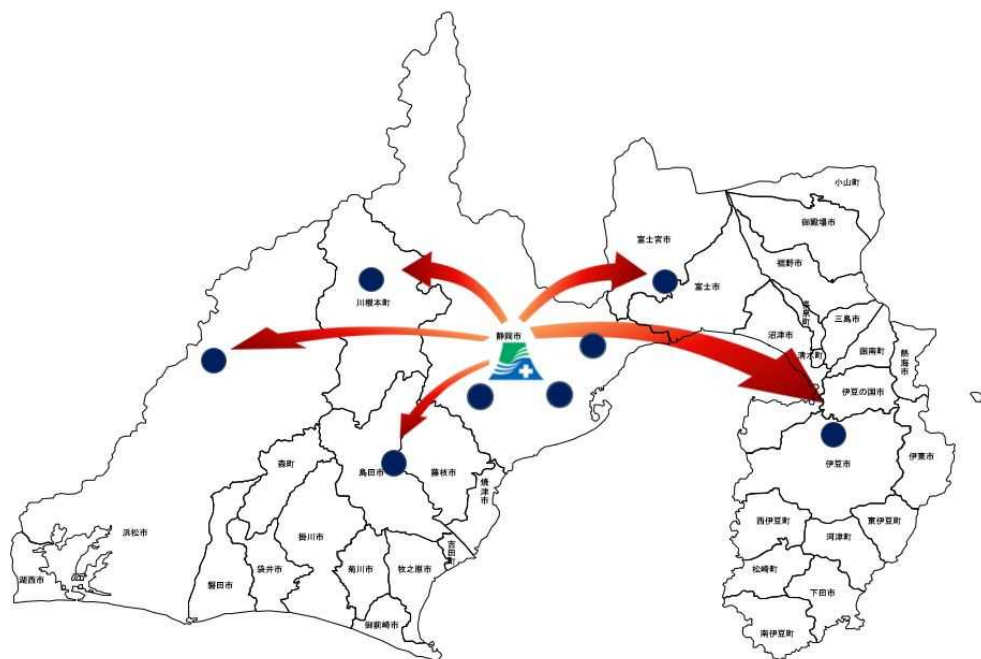
病 院	研 究 課 題	部 署	構成人数
こころ	クロザピン投与例の副作用発現状況に関する実態調査	薬剤室	4
	精神科における患者暴力リスクアセスメントについて	医療部	8
	計	2	12
こども	子宮頸管粘液を用いての絨毛膜下血腫の予後判定に関する研究	産科	3
	先天性上部消化管閉鎖における羊水中の膵酵素、胆汁酸濃度と臍帯潰瘍との関連についての検討	産科	4
	3Dプリンタを用いた新生児・乳児内視鏡外科手術用シミュレーションの確立	小児外科	8
	立体型とり材と 3D レーザースキャナーを用いた手足の先天性疾患における 3 次元的形状データの取得と活用	形成外科	2
	大動脈弁術後遠隔期拡大に関する研究	心臓血管外科	6
	二分脊椎患者に伴う排便管理に対する経肛門的洗腸療法の導入の効果	看護部	5
	静岡県内におけるビタミン K 予防投与の実態調査	周産期センター	6
	頭部 CT の代替として骨条件 MRI の有用性についての研究	脳神経外科	6
	口唇口蓋裂児における morphology の 3D 解析	形成外科	1
	性分化疾患発症メカニズムの分子遺伝学的探索と性分化疾患対応チームの構築	糖尿病・代謝内科	2
	沼津工業高等専門学校専攻科医療福祉機器開発コース学生のツール開発に関する取り組み	成育支援室	4
	新生児集中治療室の患児の療養ゾーンの可視化とメチシリン耐性黄色ブドウ球菌検出に関する研究	看護部	1
	おいでよ、放射線の森へ！ —子どもが行きやすい放射線ゾーンを目指して—	成育支援室	7
	計	13	55

(4) 医療に関する地域への支援

ア 総合病院

- ・ 地域医療の支援については、平成 19 年に地域医療支援病院として承認されており、医師会・歯科医師会とも連携し、紹介患者への医療の提供、救急患者の受入等の取組を通して地域医療の確保に努めた。
- ・ 県立病院医師交流制度等に基づき 8 医療機関等に対して延 560 人の医師派遣を行うとともに、CT・MRI の高度医療機器の共同利用を推進した。
- ・ また、平成 22 年度総務省委託事業である地域 ICT 利活用広域連携事業により開始した「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」は順調に拡大しており、令和 5 年 3 月末現在、開示施設は 20 病院、参照施設は 129 施設となった。今後も各地域の医師会と協働し、ネットワークの更なる推進に努める。

令和 4 年度 県立総合病院の医師派遣



イ こころの医療センター

- ・ 地域医療の支援については、医師、看護師の講演会等への講師派遣等に取り組んだほか、医療観察法における鑑定の要請に協力する等、県内精神医療の中核病院としての役割を果たしている。

ウ こども病院

- ・ 小児科の基幹研修施設として、新専門医制度に対応した研修を行い適切に対応した。
- ・ 地域医療支援病院としての役割を果たすため、医師不足が顕著な公的病院や急病センター等計 10 の医療機関等に対して、令和 4 年度は延 527 人の医師を派遣した。
- ・ 映像通信システムを通じて、浜松医科大学やマレーシア国立循環器病センター等と定期的に症例検討会を実施した。また、県内 4 病院と連携して心エコー画像の遠隔診断を行う等、映像情報を活用した地域医療機関等との連携及び支援を行った。

- ・ 児童精神科医療におけるネットワーク構築のため、小中学校教諭を対象とした精神保健講座や児童養護施設の巡回相談を実施するなど、学校・地域との連携強化に努めた。
- ・ 県内の医師や看護師を対象とした症例検討会を開催する等、地域の周産期医療の質向上と他医療機関との連携強化を図った。
- ・ 地域の救急医療機関や消防機関を対象とした研究会を開催する等、小児救急医療の体制強化を図っているが、令和2年度以降新型コロナウイルス感染症の影響で実施できていない。
- ・ 令和4年度に静岡県から児童虐待早期発見医療体制整備事業を受託し、育児環境支援室を中心に事業を実施した。7月に医療機関向けの相談専用窓口を設置し、児童虐待が疑われる事例に対しては、緊急子育て支援対策委員会を開催し、必要と判断した場合には児童相談所への通告を行った。また、静岡県内の医師等を対象にした研修や、東部地域の医療機関を訪問し当院での症例を事例とした研修を行った。

(5) 災害等における医療救護

- ・ 災害拠点病院は、災害時に多発する重篤救急患者を受け入れ、自己完結型の医療救護チームを被災地に派遣し、地域医療機関への応急用資器材の貸し出し機能を有する病院であり、県下23病院が指定されている。
- ・ 総合病院は、基幹災害拠点病院に指定されており、災害拠点病院の機能をさらに強化した要員の訓練や研修機能を有し、災害医療に関して県の中心的役割を果たす病院であることが求められている。
- ・ 総合病院とこども病院は、「静岡県医療救護計画」に基づき、静岡市の救護病院（重症患者及び中等症患者の処置及び収容を行う病院）に指定されているほか、総合病院における被ばく医療については、原子力発電所の重大事故に備えた原子力災害拠点病院に指定されている。
- ・ 防災計画等の取組については、東日本大震災以降の国の施策の見直しなどに対応した改訂を行うとともに、総合病院では、災害発生時の断水に備えるため、地下水を上水として活用できる装置を導入している。
- ・ また、総合病院では、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により過去2年実施されていなかった訓練が実施され、各訓練にDMAT隊員が参加している。本県を対象県として行われた大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）では、企画に係るコアメンバー会議にDMAT隊員6名が参加し、訓練企画及び事前準備を行った。訓練当日には26名のDMAT隊員が参加した。加えて、県からの要請に伴い、新型コロナウイルス宿泊療養施設へのDMAT隊員派遣を継続的に実施している。
- ・ こころの医療センターは、災害発生直後に精神科医療における支援が可能なDPAT（災害派遣精神科医療チーム）を保有し、災害発生時に被災地へのDPATの派遣や県の要請に基づく支援等を実施する体制を整備している。
- ・ さらに、こころの医療センターでは、令和3年2月1日に診療機能、一時的避難所及びDPAT派遣機能を有した災害拠点精神科病院として、県内では初となる指定を受けており、災害拠点体制を想定した訓練を実施している。
- ・ こども病院における新採職員向け消火避難訓練では、初期消火訓練、病棟患者の避難誘導及び一時避難場所までの（模擬）患者搬送訓練等を実施した。また、夜間想定防火避難誘導訓練では、夜間想定に限られた人的資源をできるだけ生かし、安全な避難経路を設定する等の訓練を行った。
- ・ また、こども病院における政府訓練と連動した総合防災訓練では、重症患者の搬送等について、災害時小児周産期リエゾンとの連携や情報の流れ、患者の症例等について確認・調整した。

4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 効率的な業務運営体制の強化

ア 機構全体

- ・ 理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を、8月を除く原則毎月開催し、意思決定の迅速化に努めた。
- ・ 地方独立行政法人制度のメリットを活かして契約の複数病院一括化及び複数年契約化を進める一方で、契約によっては分割して発注することによって競争性を高めるなど、柔軟に契約方法を変更することで経営改善を推進した。
- ・ 経費の節減のみならず、モニタリング制度（インセンティブ（契約期間の延長）の付与や業務内容が適切ではない場合の減額等が課せられている。）の適用などにより、業務の質の向上も図った。
- ・ 業務改善の推進として、機構の業務改善運動推進制度を設置しており、業務改善に積極的に取り組む組織風土の醸成に努めている。令和4年度については、現在各病院及び本部事務部において取組みを実施しており、優れた取組みについては広く周知を図った。

イ 総合病院

- ・ 平均在院日数の短縮に向け、各診療科においてDPC入院期間Ⅱ以内での退院を促進し、効率的な病棟運営に努めている。
- ・ 先端医学棟3階、4階に新設した22室を含む23室の手術室（ハイブリッド手術室、内視鏡手術室、ロボット支援手術室等）とHCU20床の一体的かつ効果的な運用に努めている。
- ・ 患者サポートセンターによる入院前から退院後までの一貫した支援（入院前問診・オリエンテーション等）により、患者満足度向上と病棟看護師の業務量軽減を図っている。令和4年度も、新型コロナウイルス感染症専門病棟の運営や耐震補強を含む病棟改修工事等の状況を踏まえながら、空床情報の一元管理と適切なベッドコントロールを行っている。
- ・ 重症系病棟の稼働率向上に向けて、医師が中心となり効率的な病棟運営に努めている。
自治体共済会MRPベンチマークシステムの活用及び共同購入組織「一般社団法人日本ホスピタルアライアンス（略称：NHA）」への加盟により、薬品、診療材料に係る価格交渉や品目の切り替えを推進し、薬品費、診療材料費の削減に努めている。

ウ こころの医療センター

- ・ カンファレンスの実施などを通じた多職種間の積極的な情報共有によるチーム医療の推進により、患者の早期退院・早期社会復帰による病床利用の効率化に務めた。
- ・ 毎月の経営戦略委員会や管理会議において病院の経営状況を報告するなど、院内で経営に関する情報を共有することにより、職員全体の経営意識の向上を図った。

エ こども病院

- ・ 医事委託業者と共同で定期的に勉強会等を実施し、各診療科との連携を密にして確実に診療報酬請求を行うなど、診療収益の増加に努めた。
- ・ 診療材料の単価、品目、業者等の見直し、消耗品の節約、委託契約の業務内容の見直し、職員の時間外勤務の適正化等により、経費削減に努めた。また、令和元年10月から共同購入の取組を開始し、汎用材料の価格削減を図っており、採用品の増加を進め、令和4年度に参加分野の拡大を検討し、令和5年度から手術分野の参加を決定した。
- ・ 毎月の管理会議において病院の経営状況を報告するなど、院内で経営に関する情報を共有することにより、職員全体の経営意識の向上を図った。

(2) 事務部門の専門性の向上

- ・ 事務職員基礎研修、会計研修等を実施し、業務関連知識の向上を図った。
- ・ 働き方改革関連法に対応するため、令和2年度以降は労務管理者研修を実施している。
- ・ 認定看護師や診療情報管理士等の資格については、貸付制度といった取得支援制度を活用し、資格者の増員を図った。
- ・ 事務部門に係る業務マニュアルを毎年度更新し、グループウェア上に公開している。機構内で情報の共有を図ることで、業務の標準化を図り、業務マニュアルの活用に努めた。

(3) 収益の確保と費用の節減

- ・ 令和4年度は、前年度に引き続き、薬品費については、競合する薬剤を引き合いに出した交渉により薬品費の値引きに努めている。
- ・ 診療材料費については診療材料の共同購入による価格交渉など経費の節減に取り組んでいる。また、SPDが期限を確認し、期限切迫品を表示し、使用頻度の高い部署への移管するなど、ロスを防ぐ取り組みを実施している。
- ・ 令和4年度は燃料費の高騰を受け、電気料金が上昇していることから、3病院に空調・照明をはじめとした更なる節電対策への呼びかけを行った。
- ・ 総合病院においては管理一体型ESCO事業の導入により、本館及び北館の老朽化した熱源機器等をエネルギー効率の高い省エネ機器に更新した。蛍光灯照明についてもLED照明器具に交換するなど、省エネ改修を行い、電気料金の削減につながっている。

項目別業務実績評価

<評価凡例>

S 計画に対し十分に取り組み、顕著な成果が得られている。

B 計画に対し十分に取り組んでいる。

A 計画に対し十分に取り組み、成果が得られている。

C 計画に対する取組みは十分ではない。

中期計画

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（令4、第3期中期目標期間(みなし評価)）	令和4年度実績 自己評価																																																		
						暫定	本評価	説明																																																
第2 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する事項	第2 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	第1 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置																																																						
1 医療の提供 医療機関として求められる基本的な診療理念や県立病院が担う医療を明確にし、他の医療機関との機能分担や連携のもと、医療の質の向上に努め、患者や家族、地域から信頼される医療を提供すること。	1 医療の提供 県立病院機構の職員は、県立病院が担う役割と責任を認識するとともに、医療機関に求められる基本的な診療理念を理解し、医療の提供に当たってはそれを実践する。	1 医療の提供																																																						
(1) 基本的な診療理念 診療に当たっては、患者が最良の治療効果を得られるよう、患者との信頼関係の構築に努め、科学的根拠に基づく最適な医療を患者への十分な説明と同意のもとに安全に提供すること。	(1) 基本的な診療理念 診療に当たっては、患者自らが選択し納得できるよう、患者への十分な説明など、患者との信頼関係の構築に努め、科学的根拠に基づく医療を安全に提供するため、医療技術の向上、チーム医療の推進、医療安全対策の充実などに取り組む。	(1) 基本的な診療理念 各県立病院は、患者が選択し納得できる最良の医療を提供するため、次の事項等に取り組む。 ①患者への十分な説明と同意の徹底 ②医療技術の向上 ③チーム医療の推進 ④医療安全対策の充実 ⑤患者満足の向上	－	－	－	－	－	－																																																
			1	①患者の適切な医療が受けられる権利を尊重し、セカンドオピニオンを実施する。	各病院 セカンドオピニオン数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>総 合</td><td>115</td><td>90</td><td>112</td><td>114</td><td>114</td><td>82</td><td>82</td></tr><tr><td>こころ</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr><tr><td>こども</td><td>58</td><td>58</td><td>48</td><td>74</td><td>48</td><td>45</td><td>45</td></tr></table> セカンドオピニオン情報提供料算定件数（総合） (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>診療情報提供科(Ⅱ)</td><td>145</td><td>150</td><td>116</td><td>116</td><td>111</td><td>116</td><td>116</td></tr></table>	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	総 合	115	90	112	114	114	82	82	こころ	－	－	－	－	－	－	－	こども	58	58	48	74	48	45	45	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	診療情報提供科(Ⅱ)	145	150	116	116	111	116	116	A	A	令和4年度についても、患者の適切な医療が受けられる権利を尊重し、セカンドオピニオンを実施した。
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																	
総 合	115	90	112	114	114	82	82																																																	
こころ	－	－	－	－	－	－	－																																																	
こども	58	58	48	74	48	45	45																																																	
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																	
診療情報提供科(Ⅱ)	145	150	116	116	111	116	116																																																	
			2	①②③運用実績などのエビデンスに基づくクリニカルパスの新規作成や見直しを行う。	総合 クリニカルパス管理委員会において、新規作成及び修正に係る審議、承認を行った。 クリニカルパスの新規作成、適用率等実績 <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>新規作成（件）</td><td>15</td><td>34</td><td>9</td><td>23</td><td>17</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td>修正（件）</td><td>130</td><td>253</td><td>103</td><td>225</td><td>66</td><td>70</td><td>70</td></tr><tr><td>適用率(%)</td><td>62.6</td><td>63.3</td><td>63.9</td><td>68.3</td><td>68.8</td><td>68.2</td><td>68.2</td></tr></table>	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	新規作成（件）	15	34	9	23	17	4	4	修正（件）	130	253	103	225	66	70	70	適用率(%)	62.6	63.3	63.9	68.3	68.8	68.2	68.2	A	A	クリニカルパスに関する運用・管理について、医療の質の向上や業務の効率化に繋がるよう、医療従事者が定期的に議論を行った。 令和4年度は電子カルテの更新に伴い、パスの修正増加に向けた、患者の状態変化における評価・統計等の分析が容易となるBOM導入準備を進めている。 ※BOM: 日本クリニカルパス学会の患者アウトカム用語基本マスター																
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																	
新規作成（件）	15	34	9	23	17	4	4																																																	
修正（件）	130	253	103	225	66	70	70																																																	
適用率(%)	62.6	63.3	63.9	68.3	68.8	68.2	68.2																																																	
			3	①②③入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、精神科に適したクリニカルパスを作成し導入する。	こころ 令和4年度末現在 稼働クリニカルパス 4件 (m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン) 稼働クリニカルパス件数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>稼働クリニカルパス</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr></table>	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4	4	A	A	クリニカルパスについては、現在4件を導入済みである。医療の質の向上や業務の効率化に繋がるよう、医療従事者が定期的に議論を行っており、今後必要に応じ新規クリニカルパス作成もしくは既存クリニカルパスの見直しを行い、患者の負担軽減に努め、より良い医療を提供していく。																																
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																	
稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4	4																																																	
			4	①②③入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、小児科に適したクリニカルパスを作成し導入する。	こども 稼働クリニカルパス件数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>稼働クリニカルパス</td><td>48</td><td>51</td><td>51</td><td>52</td><td>61</td><td>54</td><td>55</td></tr></table> ※令和3年度は病棟改修工事に伴い、一時的に稼働させたクリニカルパスがあり件数が増加した。	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	稼働クリニカルパス	48	51	51	52	61	54	55	A	A	令和3年度は病棟改修工事の影響で一時的に使用していたクリニカルパスがあったため、件数が増加したが、令和4年度は例年並みの件数となった。																																
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																	
稼働クリニカルパス	48	51	51	52	61	54	55																																																	

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画	業務の実績（令4、第3期中期目標期間(みなし評価)）		令和4年度実績 自己評価		
										暫定	本評価	説明
						5	③チーム医療を推進し、多職種による病院横断的な活動を通して、質の高い医療を提供する。	各病院	チーム医療の推進（カンファレンスの開催） 4年度3月末時点 区 分 チーム名 開催頻度 主要メンバー 総合 栄養サポートチーム 2回/週 医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師 感染制御チーム 院内52回 院外4回/年 医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師 抗菌薬適正使用支援チーム 毎日 医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師 褥瘡対策チーム 1回/月 医師、看護師、栄養士 呼吸ケアチーム 1回/週 医師、看護師、臨床工学技師、理学療法士 認知症ケアチーム 1回/週 医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、公認心理師 精神科リエゾンチーム 1回/週 医師、看護師、薬剤師 緩和ケアチーム 1回/週 医師、看護師、薬剤師、公認心理師、栄養士 糖尿病透析予防診療チーム 1回/週 医師、看護師、栄養士 排尿ケアチーム 1回/週 医師、看護師 こころ 栄養サポートチーム 週1回 医師・看護師・薬剤師・栄養士 感染防止対策チーム 院内週1回 院外5回/年 医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師 褥瘡対策チーム 1回/月 医師・看護師、薬剤師、栄養士 A・C・T（包括型地域生活支援/ A・P・T） 随時 医師・看護師・精神保健福祉士等 こども 栄養サポートチーム 週1回 医師・看護師・栄養士等 感染防止対策チーム 院内52回 院外4回/年 医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師 緩和ケアチーム 1回/週 医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、栄養士 褥瘡対策部会 1回/月 医師・看護師 リハビリテーション 通宣（週1回程度） 医師・看護師・理学療法士等 チーム医療に対する診療報酬上の評価加算の状況（単位：千円） 病院 項目 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 4年度 5年度見込 総合 栄養サポートチーム 1,345 1,154 904 1,246 1,092 879 879 感染制御チーム 75,792 93,168 92,879 86,309 86,701 123,703 123,703 抗菌薬適正使用支援チーム - 15,985 19,122 17,563 17,643 - - 褥瘡対策チーム 3,905 4,815 2,085 755 1,630 2,545 2,545 呼吸ケアチーム 59 1 92 143 224 159 159 認知症ケアチーム 6,248 4,462 4,456 4,445 4,287 4,313 4,313 精神科リエゾンチーム - - 1,743 2,316 4,164 3,852 3,852 緩和ケアチーム - 3,163 20,389 17,965 20,600 18,704 18,704 糖尿病透析予防診療チーム 263 508 998 431 235 168 168 排尿ケアチーム 2 200 212 388 536 350 350 計 87,614 123,456 142,880 131,561 137,112 154,673 154,673 こころ 感染防止対策チーム 380 352 368 290 347 344 337 計 380 352 368 290 347 344 337 こども 栄養サポートチーム - 2 8 40 20 34 35 感染防止対策チーム 18,880 27,610 27,460 25,090 23,660 29,540 29,500 褥瘡対策チーム 2,725 2,200 2,535 2,550 2,470 1,280 1,300 緩和ケアチーム - - 136 590 310 340 350 リハビリテーション 56,527 52,394 58,836 59,137 72,397 71,689 71,700 計 78,132 82,206 88,975 87,407 98,857 102,883 102,885	S	S	SARS-CoV-2(以下、「新型コロナウイルス」という。)感染症への対応のため、多職種による院内感染対策のチームを創設し、感染防止の取組、情報収集などを行っている。 各病院では、新型コロナウイルス感染症専門病棟を設置し、各部署から医師、看護師等を派遣し、多職種が対応に当たっている。令和4年度についても、総合病院の新型コロナウイルス感染症専門病棟では、各部署から医師、看護師等を派遣し、多職種が対応に当たった。 また、令和元年度の精神科医師の着任以降、緩和ケアチーム及び精神科リエゾンチームによる診療報酬上の評価加算が高い水準で推移しており、収益面においても大きく貢献している。 令和4年度は、精神科リエゾンチーム及び認知症ケアチームが中心となって精神・身体合併症に対する医療ニーズを踏まえ、精神科病棟(精神科身体合併症病棟)を開棟する準備を進めている。 令和5年4月の開棟に向け、認知症や精神科患者の身体合併症等に対して適切な医療を提供できる体制を確保していく。
						6	④医療安全室及び感染対策委員会等を中心に、マニュアルの見直しや研修会を通じて院内感染防止対策・医療安全対策を実施する。	各病院（企画）	3病院で、以下のとおり研修等を実施し安全・安心な医療の提供に対する職員への意識づけと、体制整備を行っている。 医療安全対策、院内感染対策研修等 区 分 集団感染数（件） 院内感染対策研修 医療安全対策研修 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 4年度 5年度 研修数(回) 参加者数(人) 研修数(回) 参加者数(人) 総合 0 0 1 0 1 24 0 4 4,109 25 8,547 こころ 0 1 0 0 0 0 0 6 488 3 424 こども 3 4 0 1 0 3 0 3 1,948 3 1,515 計 3 5 1 1 1 27 0 13 6,545 31 10,486 ※院内感染対策研修・医療安全対策研修ともに法定回数は2回	A	A	各病院では、感染対策委員会や医療安全委員会を行う他、研修についても法定回数を上回る実績を積んでいる等、継続的な対策研修の実施体制が確立している。 令和4年度も、新型コロナウイルス感染症の院内感染対策として、感染対策室を中心とした中核要員によるチームが感染防止に関する取組や情報収集などを担い、県との調整のうえ患者の受入を適切に行っている。 また、総合病院では令和4年度中に新型コロナウィルスクラスターを23件、バンコマイシン耐性腸球菌（以下、VREという）の集団感染を1件確認した。
						7	④⑤固定チームナースィングによる看護提供を行うことで、看護の継続性を図り、患者の安心を高める。	総合	「患者様の声」の推移（看護師） (単位：件) 区 分 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 4年度 5年度見込 ご意見 92 85 81 53 79 85 78 感謝 28 29 40 34 37 44 34 患者満足度調査 (単位：％) 区 分 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 4年度 毎年度目標 5年度見込 入院 98.2 98.9 98.0 98.2 97.6 99.0 90以上 99.0	A	A	令和4年度の看護師に対する「患者様の声」の件数は、令和3年度実績値を上回った。 今後も寄せられた意見を参考に質の高い看護を提供できるよう努める。
						8	⑤患者の視点に立った質の高い医療の提供を目指し、患者満足度調査を行い、患者満足度の改善につなげる。	各病院（企画）	患者満足度調査 (単位：％) 区 分 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 4年度 毎年度目標 5年度 総合 入院 98.2 98.9 98.0 98.2 97.6 99.0 90以上 99.0 外来 94.0 94.3 93.6 94.3 95.6 95.9 85以上 95.9 こころ 入院 - - - - - - - - 外来 94.4 91.0 95.7 92.7 100.0 92.3 85以上 92.3 こども 入院 97.5 96.1 99.0 95.3 100.0 95.9 90以上 95.9 外来 99.3 98.9 98.1 96.5 97.3 100.0 90以上 100.0	-	S	令和4年度の各病院の満足度は、令和3年度まで高い水準を引続き維持している。 総合病院の数値は、目標及び前年度の数値を上回っている。リニューアル工事を行ったトイレや待合スペース、感染症対策の満足度が上がっている。 こころの医療センターでは、昨年度に引続き病院スタッフの対応や相談のしやすさが主に評価されたものである。 こども病院では、売店や感染症対策などの満足度が高いが、これは、患者層に配慮した売店(コンビニエンスストア)の対応(品揃え)などが考えられる。集計結果では、患者外来の満足度が100%となり、入院についても目標を上回っている。

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（令4、第3期中期目標期間(みなし評価)）	令和4年度実績 自己評価																																																																																																																		
						暫定	本評価	説明																																																																																																																
(2) 県立病院が担う役割	(2) 県立病院が担う役割	(2) 県立病院が担う役割	－	－	－	－	－	－																																																																																																																
他の医療機関では対応困難な高度・特殊医療など、県の保健医療施策として求められている医療を誠実に提供するとともに、地域連携に努め、県内医療機関の中核病院としての役割を果たすこと。また、医療技術の進展等に対応し、高度・専門医療等の更なる充実・強化に努めること。	他の医療機関では対応困難な高度・専門・特殊医療が確実に提供できるように、先進的技術・治療法の導入に努める。情報通信技術を活用した医療連携や疾患ごとの地域連携を推進する。 県内医療機関の中核病院として、緊急時における後方病床の確保や人材育成などの支援体制の整備を行うとともに、地域の医療機関との機能分担や紹介率・逆紹介率の向上により、地域連携の強化を図る。 【目標値】 ・紹介率（総合、こころ、こども） ・逆紹介率（総合、こころ、こども）	県内の中核的病院として高度・専門・特殊医療を提供するため、地域の医療機関との機能分担を推進し、地域の医療機関との連携を強化する。 ①紹介・逆紹介の推進 ②地域連携クリニカルパスの推進 ③かかりつけ医との診療情報の共有化の推進 ④ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル(ふじのくにねっと)の推進	9	①かかりつけ医との連携により、機能分担体制を推進する。 地域の医療機関との連携強化を図る	紹介率・逆紹介率実績 (単位：％) <table><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>毎年度目標</td><td>5年度見込</td></tr><tr><td>紹介率</td><td>90.6</td><td>92.7</td><td>92.4</td><td>93.8</td><td>93.5</td><td>91.3</td><td>90以上</td><td>91.3</td></tr><tr><td>逆紹介率</td><td>175.5</td><td>171.3</td><td>174.7</td><td>195.4</td><td>200.3</td><td>188.2</td><td>175以上</td><td>188.2</td></tr></table>	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	毎年度目標	5年度見込	紹介率	90.6	92.7	92.4	93.8	93.5	91.3	90以上	91.3	逆紹介率	175.5	171.3	174.7	195.4	200.3	188.2	175以上	188.2	A	A	紹介先、逆紹介先となる地域のクリニックとの情報共有、広報及び訪問等を積極的に行って連携強化に努めた結果、紹介率、逆紹介率ともに目標値を上回った。																																																																																					
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	毎年度目標	5年度見込																																																																																																																
紹介率	90.6	92.7	92.4	93.8	93.5	91.3	90以上	91.3																																																																																																																
逆紹介率	175.5	171.3	174.7	195.4	200.3	188.2	175以上	188.2																																																																																																																
			10	①地域の医療機関との連携を強化し、医療支援体制や救急・急性期、重症患者の受入など連携・機能分担体制を推進する。	紹介率・逆紹介率実績 (単位：％) <table><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>毎年度目標</td><td>5年度見込</td></tr><tr><td>紹介率</td><td>56.3</td><td>51.0</td><td>56.1</td><td>51.2</td><td>45.6</td><td>53.6</td><td>57以上</td><td>56.1</td></tr><tr><td>逆紹介率</td><td>28.6</td><td>37.0</td><td>33.7</td><td>30.1</td><td>25.2</td><td>26.9</td><td>30以上</td><td>30.0</td></tr></table> こころの医療センターの精神科医師の総合病院への配置状況 (単位：人) <table><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td></tr><tr><td>こころ→総合</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td></tr></table> こころの医療センターから総合病院への身体合併症による搬送件数 (単位：人) <table><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td></tr><tr><td>こころ→総合</td><td>4</td><td>9</td><td>6</td><td>4</td><td>8</td><td>8</td><td>8</td></tr></table>	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	毎年度目標	5年度見込	紹介率	56.3	51.0	56.1	51.2	45.6	53.6	57以上	56.1	逆紹介率	28.6	37.0	33.7	30.1	25.2	26.9	30以上	30.0	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	こころ→総合	0	0	1	2	2	3	3	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	こころ→総合	4	9	6	4	8	8	8	B	B	紹介率・逆紹介率ともに目標値には達していないものの、前年度実績を上回った。 今後も他の医療機関や公的機関との連携を強めながら、当院への新規患者獲得を進めていく。																																																					
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	毎年度目標	5年度見込																																																																																																																
紹介率	56.3	51.0	56.1	51.2	45.6	53.6	57以上	56.1																																																																																																																
逆紹介率	28.6	37.0	33.7	30.1	25.2	26.9	30以上	30.0																																																																																																																
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																	
こころ→総合	0	0	1	2	2	3	3																																																																																																																	
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																	
こころ→総合	4	9	6	4	8	8	8																																																																																																																	
			11	①地域の医療機関との機能分担を推進するため、紹介予約制を維持するとともに、積極的に逆紹介を行う。	紹介率・逆紹介率実績 (単位：％) <table><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>毎年度目標</td><td>5年度見込</td></tr><tr><td>紹介率</td><td>94.1</td><td>92.6</td><td>90.9</td><td>90.7</td><td>91.1</td><td>91.1</td><td>94以上</td><td>94.0</td></tr><tr><td>逆紹介率</td><td>46.5</td><td>43.7</td><td>47.7</td><td>44.8</td><td>46.2</td><td>61.4</td><td>53以上</td><td>61.4</td></tr></table>	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	毎年度目標	5年度見込	紹介率	94.1	92.6	90.9	90.7	91.1	91.1	94以上	94.0	逆紹介率	46.5	43.7	47.7	44.8	46.2	61.4	53以上	61.4	B	B	令和4年度は、紹介率については前年度と同数値となり、目標には達しなかった。一方で、逆紹介率については、地域医療機関との連携強化等により、前年度から大幅に上がり、目標を達成した。																																																																																					
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	毎年度目標	5年度見込																																																																																																																
紹介率	94.1	92.6	90.9	90.7	91.1	91.1	94以上	94.0																																																																																																																
逆紹介率	46.5	43.7	47.7	44.8	46.2	61.4	53以上	61.4																																																																																																																
			12	②心疾患、脳卒中、がん、慢性腎臓病、大腿骨頸部骨折等の地域連携クリニカルパスを活用し、かかりつけ医やリハビリテーション病院との機能分担を推進する。	地域連携クリニカルパス (単位：件) <table><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td></tr><tr><td>脳 卒 中</td><td>42</td><td>62</td><td>83</td><td>102</td><td>92</td><td>49</td><td>49</td></tr><tr><td>大 腿 骨 頸 部 骨 折</td><td>82</td><td>57</td><td>82</td><td>104</td><td>90</td><td>85</td><td>85</td></tr><tr><td>胃 が ん</td><td>81</td><td>61</td><td>55</td><td>51</td><td>55</td><td>54</td><td>54</td></tr><tr><td>大 腸 が ん</td><td>109</td><td>124</td><td>122</td><td>102</td><td>135</td><td>138</td><td>138</td></tr><tr><td>乳 が ん</td><td>191</td><td>105</td><td>128</td><td>102</td><td>116</td><td>103</td><td>103</td></tr><tr><td>前 立 腺 が ん</td><td>9</td><td>10</td><td>16</td><td>20</td><td>35</td><td>43</td><td>43</td></tr><tr><td>虚 血 性 心 疾 患</td><td>142</td><td>92</td><td>73</td><td>67</td><td>33</td><td>32</td><td>32</td></tr><tr><td>心 房 細 動</td><td>1</td><td>7</td><td>4</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>慢 性 腎 臓 病</td><td>25</td><td>43</td><td>40</td><td>29</td><td>25</td><td>31</td><td>31</td></tr><tr><td>肺 が ん</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>肝 が ん</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>潰 瘍 性 大 腸 炎</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>計</td><td>682</td><td>561</td><td>605</td><td>578</td><td>585</td><td>537</td><td>537</td></tr></table>	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	脳 卒 中	42	62	83	102	92	49	49	大 腿 骨 頸 部 骨 折	82	57	82	104	90	85	85	胃 が ん	81	61	55	51	55	54	54	大 腸 が ん	109	124	122	102	135	138	138	乳 が ん	191	105	128	102	116	103	103	前 立 腺 が ん	9	10	16	20	35	43	43	虚 血 性 心 疾 患	142	92	73	67	33	32	32	心 房 細 動	1	7	4	1	2	1	1	慢 性 腎 臓 病	25	43	40	29	25	31	31	肺 が ん	0	0	2	0	0	0	0	肝 が ん	－	－	－	－	2	0	0	潰 瘍 性 大 腸 炎	－	－	－	－	－	1	1	計	682	561	605	578	585	537	537	A	A	令和4年度も、地域の医療機関等との連携により、地域連携クリニカルパスの適用を推進し、円滑な運用に努めた。
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																	
脳 卒 中	42	62	83	102	92	49	49																																																																																																																	
大 腿 骨 頸 部 骨 折	82	57	82	104	90	85	85																																																																																																																	
胃 が ん	81	61	55	51	55	54	54																																																																																																																	
大 腸 が ん	109	124	122	102	135	138	138																																																																																																																	
乳 が ん	191	105	128	102	116	103	103																																																																																																																	
前 立 腺 が ん	9	10	16	20	35	43	43																																																																																																																	
虚 血 性 心 疾 患	142	92	73	67	33	32	32																																																																																																																	
心 房 細 動	1	7	4	1	2	1	1																																																																																																																	
慢 性 腎 臓 病	25	43	40	29	25	31	31																																																																																																																	
肺 が ん	0	0	2	0	0	0	0																																																																																																																	
肝 が ん	－	－	－	－	2	0	0																																																																																																																	
潰 瘍 性 大 腸 炎	－	－	－	－	－	1	1																																																																																																																	
計	682	561	605	578	585	537	537																																																																																																																	
			13	③④地域医療ネットワークシステムを整備・活用する。	ネットワーク実績 (単位：件) <table><tr><td>区分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td></tr><tr><td>開示施設数</td><td>18</td><td>17</td><td>16</td><td>19</td><td>19</td><td>20</td><td>20</td></tr><tr><td>開示件数（累計）</td><td>24,375</td><td>28,732</td><td>33,400</td><td>38,366</td><td>44,142</td><td>52,030</td><td>59,918</td></tr><tr><td>開示件数（新規）</td><td>4,580</td><td>4,357</td><td>4,668</td><td>4,966</td><td>5,776</td><td>7,888</td><td>7,888</td></tr><tr><td>参照施設数</td><td>134</td><td>126</td><td>118</td><td>123</td><td>129</td><td>129</td><td>129</td></tr><tr><td>病院</td><td>14</td><td>13</td><td>13</td><td>15</td><td>16</td><td>16</td><td>16</td></tr><tr><td>診療所</td><td>78</td><td>76</td><td>72</td><td>73</td><td>77</td><td>78</td><td>78</td></tr><tr><td>保険薬局</td><td>31</td><td>27</td><td>25</td><td>29</td><td>31</td><td>31</td><td>31</td></tr><tr><td>訪問看護ステーション</td><td>9</td><td>8</td><td>7</td><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>介護福祉施設</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr></table> 「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」について、情報の開示施設である各地域の中核病院、自治体病院、診療所・医師会とともに「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会」を運営し、複数医療機関相互の診療情報共有のため広域ネットワーク基盤を構築して運用している。	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	開示施設数	18	17	16	19	19	20	20	開示件数（累計）	24,375	28,732	33,400	38,366	44,142	52,030	59,918	開示件数（新規）	4,580	4,357	4,668	4,966	5,776	7,888	7,888	参照施設数	134	126	118	123	129	129	129	病院	14	13	13	15	16	16	16	診療所	78	76	72	73	77	78	78	保険薬局	31	27	25	29	31	31	31	訪問看護ステーション	9	8	7	5	4	3	3	介護福祉施設	2	2	1	1	1	1	1	A	A	令和3年度に、ネットワーク参画医療機関が一体となって、連携医療機関等に参画の呼びかけ及び広報を行っており、この結果、令和4年4月に静岡市清水区の桜ヶ丘病院が開示施設として参画した。																																
区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																	
開示施設数	18	17	16	19	19	20	20																																																																																																																	
開示件数（累計）	24,375	28,732	33,400	38,366	44,142	52,030	59,918																																																																																																																	
開示件数（新規）	4,580	4,357	4,668	4,966	5,776	7,888	7,888																																																																																																																	
参照施設数	134	126	118	123	129	129	129																																																																																																																	
病院	14	13	13	15	16	16	16																																																																																																																	
診療所	78	76	72	73	77	78	78																																																																																																																	
保険薬局	31	27	25	29	31	31	31																																																																																																																	
訪問看護ステーション	9	8	7	5	4	3	3																																																																																																																	
介護福祉施設	2	2	1	1	1	1	1																																																																																																																	

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（令4、第3期中期目標期間(みなし評価)）	令和4年度実績 自己評価																																																																																																												
						暫定	本評価	説明																																																																																																										
(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 県立総合病院においては、先端医学棟の設備・機能を最大限に活用し、3大疾患(がん、脳血管疾患、心疾患)を中心に高度・専門医療や急性期医療等を提供すること。また、高度救命救急センターの運用による広範囲熱傷等の特殊疾病患者の受入れ等、高度救急医療を継続して提供するほか、広域的な救急医療の提供への対応を図ること。 なお、中期目標期間の各事業年度において、病床利用率90％以上、入院患者満足度90％以上、外来患者満足度85％以上の達成を目指すこと。 県立こころの医療センターにおいては、精神科救急・急性期医療の提供や他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図るほか、多様な精神疾患への対応や早期入院・早期社会復帰を支援する医療提供体制の充実に努めること。 なお、中期目標期間の各事業年度において、病床利用率85％以上、外来患者満足度85％以上の達成を目指すこと。 県立こども病院においては、小児重症心疾患患者やハイリスク胎児・妊婦、新生児に対する高度・先進医療を提供すること。また、小児がん拠点病院としての機能強化、高度な小児救急医療の充実及び児童精神分野の医療の充実を図るほか、患者の円滑な退院・在宅移行を支援する体制整備に努めること。 なお、中期目標期間の各事業年度において、病床利用率75％以上、入院患者満足度90％以上、外来患者満足度90％以上の達成を目指すこと。 さらに、県立3病院は、結核、エイズ等の感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療等を提供すること。また、認知症をはじめとした精神科患者の身体合併症、周産期医療における産科合併症以外の合併症及び二次的障害を含む発達障害への対応など、一病院では対応が困難な分野においては、県立3病院のそれぞれの特性を活かし、相互に連携を取り、適切な対応を図ること。 その他、移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題に取り組み、今後の疾病構造や県民の医療ニーズの変化等に対応し、県が求める政策医療に協力すること。また、医療施設や機器の整備については計画的に実施するとともに、県民の医療ニーズの変化や医療技術の進展に応じ、機動的な対応を行うこと。	(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 県が掲げる6疾病5事業を念頭に、各県立病院が専門性を活かしつつ、県立病院間や地域の医療機関との連携を強化して、病態に即した的確な医療を提供する。特に、全国的な課題とされている救急医療や急性期医療の充実に重点的に取り組む。	(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 各県立病院は、県が求める政策医療を念頭に、それぞれの特性を生かし、以下の医療に重点的に取り組む。	—	—	—	—	—	—																																																																																																										
			—	—	—	—	—	—	—																																																																																																									
			—	—	—	—	—	—	—	—																																																																																																								
ア 循環器疾患・がん疾患については、小児は県立こども病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。	イ 周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。	ア 循環器疾患・がん疾患については、小児は県立こども病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。	—	—	—	—	—	—	—																																																																																																									
イ 周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。	イ 周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。	イ 周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。	14	各病院	・周産期医療、精神科患者の身体合併症、認知症に対して、機構内3病院が連携し、より適切な医療の提供を行う。	児童の措置入院等、こども病院での受入れが困難な場合はこころの医療センターにて受入れている。		A	A	3病院1法人のメリットを活かし、患者の搬送、医師の応援体制等病院間の連携協力体制を構築している。 総合病院に常勤の精神科医師を5名配置し、精神科医療体制の構築に向けた連携を実施しており、来年度、精神科患者の身体合併症に対応した病棟開棟に向けて準備を進めている。 こころの医療センターから総合病院への医師の配置は1名増員し3名となった。また入院患者で身体障害を持つ患者の総合病院への搬送は8件行われており、同一機構内の病院同士の連携が図られている。 こども病院から総合病院に母体搬送が行われている。同一法人のメリットを活かし、搬送時のスムーズな医師の応援派遣や設備の有効活用が図られている。 今後、総合病院精神科病棟の整備にあたり、精神科医師が中心となり、機構における精神科医療のあり方や役割分担を含めた検討を進めている。																																																																																																								
ウ 結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療に着実に取り組む。	ウ 結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療に着実に取り組む。 特に、SARS-CoV-2(新型コロナウイルス)など新興感染症については、感染拡大防止のため、県との連携・協力体制を整備し、診療機能の強化に努める。	ウ 結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療に着実に取り組む。 特に、SARS-CoV-2(新型コロナウイルス)など新興感染症については、感染拡大防止のため、県との連携・協力体制を整備し、診療機能の強化に努める。	15	総合・こころ・こども	・SARS-CoV-2(新型コロナウイルス)などの新興感染症について、県との連携・協力体制を整備し、診療機能の強化に努める。 【総】・結核病棟を維持する。また各種感染症や難病、アレルギー疾患医療は県内医療機関との連携・協力関係を進める。 ・新興感染症について、県と連携・協力して病床を確保するなど拡大防止に対応できる体制を充実し、県の中核病院としての役割を果たす。 【総・子】・腎臓移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成(総合病院のみ)等への取り組みを継続する。 【子】・アレルギー疾患拠点病院として、講習会の実施等の取組みを継続する。	(総合) 結核病棟は50床で運用している。 エイズ拠点病院としてエイズ患者の受入体制を整えている。 入院患者数 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>エイズ</td><td colspan="7">非公開</td></tr><tr><td>結 核</td><td>108</td><td>111</td><td>92</td><td>95</td><td>85</td><td>48</td><td>85</td></tr></table> 移植実績 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>腎移植</td><td>18</td><td>14</td><td>17</td><td>12</td><td>10</td><td>13</td><td>13</td></tr><tr><td>造血幹細胞移植</td><td>8</td><td>17</td><td>14</td><td>13</td><td>12</td><td>14</td><td>14</td></tr><tr><td>強角膜片作成</td><td>4</td><td>2</td><td>3</td><td>1</td><td>0</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>計</td><td>30</td><td>33</td><td>34</td><td>26</td><td>22</td><td>29</td><td>29</td></tr></table>		区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	エイズ	非公開							結 核	108	111	92	95	85	48	85	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	腎移植	18	14	17	12	10	13	13	造血幹細胞移植	8	17	14	13	12	14	14	強角膜片作成	4	2	3	1	0	2	2	計	30	33	34	26	22	29	29	S	S	(総合) 令和4年度も、新型コロナウイルス感染症に係る院内検査及び患者受入体制の充実に努めた。 特に、新型コロナウイルス第8波の拡大により、令和4年12月以降は最大24床(本館6階 16床)を確保していたが、それを大きく上回る患者を受け入れることとなった。 結核病棟については、結核病床を有する病院の多くが新型コロナウイルス感染症病床へ切り替える状況において、当院は50床を維持し、県内における結核患者の8割以上を受入可能な体制を整えている。 移植については、生体移植を含めた腎移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成を実施している。令和4年度の移植件数は、令和3年度実績と同数程度となった。 (こころ) 県の要請により新型コロナウイルス感染症に対応する病床を4床(うち2床をスタッフ用)を整備し、令和2年4月から運用している。令和4年度は新型コロナウイルス陽性患者6名を受け入れた。 (こども) 新型コロナウイルス感染症に対応するため、令和4年度最大で34床(PICU2床、MFICU1床、NICU1床、北4病棟28床、CCU2床)を確保し、新型コロナウイルス感染症患者を受け入れた。 また、移植医療に関しては、先進的医療である造血幹細胞移植に取り組み、前年度に比べて件数が増加した。 また、アレルギー疾患に関する県民向け・医療者向けの講習会を実施しており、令和4年度は2回開催した。																																								
						区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																					
						エイズ	非公開																																																																																																											
結 核	108	111	92	95	85	48	85																																																																																																											
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																											
腎移植	18	14	17	12	10	13	13																																																																																																											
造血幹細胞移植	8	17	14	13	12	14	14																																																																																																											
強角膜片作成	4	2	3	1	0	2	2																																																																																																											
計	30	33	34	26	22	29	29																																																																																																											
						(こども) 造血幹細胞移植実績 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>骨髄移植</td><td>2</td><td>5</td><td>2</td><td>8</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>臍帯血</td><td>1</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>自家末梢血</td><td>7</td><td>4</td><td>4</td><td>1</td><td>1</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td>同種末梢血</td><td>0</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>計</td><td>10</td><td>14</td><td>10</td><td>12</td><td>6</td><td>10</td><td>10</td></tr></table> ・腎臓移植は、令和2年度以降は行われていない。 アレルギー疾患に関する研修会・講演会開催件数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>総 合</td><td>—</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>こども</td><td>4</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td></tr></table> アレルギー教室開催実績 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>件数</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td></tr></table> 新型コロナウイルス感染症受入体制 <table><tr><th></th><th>病床数</th><th>時 期</th><th>備 考</th></tr><tr><td>総 合</td><td>24床</td><td>令和4年12月～</td><td>6A病棟 最大24床</td></tr><tr><td>こころ</td><td>4床</td><td>令和2年4月～</td><td>2床はスタッフ用</td></tr><tr><td>こども</td><td>34床</td><td>令和4年12月～</td><td>PICU、MFICU、NICU、北4病棟、CCU最大34床</td></tr></table>		区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	骨髄移植	2	5	2	8	3	3	3	臍帯血	1	3	3	2	2	2	2	自家末梢血	7	4	4	1	1	4	4	同種末梢血	0	2	1	1	0	1	1	計	10	14	10	12	6	10	10	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総 合	—	1	1	0	1	1	1	こども	4	4	3	2	2	2	3	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	件数	3	3	3	1	2	2	3		病床数	時 期	備 考	総 合	24床	令和4年12月～	6A病棟 最大24床	こころ	4床	令和2年4月～	2床はスタッフ用	こども	34床	令和4年12月～	PICU、MFICU、NICU、北4病棟、CCU最大34床			
						区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																					
						骨髄移植	2	5	2	8	3	3	3																																																																																																					
臍帯血	1	3	3	2	2	2	2																																																																																																											
自家末梢血	7	4	4	1	1	4	4																																																																																																											
同種末梢血	0	2	1	1	0	1	1																																																																																																											
計	10	14	10	12	6	10	10																																																																																																											
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																											
総 合	—	1	1	0	1	1	1																																																																																																											
こども	4	4	3	2	2	2	3																																																																																																											
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																											
件数	3	3	3	1	2	2	3																																																																																																											
	病床数	時 期	備 考																																																																																																															
総 合	24床	令和4年12月～	6A病棟 最大24床																																																																																																															
こころ	4床	令和2年4月～	2床はスタッフ用																																																																																																															
こども	34床	令和4年12月～	PICU、MFICU、NICU、北4病棟、CCU最大34床																																																																																																															

中期目標		中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令4、第3期中期目標期間(みなし評価))		令和4年度実績 自己評価		
						総合	ミニコン	暫定	本評価	説明
		エ リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。	エ リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。	16 ～ 18	【総】・リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を積極的に行う。 【心】・患者の社会復帰に向け、リハビリテーション活動を充実させる。 【心】・患者の地域での生活を支援するため、訪問看護を充実させる。 【子】・言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォロー、作業療法における急性期作業療法他の充実を図る。	総合		A	A	患者サポートセンターの看護師、MSWや理学療法士等が中心となり、入院早期から退院調整を積極的に支援している。
				16 ～ 18		ミニコン		B	B	前年度に引き続き感染対策を優先し、入院患者と外部の者との接触を控えているため、入院患者に対する病棟外作業療法は参加人数を絞ったうえでリモートでの実施を活用する等工夫しながら実施した。 外来のデイクア活動も感染対策優先という事情もあり当初は活動を休止していたものの、6月から参加者を最大10人までに絞ったショートケアを再開、1月からは昼食を挟んでのデイクア活動も再開した。 訪問看護件数は、当初は対象患者の入院に伴い件数が伸び悩んだものの、後半は積極的に訪問活動を行い、特に複数の職員による訪問に力を入れたこともあって、前年度を上回った。
						ミニコン		A	S	令和4年度リハビリ実施件数は、過去実績を大きく上回った前年度比110%となった。特に作業療法件数は、前年度比147%の件数となり、大幅に増加した。 作業療法に関しては、令和3年度に増員された療法士に対し、集中的に研修を行うことで入院患者への対応時期を前倒しし、実施件数の増加につなげており、4年度も実施体制を継続した。 また、理学療法に関して、令和4年4月より、PICUでの早期離床・リハビリテーション加算(入室後14日間に500点/人/日)が算定可能となったが、当院では患児の早期回復を目的に算定開始前の前年度から医師、看護師、理学療法士でチームを組んで準備したため、4年5月には施設基準要件を満たし早い段階での算定が可能となった。3年度からの準備・実働の結果、4年度はPICU入室患者の全例に早期離床を開始できた。早期離床への意識も高まりPICU退室後もシームレスな機能回復の継続を目的に各主治医からのリハビリの処方が増加した。 今後もさらなる質の向上を図っていく。
		オ 遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。	オ 遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。	19	・遺伝子診療に関して、体制の整備・充実を図る。	総合		A	A	臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラーを始めとする遺伝分野の専門スタッフを配置したゲノム医療センターでは、令和3年度には臨床遺伝専門医を1名増員するなど体制を強化し、がんゲノム関連検査、遺伝性腫瘍症候群、遺伝性疾患等の診療を行っている。 遺伝診療に関する診療は増加傾向にあり、令和4年度の受診者数は、令和3年度実績を上回った。また、遺伝カウンセリングの件数についても増加している。

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（令4、第3期中期目標期間(みなし評価)）	令和4年度実績 自己評価																																																																																																																											
						暫定	本評価	説明																																																																																																																									
	カ 認知症については、鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施に取り組む。発達障害については、早期療育につながる鑑別診断や治療を実施する。また、地域の保健福祉関係者への助言等の医学的支援や、医療従事者や教育関係者に対する研修の実施に取り組む。	カ 認知症については、鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施に取り組む。発達障害については、早期療育につながる鑑別診断や治療を実施する。これらを含む多様な精神疾患や身体合併症など精神科医療に対する要望等を受け、総合的に必要な医療を受けられる体制の検討を行うとともに、整備を進める。	20 ～ 22	【総】・こころの医療センター、こども病院と連携し、精神科身体合併症病棟を設置する。 ・鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、認知症ケアチームの介入、専門医療相談等を推進する。 ・精神科リエゾンチームの運営を開始し、精神科外来の業務を確立する。 【心】・症状が重篤な認知症患者を受入れるための、精神科救急・急性期医療体制を確保する。 【心】・老年期特有の専門外来(老年期こころと物忘れ外来)により専門的な医療相談を実施する。 【子】・発達障害については、従来からの新生児退院診察や、新生児包括外来における低体重出生児の発達フォローを継続し、保護者向けのペアレントトレーニングについても継続して取り組む。	総合	<table><tr><td colspan="8">脳FDG-PET (単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td></tr><tr><td>実施件数</td><td>147</td><td>161</td><td>160</td><td>128</td><td>142</td><td>149</td><td>149</td></tr><tr><td colspan="8">認知症ケア及び精神科リエゾンチームに係る加算 (単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td></tr><tr><td>認知症ケア</td><td>10,494</td><td>8,306</td><td>7,163</td><td>6,202</td><td>5,246</td><td>5,194</td><td>5,194</td></tr><tr><td>精神科リエゾンチーム</td><td>－</td><td>－</td><td>1,743</td><td>2,316</td><td>1,671</td><td>1,284</td><td>1,284</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>8,906</td><td>8,518</td><td>6,917</td><td>6,478</td><td>6,478</td></tr></table>	脳FDG-PET (単位：件)								区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	実施件数	147	161	160	128	142	149	149	認知症ケア及び精神科リエゾンチームに係る加算 (単位：件)								区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	認知症ケア	10,494	8,306	7,163	6,202	5,246	5,194	5,194	精神科リエゾンチーム	－	－	1,743	2,316	1,671	1,284	1,284				8,906	8,518	6,917	6,478	6,478	A	A	令和4年度は、精神科病棟の整備に関する基本設計・実施設計に基づいて、改修工事を実施した。 脳疾患(てんかん、認知症)及び脳腫瘍の診断等に用いる脳FDG-PETの実施件数は年間150件程度であるが、令和4年度は令和2年度・令和3年度の減少分が戻ってきている。 認知症ケア加算と精神科リエゾンチーム加算の算定件数の計については、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により減少し、令和4年度も引き続き精神科リエゾンチーム加算を中心にやや減少した。																																																								
					脳FDG-PET (単位：件)																																																																																																																												
					区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																					
実施件数	147	161	160	128	142	149	149																																																																																																																										
認知症ケア及び精神科リエゾンチームに係る加算 (単位：件)																																																																																																																																	
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																										
認知症ケア	10,494	8,306	7,163	6,202	5,246	5,194	5,194																																																																																																																										
精神科リエゾンチーム	－	－	1,743	2,316	1,671	1,284	1,284																																																																																																																										
			8,906	8,518	6,917	6,478	6,478																																																																																																																										
こころ	<table><tr><td colspan="8">認知症入院患者件数 (単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td></tr><tr><td>認知症入院患者</td><td>11</td><td>9</td><td>6</td><td>6</td><td>12</td><td>17</td><td>10</td></tr><tr><td colspan="8">老年期こころと物忘れ外来実施件数 (単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td></tr><tr><td>老年期こころと物忘れ外来実施件数</td><td>441</td><td>483</td><td>387</td><td>330</td><td>340</td><td>361</td><td>354</td></tr></table>	認知症入院患者件数 (単位：件)								区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	認知症入院患者	11	9	6	6	12	17	10	老年期こころと物忘れ外来実施件数 (単位：件)								区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	老年期こころと物忘れ外来実施件数	441	483	387	330	340	361	354	A	A	令和4年度の認知症を主たる要因として入院となった患者数は17人であった。また、こころと物忘れ外来の件数は361件である。いずれも前年度と比較して増加した。																																																																													
認知症入院患者件数 (単位：件)																																																																																																																																	
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																										
認知症入院患者	11	9	6	6	12	17	10																																																																																																																										
老年期こころと物忘れ外来実施件数 (単位：件)																																																																																																																																	
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																										
老年期こころと物忘れ外来実施件数	441	483	387	330	340	361	354																																																																																																																										
こども	<table><tr><td colspan="8">発達障害児を持つ保護者を対象に、医師や保育士を中心にペアレント・トレーニングを例年行っているが、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響で実施していない。 中期計画期間中、新生児退院診察を実施している。また、新生児包括外来における低出生体重児の発達フォローを隔週1回実施している。</td></tr><tr><td colspan="8">発達小児科外来患者数等 (単位：人、件数)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td></tr><tr><td>発達小児科外来延患者数</td><td>3,871</td><td>4,014</td><td>4,233</td><td>4,272</td><td>4,439</td><td>4,051</td><td>4,050</td></tr><tr><td>ペアレントトレーニング等件数</td><td>10</td><td>10</td><td>10</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>10</td></tr><tr><td colspan="8">新生児包括外来実績 (単位：件数)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td></tr><tr><td>低出生体重児への発達フォロー件数</td><td>170</td><td>207</td><td>207</td><td>175</td><td>184</td><td>166</td><td>170</td></tr></table>	発達障害児を持つ保護者を対象に、医師や保育士を中心にペアレント・トレーニングを例年行っているが、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響で実施していない。 中期計画期間中、新生児退院診察を実施している。また、新生児包括外来における低出生体重児の発達フォローを隔週1回実施している。								発達小児科外来患者数等 (単位：人、件数)								区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	発達小児科外来延患者数	3,871	4,014	4,233	4,272	4,439	4,051	4,050	ペアレントトレーニング等件数	10	10	10	0	0	0	10	新生児包括外来実績 (単位：件数)								区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	低出生体重児への発達フォロー件数	170	207	207	175	184	166	170	A	A	発達小児科による患者家族へのペアレントトレーニングは、新型コロナウイルス感染症の影響により開催できなかったが、発達小児科外来延患者数は例年と同程度の数値であった。 また、新生児科では、新生児包括外来における低出生体重児への発達フォローを実施しており、令和4年度も例年並の実績であった。																																																													
発達障害児を持つ保護者を対象に、医師や保育士を中心にペアレント・トレーニングを例年行っているが、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響で実施していない。 中期計画期間中、新生児退院診察を実施している。また、新生児包括外来における低出生体重児の発達フォローを隔週1回実施している。																																																																																																																																	
発達小児科外来患者数等 (単位：人、件数)																																																																																																																																	
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																										
発達小児科外来延患者数	3,871	4,014	4,233	4,272	4,439	4,051	4,050																																																																																																																										
ペアレントトレーニング等件数	10	10	10	0	0	0	10																																																																																																																										
新生児包括外来実績 (単位：件数)																																																																																																																																	
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																										
低出生体重児への発達フォロー件数	170	207	207	175	184	166	170																																																																																																																										
キ 移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題については、県と連携して取り組む。	キ 移行期医療支援センターの運用などによる移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題については、県と連携して取り組む。	キ 移行期医療支援センターの運用などによる移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題については、県と連携して取り組む。	23	・新型コロナウイルスなどの感染症について、県と連携、協力して拡大防止に対応できる体制を整備する。 ・機構内各病院や他医療機関、県などと連携して移行期医療及び成人期医療を提供する。 ・【こころ】総合病院、こども病院と連携した県立3病院の精神科医療体制構築を進める。 ・【子】県担当課と協議しつつ、受託した移行期医療支援センターの運営を行い、業務内容の充実を図る。	各病院	<table><tr><td colspan="8">移行期医療件数 (単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>こども→総合</td><td>650</td><td>610</td><td>666</td><td>995</td><td>1,367</td><td>1,100</td><td>1,100</td></tr><tr><td>こども→こころ</td><td>－</td><td>－</td><td>19</td><td>18</td><td>15</td><td>28</td><td>20</td></tr><tr><td colspan="8">関連するカンファレンス等の開催実績 (単位：回)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績</td><td>－</td><td>2</td><td>5</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数</td><td>－</td><td>1</td><td>6</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数</td><td>－</td><td>5</td><td>3</td><td>6</td><td>6</td><td>3</td><td>3</td></tr></table> ※ 令和2年度に短期入所事業者の指定を受け、令和4年度より入所している。 <table><tr><td colspan="8">移行期医療推進協議会の開催 (単位：件数)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td></tr><tr><td>移行期医療推進協議会の開催</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td colspan="8">移行期医療センターに関する委員会等の実施回数 (単位：件数)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td><td></td><td></td></tr><tr><td>移行期医療センターに関する委員会等の実施回数</td><td>－</td><td>11</td><td>18</td><td>9</td><td>9</td><td></td><td></td></tr></table>	移行期医療件数 (単位：件)								区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	こども→総合	650	610	666	995	1,367	1,100	1,100	こども→こころ	－	－	19	18	15	28	20	関連するカンファレンス等の開催実績 (単位：回)								区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績	－	2	5	0	0	0	0	移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数	－	1	6	4	3	2	2	医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数	－	5	3	6	6	3	3	移行期医療推進協議会の開催 (単位：件数)								区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	移行期医療推進協議会の開催	－	－	－	－	－	1	2	移行期医療センターに関する委員会等の実施回数 (単位：件数)								区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込			移行期医療センターに関する委員会等の実施回数	－	11	18	9	9			A	A	新型コロナウイルス感染症への対応については、総合病院及びこども病院が県から重点医療機関に指定されており、各病院において患者受入体制を整備し、県と調整のうえ患者の受入を行ってきた。 移行期医療への対応については、機構内における医療情報システム(電子カルテシステム)の統合を予定している。これにより、患者情報の病院間の相互参照が可能となり、医療サービスの向上が期待される。 (総合) 令和2年2月に開設した成人先天性心疾患科では、こども病院循環器科との連携により、先天性心疾患や遺伝性心疾患を持つ患者を対象に診察を行っている。 令和4年度の実診患者数は、令和3年度実績と同程度を維持している。 (こころ) 令和4年度はこども病院からの患者受入れ件数が多かったが、例年に比べ児童の一時保護入院が多かったことによる。一方でこころの医療センターとこども病院の精神科医師が定期的に実施していた合同症例検討会については、各病院における感染対策を重視し、個別のカンファレンスを控えていることもあって、令和4年度の開催が見送られたが、必要に応じて患者や症例の相談を電話により行っている。 (こども) 県から移行期医療支援センター運営事業を受託し、県と連携して移行期医療支援体制の推進に取り組んでいる。 令和4年度は移行期医療推進協議会において、移行医療の医療機関連携マップ作成を決め、作成のために県内小児科に対し紹介実績のある成人医療施設調査を行った。また、こども病院として、患者の自立を促すための診療科ごとの支援プログラムの作成や静岡市医師会と重症心身障がい児の移行のためのカンファレンスを行った。 在宅移行の推進や在宅移行後の医療的ケア児への対応について、令和2年度に指定障害福祉サービスによる短期入所事業者の指定を受け、令和4年度は3人(延人数)の利用があった。
移行期医療件数 (単位：件)																																																																																																																																	
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																										
こども→総合	650	610	666	995	1,367	1,100	1,100																																																																																																																										
こども→こころ	－	－	19	18	15	28	20																																																																																																																										
関連するカンファレンス等の開催実績 (単位：回)																																																																																																																																	
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																										
こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績	－	2	5	0	0	0	0																																																																																																																										
移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数	－	1	6	4	3	2	2																																																																																																																										
医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数	－	5	3	6	6	3	3																																																																																																																										
移行期医療推進協議会の開催 (単位：件数)																																																																																																																																	
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																										
移行期医療推進協議会の開催	－	－	－	－	－	1	2																																																																																																																										
移行期医療センターに関する委員会等の実施回数 (単位：件数)																																																																																																																																	
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																												
移行期医療センターに関する委員会等の実施回数	－	11	18	9	9																																																																																																																												

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（令4、第3期中期目標期間(みなし評価)）	令和4年度実績 自己評価																																																																																																																
						暫定	本評価	説明																																																																																																														
	ク 高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、ハイブリッド手術室の活用、ロボット支援手術・放射線治療等の拡充など、高度な治療への対応の強化や適切な治療の提供に取り組む。また、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設や設備等の充実に努める。	ク 高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、ハイブリッド手術室の活用、ロボット支援手術・放射線治療等の拡充など、高度な治療への対応の強化や適切な治療に取り組む。質の高い医療の提供と効率的な病院運営を目指すため、3病院の医療情報システム統合をはじめとした医療情報の共有化に取り組む。	24	・中期計画に記載した施設及び機器等の整備を計画的に実施する。 ・3病院の医療情報システム統合を実施し、セキュリティを強化した上で、地域医療連携などICTを利用したサービスの向上を目指す。	各病院・本部（経営） 施設及び機器等の整備状況（単位：百万円） <table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th colspan="7">施設整備</th><th colspan="7">器械備品等</th></tr><tr><th>第2期累計(実績)</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th><th>第3期累計</th><th></th><th>第2期累計(実績)</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th><th>第3期累計</th></tr><tr><td>総合</td><td>16,132</td><td>1,091</td><td>1,472</td><td>1,866</td><td>383</td><td>1,220</td><td>4,813</td><td>総合</td><td>6,788</td><td>706</td><td>894</td><td>708</td><td>1,049</td><td>2,056</td><td>3,356</td></tr><tr><td>こころ</td><td>992</td><td>139</td><td>246</td><td>5</td><td>0</td><td>872</td><td>390</td><td>こころ</td><td>169</td><td>31</td><td>31</td><td>8</td><td>14</td><td>25</td><td>84</td></tr><tr><td>こども</td><td>1,764</td><td>148</td><td>829</td><td>190</td><td>136</td><td>1,345</td><td>1,303</td><td>こども</td><td>1,834</td><td>308</td><td>747</td><td>567</td><td>717</td><td>647</td><td>2,339</td></tr><tr><td>本部</td><td>0</td><td>0</td><td>78</td><td>395</td><td>358</td><td>3,212</td><td>831</td><td>本部</td><td>0</td><td>0</td><td>44</td><td>0</td><td>1</td><td>1,141</td><td>45</td></tr><tr><td>合計</td><td>18,887</td><td>1,379</td><td>2,626</td><td>2,456</td><td>877</td><td>6,648</td><td>7,338</td><td>合計</td><td>8,791</td><td>1,045</td><td>1,716</td><td>1,283</td><td>1,780</td><td>3,869</td><td>5,824</td></tr></table> 医療情報システム統合の実施状況 ・令和3年7月にこころの医療センターにサーバー棟が完成した。 ・質の高い医療の提供と効率的な病院運営を目指すため、3病院の医療情報システムを統合し、医療情報の共有化を進めている。	区 分	施設整備							器械備品等							第2期累計(実績)	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	第3期累計		第2期累計(実績)	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	第3期累計	総合	16,132	1,091	1,472	1,866	383	1,220	4,813	総合	6,788	706	894	708	1,049	2,056	3,356	こころ	992	139	246	5	0	872	390	こころ	169	31	31	8	14	25	84	こども	1,764	148	829	190	136	1,345	1,303	こども	1,834	308	747	567	717	647	2,339	本部	0	0	78	395	358	3,212	831	本部	0	0	44	0	1	1,141	45	合計	18,887	1,379	2,626	2,456	877	6,648	7,338	合計	8,791	1,045	1,716	1,283	1,780	3,869	5,824	A	A	令和4年度の減価償却費は36.8億円を見込む(前年度比+0.9億円)。 質の高い医療の提供と効率的な病院運営を目指すため、3病院の医療情報システムの統合を進めており、令和5年度の稼働を見込んでいることなどから、令和5年度以降は更に減価償却費が増加する見込みである。引き続き経営状況を見ながら適切に投資判断を行っている。 令和3年にこころの医療センターにサーバー棟が完成しており、質の高い医療の提供と効率的な病院運営を目指すため、3病院の医療情報システムを統合し、医療情報の共有化を進めている。 総合病院では、北館1階へ移設した高度救命救急センターの跡地(循環器病センター1階)に中央処置室をリニューアル整備し、令和3年7月から運用している。 こころの医療センターでは、老朽化したシャワートローリーや冷蔵保管庫の更新を行い、患者の利便性に努めた。 こども病院では、昇降機改修工事(令和3年11月～令和5年11月)を執行中で、令和5年3月末現在、H棟1、2号機、J・K棟3、4号機、北館1～3号機、西館4～6号機、医師宿舎1号機の改修工事を完成した。
区 分	施設整備							器械備品等																																																																																																														
	第2期累計(実績)	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	第3期累計		第2期累計(実績)	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	第3期累計																																																																																																							
総合	16,132	1,091	1,472	1,866	383	1,220	4,813	総合	6,788	706	894	708	1,049	2,056	3,356																																																																																																							
こころ	992	139	246	5	0	872	390	こころ	169	31	31	8	14	25	84																																																																																																							
こども	1,764	148	829	190	136	1,345	1,303	こども	1,834	308	747	567	717	647	2,339																																																																																																							
本部	0	0	78	395	358	3,212	831	本部	0	0	44	0	1	1,141	45																																																																																																							
合計	18,887	1,379	2,626	2,456	877	6,648	7,338	合計	8,791	1,045	1,716	1,283	1,780	3,869	5,824																																																																																																							
	ケ 各県立病院は、質の高い医療を継続的に提供するため、次のとおり重点的に取り組む。	ケ 各県立病院は医療の提供に当たり、次のとおり重点的に取り組む。	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																																																																							
	県立総合病院	⁽⁷⁾ 県立総合病院診療事業 県内医療機関の中核的病院として、各疾患に対する総合的な医療をはじめ、3大疾患(心疾患、脳血管疾患、がん疾患)に対する高度・専門医療や救急・急性期医療等を提供する。各診療事業を推進するため、医師・看護師確保に取り組む。 県民に提供する医療 ＜業務予定量＞ 病床数 712床 一般病床 662床 結核病床 50床 外来患者 454,534人 入院患者 224,978人	25	総合	入院・外来患者数（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>4年度目標</th><th>5年度見込</th><th>5年度目標</th></tr><tr><td>入院患者数</td><td>232,585</td><td>233,305</td><td>225,595</td><td>203,298</td><td>207,398</td><td>199,210</td><td>224,978</td><td>227,436</td><td>227,436</td></tr><tr><td>(うち結核病床)</td><td>6,580</td><td>6,406</td><td>4,967</td><td>5,223</td><td>4,918</td><td>3,260</td><td>—</td><td>4,959</td><td>—</td></tr><tr><td>外来患者数</td><td>430,118</td><td>436,699</td><td>448,945</td><td>425,092</td><td>455,056</td><td>455,776</td><td>454,534</td><td>480,196</td><td>455,056</td></tr></table>	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	4年度目標	5年度見込	5年度目標	入院患者数	232,585	233,305	225,595	203,298	207,398	199,210	224,978	227,436	227,436	(うち結核病床)	6,580	6,406	4,967	5,223	4,918	3,260	—	4,959	—	外来患者数	430,118	436,699	448,945	425,092	455,056	455,776	454,534	480,196	455,056	B	B	入院患者数については、新型コロナウイルス感染症・VRE病棟開棟(6月)の影響により、目標値を下回った。 一方、外来患者数については、令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響のない令和元年度実績を超え過去最高を更新して増加が続いている。																																																																						
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	4年度目標	5年度見込	5年度目標																																																																																																													
入院患者数	232,585	233,305	225,595	203,298	207,398	199,210	224,978	227,436	227,436																																																																																																													
(うち結核病床)	6,580	6,406	4,967	5,223	4,918	3,260	—	4,959	—																																																																																																													
外来患者数	430,118	436,699	448,945	425,092	455,056	455,776	454,534	480,196	455,056																																																																																																													
	・急性心筋梗塞、脳卒中等の循環器疾患において、常時高度な専門的治療を提供する。加えて、生活習慣病としての危険因子を管理するため、地域の医療機関との連携を強化する。	○循環器疾患患者に対して循環器病センター機能を活かした常時高度な専門的治療を提供する体制の充実 ①重症心不全疾患の患者に対して冠状動脈疾患集中治療室(CCU/ICU)機能を最大限に活かした高度な専門的治療の提供 ②急性心筋梗塞、脳卒中発症患者に対応する常時救急受入体制の強化 ③循環器関連診療科の有機的な連携によるチーム医療の推進 ④ハイブリッド手術室の使用による経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)、ステントグラフト内挿術、経皮的僧帽弁接合不全修復術(Mitra Clip)等の低侵襲かつ高度な手術の実施	26	総合	①冠状動脈疾患集中治療室(CCU/ICU)を中心に常時対応できる体制を構築し、高度専門診療を提供する。 CCU／ICU稼働率（単位：％） <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>稼働率(%)</td><td>113.1</td><td>119.1</td><td>100.3</td><td>88.6</td><td>95.7</td><td>87.4</td><td>100.7</td></tr><tr><td>入室患者数(人)</td><td>780</td><td>771</td><td>866</td><td>802</td><td>925</td><td>795</td><td>823</td></tr><tr><td>1日平均(人)</td><td>13.6</td><td>14.3</td><td>14.0</td><td>12.4</td><td>13.4</td><td>12.2</td><td>13.3</td></tr></table>	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	稼働率(%)	113.1	119.1	100.3	88.6	95.7	87.4	100.7	入室患者数(人)	780	771	866	802	925	795	823	1日平均(人)	13.6	14.3	14.0	12.4	13.4	12.2	13.3	A	A	ICU/CCUの稼働率及び1日平均入室患者数は、新型コロナウイルスの重症化に伴い、一時的に稼働の制限を行っており、令和3年度を下回る患者数となっている。 今後、新型コロナウイルス感染症の状況を見極めつつ、稼働率の向上及び特定集中治療室管理料の算定率向上に努める。																																																																														
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																															
稼働率(%)	113.1	119.1	100.3	88.6	95.7	87.4	100.7																																																																																																															
入室患者数(人)	780	771	866	802	925	795	823																																																																																																															
1日平均(人)	13.6	14.3	14.0	12.4	13.4	12.2	13.3																																																																																																															
			27	総合	②脳卒中発症患者に対する急性期医療の提供体制を整備するとともに、在宅医療への情報提供等、在宅復帰に向けた取り組みを推進する。 脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>算定件数</td><td>42</td><td>62</td><td>83</td><td>102</td><td>92</td><td>49</td><td>71</td></tr></table> 超急性期脳卒中加算（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>算定件数</td><td>27</td><td>16</td><td>35</td><td>28</td><td>32</td><td>20</td><td>26</td></tr></table>	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	算定件数	42	62	83	102	92	49	71	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	算定件数	27	16	35	28	32	20	26	A	A	脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数について、令和4年度は令和3年度実績をやや下回る結果となった。引き続き、地域の医療機関等との連携により、パスの適用を推進し、円滑な運用に努める。 また、今後も、MRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を最大限に活用し、脳卒中発症患者に対して高度な専門的治療を提供する。																																																																														
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																															
算定件数	42	62	83	102	92	49	71																																																																																																															
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																															
算定件数	27	16	35	28	32	20	26																																																																																																															
			28	総合	③生活習慣病を心血管疾患の発症危険因子としてとらえ、循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等が有機的に連携して、チーム医療の推進を図る。 糖尿病透析予防指導管理料（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>算定件数</td><td>75</td><td>145</td><td>285</td><td>123</td><td>67</td><td>48</td><td>123</td></tr></table> <table><tr><th colspan="2">区 分</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td colspan="2">腎代替療法指導管理料</td><td>211</td><td>164</td><td>188</td></tr></table>	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	算定件数	75	145	285	123	67	48	123	区 分		3年度	4年度	5年度見込	腎代替療法指導管理料		211	164	188	A	A	糖尿病透析予防指導管理料は糖尿病・内分泌内科外来、そらまめ外来、透析室における指導により算定する。 令和4年度の算定件数は、新型コロナウイルス感染症の影響に加え、人員配置の変更、診療報酬改定で新設された腎代替療法指導管理料との対象患者の重複により、令和3年度実績を下回ったが、腎代替療法指導管理料の算定件数は164件であり、合算した算定件数は212件となった。																																																																																				
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																															
算定件数	75	145	285	123	67	48	123																																																																																																															
区 分		3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																		
腎代替療法指導管理料		211	164	188																																																																																																																		

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画	業務の実績（令4、第3期中期目標期間(みなし評価)）	令和4年度実績 自己評価																																																																																																																																															
									暫定	本評価	説明																																																																																																																																													
					29	④ハイブリッド手術室を運用する体制を整備し、高度専門医療を提供する。	総合	ハイブリット手術室稼動状況 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>4年度目標</th><th>5年度見込</th><th>5年度目標</th></tr><tr><td>ハイブリット手術室使用件数</td><td>479</td><td>706</td><td>486</td><td>484</td><td>512</td><td>525</td><td>400以上</td><td>525</td><td>400以上</td></tr><tr><td>TAVI実施件数 ※上記の内数</td><td>67</td><td>74</td><td>67</td><td>65</td><td>105</td><td>81</td><td>－</td><td>81</td><td>－</td></tr><tr><td>ステントグラフト挿入術 ※上記の内数</td><td>91</td><td>91</td><td>125</td><td>76</td><td>99</td><td>120</td><td>－</td><td>120</td><td>－</td></tr><tr><td>Mitra Clip件数 ※上記の内数</td><td>－</td><td>12</td><td>24</td><td>14</td><td>21</td><td>11</td><td>－</td><td>11</td><td>－</td></tr></table> 参考 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度9月末</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>PC I</td><td>447</td><td>450</td><td>368</td><td>363</td><td>349</td><td>287</td><td>287</td></tr><tr><td>アブレーション</td><td>256</td><td>253</td><td>284</td><td>267</td><td>305</td><td>262</td><td>262</td></tr></table>	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	4年度目標	5年度見込	5年度目標	ハイブリット手術室使用件数	479	706	486	484	512	525	400以上	525	400以上	TAVI実施件数 ※上記の内数	67	74	67	65	105	81	－	81	－	ステントグラフト挿入術 ※上記の内数	91	91	125	76	99	120	－	120	－	Mitra Clip件数 ※上記の内数	－	12	24	14	21	11	－	11	－	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度9月末	5年度見込	PC I	447	450	368	363	349	287	287	アブレーション	256	253	284	267	305	262	262	A	A	MRIハイブリッド手術室は、手術室にMRI検査室を併設しており、主に脳神経外科の脳腫瘍切除術に使用される。CTハイブリッド手術室は、手術室にCT検査装置を併設しており、主に脳神経外科の脳血管障害や脳腫瘍の手術に使用される。血管造影ハイブリッド手術室は、手術室にX線血管撮影装置を併設しており、主に心臓血管外科、循環器内科のTAVI、ステントグラフト内挿術、MitraClip等の手術に使用される。 ハイブリッド手術室の稼動状況は、毎年下半期における循環器疾患及び脳疾患症例数の増加に比例して稼働率が上昇し、令和4年度は令和3年度を上回った。 令和4年度の稼働状況については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、TAVI、ステントグラフト挿入術、MitraClipの実施件数は令和3年度実績と同程度を維持している。																																																																			
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	4年度目標	5年度見込	5年度目標																																																																																																																																															
ハイブリット手術室使用件数	479	706	486	484	512	525	400以上	525	400以上																																																																																																																																															
TAVI実施件数 ※上記の内数	67	74	67	65	105	81	－	81	－																																																																																																																																															
ステントグラフト挿入術 ※上記の内数	91	91	125	76	99	120	－	120	－																																																																																																																																															
Mitra Clip件数 ※上記の内数	－	12	24	14	21	11	－	11	－																																																																																																																																															
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度9月末	5年度見込																																																																																																																																																	
PC I	447	450	368	363	349	287	287																																																																																																																																																	
アブレーション	256	253	284	267	305	262	262																																																																																																																																																	
		・がん患者に対し、地域がん診療連携拠点病院として、最新・最良の診断、ロボット支援手術などの先進的手術及び化学療法、放射線治療を組み合わせた高度な集学的治療や予防医療を提供する体制を整備し、地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療を提供していく。	○がん疾患患者に対して地域がん診療連携拠点病院(高度型)としての高度な集学的治療を提供する体制の充実及び地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療の提供 ①先端医学棟の設備・機能を最大限に活用し、手術、放射線治療、化学療法に係るがん診療体制の充実 ②地域の医療機関等との連携による緩和ケアや終末期ケアの推進 ③がん相談及び情報提供機能の強化 ④ロボット支援手術の活用	30	総合	①がん患者が速やかに検査や治療を受けられる体制を構築し、手術件数の増加に努める。	がん手術件数 (単位：件、％) <table><tr><th>区分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>胃がん</td><td>163</td><td>340</td><td>366</td><td>351</td><td>351</td><td>392</td><td>392</td></tr><tr><td>大腸がん</td><td>287</td><td>687</td><td>696</td><td>759</td><td>776</td><td>732</td><td>732</td></tr><tr><td>肝がん</td><td>115</td><td>366</td><td>260</td><td>328</td><td>255</td><td>232</td><td>232</td></tr><tr><td>肺がん</td><td>149</td><td>134</td><td>194</td><td>213</td><td>180</td><td>184</td><td>184</td></tr><tr><td>乳がん</td><td>352</td><td>449</td><td>511</td><td>440</td><td>454</td><td>441</td><td>441</td></tr><tr><td>その他</td><td>1,210</td><td>1,241</td><td>1,549</td><td>1,355</td><td>1,630</td><td>1,600</td><td>1,600</td></tr><tr><td>がん手術合計</td><td>2,276</td><td>3,217</td><td>3,576</td><td>3,446</td><td>3,646</td><td>3,581</td><td>3,581</td></tr><tr><td>手術全体</td><td>8,406</td><td>8,651</td><td>9,225</td><td>8,513</td><td>8,798</td><td>8,525</td><td>8,525</td></tr><tr><td>がん手術割合</td><td>27.1</td><td>37.2</td><td>38.8</td><td>40.5</td><td>41.4</td><td>42.0</td><td>42.0</td></tr></table> ※年度別各種がん手術は1患者が複数手術をした場合は、それぞれ計上 ※がん手術合計、手術全体は複数手術をした場合は、主たる手術に計上 内視鏡検査・処置 (単位：件) <table><tr><th>年度</th><th>上部消化管検査</th><th>下部消化管検査</th><th>ERCP検査</th><th>気管支鏡検査</th><th>その他</th><th>合計</th></tr><tr><td>元年度</td><td>10,489</td><td>2,813</td><td>445</td><td>389</td><td>56</td><td>14,192</td></tr><tr><td>2年度</td><td>9,817</td><td>2,771</td><td>404</td><td>291</td><td>38</td><td>13,321</td></tr><tr><td>3年度</td><td>10,540</td><td>2,749</td><td>420</td><td>350</td><td>54</td><td>14,113</td></tr><tr><td>4年度</td><td>10,058</td><td>2,727</td><td>445</td><td>306</td><td>47</td><td>13,583</td></tr><tr><td>5年度見込</td><td>10,058</td><td>2,727</td><td>445</td><td>306</td><td>47</td><td>13,583</td></tr></table> 放射線治療 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>4年度目標</th><th>5年度見込</th><th>5年度目標</th></tr><tr><td>件数</td><td>15,795</td><td>15,772</td><td>1,100</td><td>1,104</td><td>1,257</td><td>980</td><td>1,000</td><td>1,110</td><td>1,000</td></tr></table> ※令和元年度より放射線治療管理料算定件数とする。	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	胃がん	163	340	366	351	351	392	392	大腸がん	287	687	696	759	776	732	732	肝がん	115	366	260	328	255	232	232	肺がん	149	134	194	213	180	184	184	乳がん	352	449	511	440	454	441	441	その他	1,210	1,241	1,549	1,355	1,630	1,600	1,600	がん手術合計	2,276	3,217	3,576	3,446	3,646	3,581	3,581	手術全体	8,406	8,651	9,225	8,513	8,798	8,525	8,525	がん手術割合	27.1	37.2	38.8	40.5	41.4	42.0	42.0	年度	上部消化管検査	下部消化管検査	ERCP検査	気管支鏡検査	その他	合計	元年度	10,489	2,813	445	389	56	14,192	2年度	9,817	2,771	404	291	38	13,321	3年度	10,540	2,749	420	350	54	14,113	4年度	10,058	2,727	445	306	47	13,583	5年度見込	10,058	2,727	445	306	47	13,583	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	4年度目標	5年度見込	5年度目標	件数	15,795	15,772	1,100	1,104	1,257	980	1,000	1,110	1,000	A	B	がん手術件数については、他施設での対応が困難な難治症例の受入も行っており、令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けやや減少している。 放射線治療件数については、リニアックを3台体制による高度変調放射線治療(IMRT)を始めとする高精度な治療を実施しておるものの、令和4年度は、目標値についてはわずかに届かない結果となった。
区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																																	
胃がん	163	340	366	351	351	392	392																																																																																																																																																	
大腸がん	287	687	696	759	776	732	732																																																																																																																																																	
肝がん	115	366	260	328	255	232	232																																																																																																																																																	
肺がん	149	134	194	213	180	184	184																																																																																																																																																	
乳がん	352	449	511	440	454	441	441																																																																																																																																																	
その他	1,210	1,241	1,549	1,355	1,630	1,600	1,600																																																																																																																																																	
がん手術合計	2,276	3,217	3,576	3,446	3,646	3,581	3,581																																																																																																																																																	
手術全体	8,406	8,651	9,225	8,513	8,798	8,525	8,525																																																																																																																																																	
がん手術割合	27.1	37.2	38.8	40.5	41.4	42.0	42.0																																																																																																																																																	
年度	上部消化管検査	下部消化管検査	ERCP検査	気管支鏡検査	その他	合計																																																																																																																																																		
元年度	10,489	2,813	445	389	56	14,192																																																																																																																																																		
2年度	9,817	2,771	404	291	38	13,321																																																																																																																																																		
3年度	10,540	2,749	420	350	54	14,113																																																																																																																																																		
4年度	10,058	2,727	445	306	47	13,583																																																																																																																																																		
5年度見込	10,058	2,727	445	306	47	13,583																																																																																																																																																		
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	4年度目標	5年度見込	5年度目標																																																																																																																																															
件数	15,795	15,772	1,100	1,104	1,257	980	1,000	1,110	1,000																																																																																																																																															
			①外来化学療法センターの環境整備を行い、化学療法の充実を図る。	31	総合	外来化学療法加算 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>4年度目標</th><th>5年度見込</th><th>5年度目標</th></tr><tr><td>件数</td><td>11,680</td><td>12,159</td><td>12,707</td><td>12,660</td><td>12,812</td><td>13,854</td><td>12,000以上</td><td>13,854</td><td>12,000以上</td></tr></table>	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	4年度目標	5年度見込	5年度目標	件数	11,680	12,159	12,707	12,660	12,812	13,854	12,000以上	13,854	12,000以上	S	S	外来化学療法については、外来化学療法センターの移転リニューアルや前日採血の運用を導入するなど、患者の療養環境や利便性が大幅に向上し、令和4年度の外来化学療法加算算定件数は13,000件を上回り、過去最多の実施件数となった。 また、がん薬物療法(抗がん剤治療)による脱毛抑制のための頭部冷却装置(PAXMAN)を導入し乳がん患者を対象に治療を開始している。乳がんを含む固形癌に対する薬物療法を受ける患者の、治療中及び治療後の脱毛抑制が期待でき、患者サービスの向上、及び対象患者のQOLの向上が図られる。																																																																																																																											
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	4年度目標	5年度見込	5年度目標																																																																																																																																															
件数	11,680	12,159	12,707	12,660	12,812	13,854	12,000以上	13,854	12,000以上																																																																																																																																															
			②地域の医療機関等と連携し、緩和ケアや終末期ケアを推進する。	32	総合	緩和ケアチーム介入症例数 (単位：件) <table><tr><th>区分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>症例数</td><td>389</td><td>418</td><td>527</td><td>482</td><td>548</td><td>396</td><td>396</td></tr></table> 緩和ケア診療加算算定件数 (単位：件) <table><tr><th>区分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>件数</td><td>－</td><td>812</td><td>5249</td><td>4,417</td><td>5,308</td><td>4,796</td><td>4,796</td></tr></table>	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	症例数	389	418	527	482	548	396	396	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	件数	－	812	5249	4,417	5,308	4,796	4,796	A	A	緩和ケアチームは、緩和医療科医師、精神科医師、がんに関連する専門・認定看護師等で構成され、院内のがん患者に対して適切な緩和医療を提供する他、地域の医療機関等との定期的なカンファレンスを通じて連携強化に取り組んでいる。 また、がん患者等の社会復帰を支援するため、院内にハローワーク、産業保健総合支援センターとの連携による就労支援出張相談窓口を設置し、通院中又は入院中の患者に対して専門スタッフによる無料の就労相談を行っている。																																																																																																															
区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																																	
症例数	389	418	527	482	548	396	396																																																																																																																																																	
区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																																	
件数	－	812	5249	4,417	5,308	4,796	4,796																																																																																																																																																	
			③がん相談支援センターの機能を増強し、がんに関する相談支援、情報の提供に努める。	33	総合	がん相談件数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>がん相談</td><td>5,896</td><td>4,374</td><td>4,742</td><td>4,458</td><td>3,493</td><td>2,456</td><td>2,456</td></tr></table>	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	がん相談	5,896	4,374	4,742	4,458	3,493	2,456	2,456	A	A	がん相談支援センターにおいて、がんに関連する専門・認定看護師を中心に対面及び電話による相談を実施している。 がん相談件数については、令和4年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での相談件数が減少傾向であるため、令和3年度実績を下回った。																																																																																																																															
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																																	
がん相談	5,896	4,374	4,742	4,458	3,493	2,456	2,456																																																																																																																																																	
			④手術支援ロボットを増設するなど、高度・先進医療に対応できる手術体制の充実を図り、質の高い医療の提供を行う。	34	総合	ダ・ヴィンチ使用手術件数 (単位：件) <table><tr><th>診療科</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>4年度目標</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>泌尿器科</td><td>122</td><td>112</td><td>104</td><td>135</td><td>132</td><td>132</td><td>－</td><td>132</td></tr><tr><td>婦人科</td><td>4</td><td>18</td><td>25</td><td>23</td><td>25</td><td>18</td><td>－</td><td>18</td></tr><tr><td>消化器外科</td><td>30</td><td>83</td><td>70</td><td>82</td><td>92</td><td>163</td><td>－</td><td>163</td></tr><tr><td>心臓血管外科</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>3</td><td>12</td><td>15</td><td>－</td><td>15</td></tr><tr><td>計</td><td>156</td><td>213</td><td>199</td><td>243</td><td>261</td><td>328</td><td>230以上</td><td>328</td></tr></table> ダ・ヴィンチ使用術者数 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>人数</td><td>7</td><td>11</td><td>12</td><td>16</td><td>23</td><td>21</td><td>21</td></tr></table>	診療科	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	4年度目標	5年度見込	泌尿器科	122	112	104	135	132	132	－	132	婦人科	4	18	25	23	25	18	－	18	消化器外科	30	83	70	82	92	163	－	163	心臓血管外科	－	－	－	3	12	15	－	15	計	156	213	199	243	261	328	230以上	328	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	人数	7	11	12	16	23	21	21	S	S	ロボット支援手術(ダ・ヴィンチ使用手術)は、患者にとっては低侵襲というメリットがあるが、経営面においては消耗品や機器の保守費用等を現在の診療報酬では賄うことができないという問題点があるため、手術部において適用症例を見極めたうえで実施している。 ダ・ヴィンチ使用手術件数については、令和4年度は消化器外科及び心臓血管外科の手術件数が増加しており、目標値及び令和3年度実績を大きく上回った。 ロボット支援手術機器(ダ・ヴィンチ)の運用に当たっては、手術講師を東京大学医学部、東京医科大学等から招聘し、術者の指導に充て、常に高度医療技術の習得に努めている。 令和4年度からはロボット手術運営部会を立ち上げ、より良いロボット支援手術の運営に努めているほか、総合病院の婦人科医師がロボット手術学会の学会会長を務めるなど、婦人科のロボット支援施術の普及、発展、技術の向上に貢献している。																																																																									
診療科	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	4年度目標	5年度見込																																																																																																																																																
泌尿器科	122	112	104	135	132	132	－	132																																																																																																																																																
婦人科	4	18	25	23	25	18	－	18																																																																																																																																																
消化器外科	30	83	70	82	92	163	－	163																																																																																																																																																
心臓血管外科	－	－	－	3	12	15	－	15																																																																																																																																																
計	156	213	199	243	261	328	230以上	328																																																																																																																																																
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																																	
人数	7	11	12	16	23	21	21																																																																																																																																																	

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（令4、第3期中期目標期間(みなし評価)）	令和4年度実績 自己評価				
						暫定	本評価	説明		
		・認知症や精神科患者の身体合併症などに対応できる体制を整備する。	○認知症や精神科患者の身体合併症などに対応できる体制の整備 ①認知症や精神科患者の身体合併症に対応する施設整備(精神科身体合併症病棟)など医療提供体制の充実	35	No.20	総合		A	A	令和4年度は、精神科病棟の整備に関しては、改修工事を実施中であり、来年度の開棟を目指して準備を進めている。加えて、静岡県精神科救急身体合併症対応事業の受託に向けての準備を進めている。
		・先端医学棟に整備した各種ハイブリッド手術室や放射線治療室の運用により、適切な治療を提供していく。	○先端医学棟に整備した各種ハイブリッド手術室や放射線治療室の運用による適切な治療の提供 ①ハイブリッド手術室を活用した高度専門医療の推進 ②高度放射線治療の推進	36	先端医学棟の設備・機器を最大限に活用する ①No.29 ②No.30	総合		A	B	手術件数およびHCU延患者数については、新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ・VREの発生等の影響もあり、令和3年度を下回った。 令和4年9月に総合病院先端医学棟で発生した火災により、病理学部の施設及び機器の一部が損傷し使用ができなくなった。このため、病理の迅速検査をこども病院に依頼、その他の検査は業者委託を行うことで通常診療に影響のないよう対応した。また、現場復旧についても、早急に完了するよう重点的に取り組んでいる。
		・高度救命救急センターとして一層の充実を図り、広範囲熱傷等の特殊疾病患者に対応していく。	○重篤な救急患者に対応する高度救命救急センターの運営 ①高度救命救急センター運営に必要な専門スタッフの確保・育成 ②集中治療専門医の確保 ③救急搬送患者の受入体制の充実	37	①②医師の増員を図るとともに、働きやすさに配慮した変則勤務が可能な体制を維持する。	総合		A	A	救急患者の円滑な受入体制を維持するため、各診療科の協力のもと、医師の変則勤務を進めている。令和4年度の利用率は63.1%となり、令和3年度実績からはやや増加している。
				38	③救急車の受入を確実にできる診療体制を維持する。 ・ドクターカーの運用に関して、出動可能な市町の拡大に努める。	総合		A	A	救急科医師数に変化はない。救急当直体制の見直しを行っているが、現在も医師数が充足しているとは言えない状況である。 令和4年度の救急患者数及び救急車受入件数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、令和3年度実績を上回ると見込まれる。特殊疾患患者も積極的に受け入れ、高度救命救急センターとしての機能を果たしている。 ドクターカーは事故による重症外傷や胸痛等の循環器疾患が疑われる病態に対して出動している。令和4年度の出動件数は、令和3年度実績を下回った。
		・効率的な病院運営を図り、また、県民に安全で質の高い医療の提供を行うため、病床稼働率及び入院・外来患者満足度について各事業年度で高い水準を達成する。	○効率的な病院運営による県民に安全で質の高い医療を提供 ①手術件数の増加 ②病床稼働率90%以上の維持 ③患者満足度(入院・外来)の向上	39	①No.36 ②効率的な病院運営を行い、高い病床稼働率を維持する ③No.8	総合		B	B	令和4年度も、一般病棟の一部を新型コロナウイルス感染症専門病棟・VRE専門病棟として運用しており、一般病床稼働率は目標値90%を下回った。 新型コロナウイルス・VRE感染患者が一時的に激増し、今年度の稼働率は過去最低となったが、重症感染患者を数多く受け入れており、地域医療に大きく貢献した。
		【目標値】 ・手術件数(総合) ・病床稼働率(総合) ・患者満足度[入院・外来](総合)	【目標値】県立総合病院 ・手術件数(総合) ・病床稼働率(総合) ・患者満足度[入院・外来](総合) ・ハイブリッド手術件数(総合) ・放射線治療症例件数(総合) ・外来化学療法件数(総合) ・ダヴィンチ使用手術件数(総合)	—	—	—		—	—	—

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令4、第3期中期目標期間(みなし評価))	令和4年度実績 自己評価																																																																										
						暫定	本評価	説明																																																																								
	県立こころの医療センター	(イ) 県立こころの医療センター診療事業 県内精神医療の中核病院として、総合的・専門的な精神科医療を提供するとともに、精神科救急・急性期医療や、他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図る。 県民に提供する医療 ＜業務予定量＞ 病床数 280床 精神病床 280床 外来患者 39,975人 入院患者 54,546人	40	—	入院・外来患者数 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>4年度目標</th><th>5年度見込</th><th>5年度目標</th></tr><tr><td>入院患者数</td><td>55,144</td><td>57,217</td><td>54,037</td><td>53,246</td><td>49,296</td><td>50,282</td><td>54,546</td><td>53,509</td><td>55,551</td></tr><tr><td>外来患者数</td><td>41,140</td><td>42,454</td><td>39,647</td><td>37,285</td><td>36,692</td><td>36,761</td><td>39,975</td><td>38,348</td><td>39,647</td></tr></table>	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	4年度目標	5年度見込	5年度目標	入院患者数	55,144	57,217	54,037	53,246	49,296	50,282	54,546	53,509	55,551	外来患者数	41,140	42,454	39,647	37,285	36,692	36,761	39,975	38,348	39,647	B	B	令和4年度の入院患者数は、新型コロナウイルス感染症の新たな変異株の発生による感染拡大の中で院内へのウイルスの持ち込みに十分注意しながら診療を実施していること、他の病院での受診が困難な患者を当院で受け入れるケースが増加したこともあって、個室病床のニーズが高止まりする一方、4床室の受入れ調整が進まなかったこともあり、入院患者数が伸びなかったものの、下半期に入ると徐々に回復傾向に転じ、前年度実績を上回った。 外来患者数は、デイケア活動が制限されていることもあって、やはり伸び悩んでいたが、夏場以降は回復傾向に転じ、前年度実績を上回った。																																										
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	4年度目標	5年度見込	5年度目標																																																																							
入院患者数	55,144	57,217	54,037	53,246	49,296	50,282	54,546	53,509	55,551																																																																							
外来患者数	41,140	42,454	39,647	37,285	36,692	36,761	39,975	38,348	39,647																																																																							
	・常時精神科救急医療相談に応じ、患者の支援体制の充実を図る。 ・救急患者を受け入れ、新たな入院患者が早期に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の充実を図る。	○精神科救急・急性期医療の提供体制の充実 ①常時精神科救急医療相談に対応可能な体制の整備 ②救急患者が常時受入可能な体制の整備及び新たな入院患者の早期退院を支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備	41	①②24時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受入れるとともに、新たな入院患者が90日以内に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る。	平成15年4月より、県の委託事業として県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を敷設し、24時間体制で救急医療相談に対応している。 年4回発行し、関係機関、公的機関及び就労支援施設等に配布する当センター広報誌「ぬくもり」や、当センターホームページへ「精神科救急ダイヤル」に関する情報を掲載し、周知を図っている。 精神科救急ダイヤル件数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>全相談件数</td><td>3,020</td><td>2,718</td><td>3,957</td><td>3,649</td><td>1,857</td><td>2,111</td><td>2,500</td></tr><tr><td>うち時間外</td><td>2,365</td><td>1,482</td><td>2,153</td><td>2,678</td><td>1,288</td><td>1,530</td><td>1,250</td></tr></table> 時間外における救急診療件数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>毎年度目標</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>件 数</td><td>270</td><td>331</td><td>390</td><td>335</td><td>313</td><td>252</td><td>300以上</td><td>300</td></tr></table>	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	全相談件数	3,020	2,718	3,957	3,649	1,857	2,111	2,500	うち時間外	2,365	1,482	2,153	2,678	1,288	1,530	1,250	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	毎年度目標	5年度見込	件 数	270	331	390	335	313	252	300以上	300	A	B	24時間365日対応可能な相談・診療体制を整え、県との委託契約により全県の精神科救急の窓口となる「精神科救急ダイヤル」を運営している。 幅広く相談に対応しており、令和4年度の救急ダイヤルの相談件数は前年度を上回った。 一方、時間外における救急診療件数は件数が伸び悩み、目標値を下回った。 引き続き精神科救急ダイヤル及び夜間診療体制の周知・普及に努め、必要時に必要な相談を受け、必要な診療を実施出来る体制の維持に努めていく。																														
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																									
全相談件数	3,020	2,718	3,957	3,649	1,857	2,111	2,500																																																																									
うち時間外	2,365	1,482	2,153	2,678	1,288	1,530	1,250																																																																									
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	毎年度目標	5年度見込																																																																								
件 数	270	331	390	335	313	252	300以上	300																																																																								
			42	①新たな入院患者が90日以内に退院できるよう促進し、精神科救急入院料の施設基準を維持する。	早期治療、早期退院の実践により、救急病棟（南2・北2）における「新規患者率」、「新規患者3ヶ月以内在宅移行率」はそれぞれの施設基準を満たしている。 新規患者率 (単位：％) <table><tr><th>区 分</th><th>施設基準</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>救 急</td><td>南2</td><td>40%以上</td><td>72.6</td><td>71.3</td><td>73.4</td><td>61.7</td><td>68.7</td><td>69.0</td></tr><tr><td>救 急</td><td>北2</td><td>40%以上</td><td>74.7</td><td>72.4</td><td>64.8</td><td>60.8</td><td>67.4</td><td>67.0</td></tr></table> 新規患者3ヶ月以内在宅移行率 (単位：％) <table><tr><th>区 分</th><th>施設基準</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>救 急</td><td>南2</td><td>60%以上</td><td>72.9</td><td>73.0</td><td>78.7</td><td>89.4</td><td>82.9</td><td>86.0</td></tr><tr><td>救 急</td><td>北2</td><td>60%以上</td><td>87.4</td><td>85.4</td><td>79.7</td><td>86.7</td><td>86.3</td><td>77.4</td></tr></table>	区 分	施設基準	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	救 急	南2	40%以上	72.6	71.3	73.4	61.7	68.7	69.0	救 急	北2	40%以上	74.7	72.4	64.8	60.8	67.4	67.0	区 分	施設基準	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	救 急	南2	60%以上	72.9	73.0	78.7	89.4	82.9	86.0	救 急	北2	60%以上	87.4	85.4	79.7	86.7	86.3	77.4	A	A	令和4年度の新規患者率及び新規患者3か月以内在宅移行率ともにほぼ前年度並みであり、基準を満たしている。 救急・急性期治療病棟の役割を適切に果たすとともに、精神科救急入院料の施設基準を維持することができている。																		
区 分	施設基準	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																								
救 急	南2	40%以上	72.6	71.3	73.4	61.7	68.7	69.0																																																																								
救 急	北2	40%以上	74.7	72.4	64.8	60.8	67.4	67.0																																																																								
区 分	施設基準	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																								
救 急	南2	60%以上	72.9	73.0	78.7	89.4	82.9	86.0																																																																								
救 急	北2	60%以上	87.4	85.4	79.7	86.7	86.3	77.4																																																																								
	・他の医療機関では対応困難な精神疾患患者への先進的治療に積極的に取り組む。	○他の医療機関では対応困難な精神疾患患者に対する高度医療への積極的な取組 ①高度専門医療(クロザピン、m-ECT(修正型電気けいれん療法)、心理・社会的治療(心理教育、家族教室等))への取組	43	①薬物療法による治療効果が低い重症患者に対する治療法として、m-ECT(修正型電気けいれん療法)を積極的に実施する。 高度・専門医療の積極的な実施	m-ECTの治療を令和4年度も継続して積極的に実施している。 m-ECT実施件数 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>毎年度目標</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>延件数(件)</td><td>693</td><td>832</td><td>870</td><td>737</td><td>827</td><td>665</td><td>700以上</td><td>700</td></tr><tr><td>実患者数</td><td>60</td><td>66</td><td>70</td><td>59</td><td>56</td><td>54</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>中部地区</td><td>54</td><td>58</td><td>62</td><td>55</td><td>53</td><td>51</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>(静岡市)</td><td>40</td><td>43</td><td>50</td><td>45</td><td>43</td><td>43</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>東部地区</td><td>3</td><td>3</td><td>5</td><td>3</td><td>1</td><td>2</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>西部地区</td><td>3</td><td>4</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>その他</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	毎年度目標	5年度見込	延件数(件)	693	832	870	737	827	665	700以上	700	実患者数	60	66	70	59	56	54	—	—	中部地区	54	58	62	55	53	51	—	—	(静岡市)	40	43	50	45	43	43	—	—	東部地区	3	3	5	3	1	2	—	—	西部地区	3	4	2	1	2	1	—	—	その他	0	1	1	0	0	0	—	—	A	B	m-ECT治療については、令和4年度に665件の治療を実施した。当院にてm-ECTの治療を施すための、他院患者の入院受入を進めたが、治療が必要な患者数が減少したこともあって、実施件数は前年度より減少した。
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	毎年度目標	5年度見込																																																																								
延件数(件)	693	832	870	737	827	665	700以上	700																																																																								
実患者数	60	66	70	59	56	54	—	—																																																																								
中部地区	54	58	62	55	53	51	—	—																																																																								
(静岡市)	40	43	50	45	43	43	—	—																																																																								
東部地区	3	3	5	3	1	2	—	—																																																																								
西部地区	3	4	2	1	2	1	—	—																																																																								
その他	0	1	1	0	0	0	—	—																																																																								
			44	①先端薬物療法(クロザピンなど)を積極的に実施する。	平成23年度に作成したクリニカルパスに基づき治療を開始し、令和4年末現在83名に対して継続投与中である。 静岡県内においては、現在8件の登録機関があるが、当院は3番目に承認を受けている。 クロザピン投与患者数 (単位：人) <table><tr><th>項目</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>4年度目標</th><th>5年度見込</th><th>5年度目標</th></tr><tr><td>患者数</td><td>44</td><td>55</td><td>60</td><td>65</td><td>73</td><td>83</td><td>70以上</td><td>85</td><td>75以上</td></tr></table>	項目	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	4年度目標	5年度見込	5年度目標	患者数	44	55	60	65	73	83	70以上	85	75以上	A	A	令和4年度の投与患者数は83人となり、年度目標を大きく上回っている。																																																				
項目	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	4年度目標	5年度見込	5年度目標																																																																							
患者数	44	55	60	65	73	83	70以上	85	75以上																																																																							
			45	①心理・社会的治療についての取組を積極的に実施する。	平成22年度から取組を始めた認知行動療法プロジェクトを、心理・社会的治療プロジェクトに発展し、認知行動療法に加え、新たに心理教育・家族教室への取り組みを実施している。また、心理教育に関する院内外研修会を開催し、スタッフのレベルアップに努めている。 心理教育参加者数 (単位：人) <table><tr><th>項目</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>参加者数</td><td>230</td><td>210</td><td>154</td><td>86</td><td>93</td><td>83</td><td>90</td></tr></table> 心理教育研修会参加者数 (単位：人) <table><tr><th>項目</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>参加者数</td><td>155</td><td>136</td><td>66</td><td>35</td><td>29</td><td>0</td><td>45</td></tr></table>	項目	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	参加者数	230	210	154	86	93	83	90	項目	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	参加者数	155	136	66	35	29	0	45	A	A	令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策に伴って外部活動が縮小となっており、研修参加者数前年度より減となった。 また、院内の心理教育研修会については実施計画を立てたものの新型コロナ感染対策対応を優先せざるを得なかったこともあって、実施することが出来なかった。																																								
項目	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																									
参加者数	230	210	154	86	93	83	90																																																																									
項目	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																									
参加者数	155	136	66	35	29	0	45																																																																									
	・入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるように、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制を構築する。	○多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築 ①入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるようになるための、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築	46	①在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア(ACT)チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活を支援する。	平成21年度に作成したガイドラインに沿って、ACTによる支援を実施している。平成22年2月の支援開始以来延べ27名の支援活動を実施している。令和4年度9月末現在で、入院患者1名及び外来患者3名の支援を継続している。 ACT実施状況 <table><tr><th></th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td rowspan="2">対象者</td><td>外来</td><td>9人</td><td>11人</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td>入院</td><td>0人</td><td>0人</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td rowspan="2">活動状況</td><td>外来</td><td colspan="6">多職種による定期訪問、ケースカンファレンス</td></tr><tr><td>入院</td><td colspan="6">多職種による退院前訪問、ケースカンファレンス</td></tr></table>		29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	対象者	外来	9人	11人	4	4	4	4	入院	0人	0人	2	1	1	1	活動状況	外来	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス						入院	多職種による退院前訪問、ケースカンファレンス						A	A	令和4年度末現在で、入院患者1人及び外来患者4人の外来患者に対して実施している。																																		
	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																									
対象者	外来	9人	11人	4	4	4	4																																																																									
	入院	0人	0人	2	1	1	1																																																																									
活動状況	外来	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス																																																																														
	入院	多職種による退院前訪問、ケースカンファレンス																																																																														

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令4、第3期中期目標期間(みなし評価))	令和4年度実績 自己評価																																						
						暫定	本評価	説明																																				
		・「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療について、指定医療機関としての役割を積極的に果たす。	47	①医療観察法による入院処遇対象者を受け入れ、指定医療機関としての機能を最大限に発揮する。	令和4年度は、精神保健福祉法上の病床を医療観察法上の病床に一時転用する特定病床への受入患者を含め、2名の退院、2名の新規入院があり、100%を超える稼働率となっている。 <table><tr><td colspan="2">医療観察法病棟の稼働状況</td><td colspan="7">(単位:床・%)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td><td></td></tr><tr><td>病床数(床)</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td></tr><tr><td>病床利用率(%)</td><td>96.9</td><td>96.0</td><td>84.1</td><td>98.2</td><td>102.4</td><td>110.3</td><td>100.1</td><td></td></tr></table>	医療観察法病棟の稼働状況		(単位:床・%)							区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込		病床数(床)	12	12	12	12	12	12	12	12	病床利用率(%)	96.9	96.0	84.1	98.2	102.4	110.3	100.1		A	A	令和4年度は、特定病床による患者の受入れが年間を通じて続いており、使用病床は12床から14床で推移している。
医療観察法病棟の稼働状況		(単位:床・%)																																										
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																					
病床数(床)	12	12	12	12	12	12	12	12																																				
病床利用率(%)	96.9	96.0	84.1	98.2	102.4	110.3	100.1																																					
	・認知症・依存症・摂食障害など多様な精神疾患に対応できる体制を構築し、発達障害や思春期及び小児から成人への移行期における精神疾患への対応を図る。	○認知症・依存症・摂食障害など多様な精神疾患に対応できる体制を構築し、発達障害や思春期及び小児から成人への移行期における精神疾患への対応 ①多様な精神疾患及び、小児から成人への移行期における精神疾患等に対応するための体制の構築に向けた取組	48	①総合病院における身体合併症患者への精神科医療の提供体制を整備する。 ・公立病院経営強化プラン等の精神医療の方針を踏まえ、県内精神医療の中核病院としての役割を担う体制を整備する。 また、病棟整備計画の策定や県民要望に対応した新たな体制を構築し、休床病床の解消を行う。 ・総合病院、こども病院などと連携し、児童精神分野における精神科医療の提供体制の整備を図る。	令和2年4月より総合病院へ精神科医師1名を追加配置し、医師2名の体制とし、身体合併症の精神科リエゾン機能を強化するとともに、病棟整備に向けた検討会に参画している。 令和4年度は、「県立病院機構精神科あり方ワーキンググループ」を開催し、県立3病院の精神科医療のあり方を検討している。	A	A	令和4年度の当院からの総合病院への精神科医配置が3名となり、身体合併症の精神科リエゾン機能がより強化された。 令和4年度は、「県立病院機構精神科あり方ワーキンググループ」を開催し、県立3病院の精神科医療のあり方を検討した。検討結果を踏まえ、当院における時代のニーズに応えた医療提供体制の整備に取り組んで行く。																																				
	・効率的な病院運営を図り、また、県民に安全で質の高い医療の提供を行うため、病床稼働率及び外来患者満足度について各事業年度で高い水準を達成する。	○効率的な病院運営による県民に安全で質の高い医療を提供 ①国の公立病院経営強化政策指針や県、病院機構における精神科のあり方検討を踏まえた医療体制及び病棟の整備 ②クロザピン投与患者数の増加 ③病床稼働率85%以上の維持 ④患者満足度(外来)の向上	49	①No.48 ②No.44 ③常時、救急患者を受け入れる体制の維持と、多職種連携による早期退院促進による効率的な病院運営に努める。 ④No.8	病床稼働率 <table><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>毎年度目標</td><td>5年度見込</td></tr><tr><td>稼働率</td><td>87.9</td><td>91.1</td><td>85.8</td><td>84.8</td><td>78.5</td><td>80.1</td><td>85以上</td><td>85</td></tr></table>	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	毎年度目標	5年度見込	稼働率	87.9	91.1	85.8	84.8	78.5	80.1	85以上	85	B	B	目標値には到達出来なかったものの、入院延患者数が増加したことにより、稼働率も前年度を上回っている。																		
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	毎年度目標	5年度見込																																				
稼働率	87.9	91.1	85.8	84.8	78.5	80.1	85以上	85																																				
	【目標値】 ・クロザピン投与患者数(こころ) ・病床稼働率(こころ) ・患者満足度[外来](こころ)	【目標値】県立こころの医療センター ・クロザピン投与患者数(こころ) ・病床稼働率(こころ) ・患者満足度[外来](こころ) ・時間外診療件数(こころ) ・m－ECT実施件数(こころ)	—	—	—	—	—	—																																				

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（令4、第3期中期目標期間(みなし評価)）	令和4年度実績 自己評価																																																																																																																																																																																																																																																																						
						暫定	本評価	説明																																																																																																																																																																																																																																																																				
	県立こども病院	(ウ) 県立こども病院診療事業 県内小児医療の中核病院として、一般医療機関では対応困難な小児患者に対する高度・専門医療やハイリスク妊婦に対する周産期医療を提供する。また、小児期から成人期への移行期医療に取り組む。 県民に提供する医療 ＜業務予定量＞ 病床数 279床 一般病床 243床 精神病床 36床 外来患者 116,867人 入院患者 75,948人	50	—	いんせも <table><tr><td colspan="10">入院・外来患者数</td></tr><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>4年度目標</td><td>5年度見込</td><td>5年度目標</td></tr><tr><td>入院患者数</td><td>75,586</td><td>75,395</td><td>75,736</td><td>65,681</td><td>66,476</td><td>67,877</td><td>75,948</td><td>75,900</td><td>75,900</td></tr><tr><td>外来患者数</td><td>105,763</td><td>110,185</td><td>111,874</td><td>103,773</td><td>121,675</td><td>117,697</td><td>116,867</td><td>121,918</td><td>121,918</td></tr></table>	入院・外来患者数										区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	4年度目標	5年度見込	5年度目標	入院患者数	75,586	75,395	75,736	65,681	66,476	67,877	75,948	75,900	75,900	外来患者数	105,763	110,185	111,874	103,773	121,675	117,697	116,867	121,918	121,918	B	B	令和4年度の入院患者数は、目標値には届かない見込みだが、徐々に回復しており、令和3年度実績は上回った。一方で、外来患者数は過去実績を大きく上回った前年度からは減少したが、目標値は上回った。 県内小児医療の中核病院として、一般医療機関では対応困難な小児患者に対する高度・専門医療やハイリスク妊婦に対する周産期医療の提供に努めた。																																																																																																																																																																																																																												
入院・外来患者数																																																																																																																																																																																																																																																																												
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	4年度目標	5年度見込	5年度目標																																																																																																																																																																																																																																																																			
入院患者数	75,586	75,395	75,736	65,681	66,476	67,877	75,948	75,900	75,900																																																																																																																																																																																																																																																																			
外来患者数	105,763	110,185	111,874	103,773	121,675	117,697	116,867	121,918	121,918																																																																																																																																																																																																																																																																			
	・小児重症心疾患患者に対してハイブリッド手術室等の先進設備を活用し、常時高度な先進的治療を提供する。小児心疾患治療の先導的施設として専門医等の育成に努める。	○小児重症心疾患患者に対し、常時高度な専門的治療を提供する体制の充実及び小児心疾患治療の先進的な施設としての専門医等の育成 ①小児重症心疾患患者へ常時対応による専門的治療の提供体制の充実 ②小児循環器疾患治療スタッフに対する教育体制の充実や小児集中治療室(PICU)及び新生児集中治療室(NICU)及び循環器集中治療室(CCU)の相互研修の実施を通じた治療レベルの向上による循環器センターの機能を強化 ③小児用補助人工心臓装置の活用 ④心エコー画像のリアルタイム遠隔診断の実施 ⑤血管撮影装置の2台化による循環器治療の提供体制の充実検討	51	①心臓血管外科、循環器科の連携による専門治療と、術後の集中治療を行うCCUを加えた循環器センターの体制を維持・充実させる。 ②新生児科(NICU)・小児集中治療科(PICU)と共同でカンファレンスを実施し、より研修効果をあげ、治療レベルの向上を図る。 ③補助人工心臓装置の活用を図る。 ④心エコー画像の遠隔診断を継続実施する。 ⑤カテーテル室の2室化工事の実施。	いんせ <table><tr><td colspan="10">平成28年に循環器病棟に設置した準重症患者対応病室は、順調に運用されている。今後も効果的な運用を継続していく。</td></tr><tr><td colspan="10">心臓カテーテル治療実績</td></tr><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>4年度目標</td><td>5年度見込</td><td>5年度目標</td></tr><tr><td>実施件数</td><td>200</td><td>179</td><td>206</td><td>192</td><td>204</td><td>187</td><td>200以上</td><td>200</td><td>200</td></tr><tr><td colspan="10">ハイブリッド手術実績</td></tr><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td><td></td><td></td></tr><tr><td>件数</td><td>6</td><td>8</td><td>5</td><td>8</td><td>6</td><td>4</td><td>6</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="10">CCU稼働率</td></tr><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td><td></td><td></td></tr><tr><td>入院延患者数</td><td>2,939</td><td>3,063</td><td>3,176</td><td>3,021</td><td>3,011</td><td>3,994</td><td>4,000</td><td></td><td></td></tr><tr><td>病床稼働率</td><td>80.5</td><td>83.9</td><td>86.8</td><td>82.8</td><td>71.7</td><td>91.2</td><td>91.2</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="10">循環器センターにおける研修医の人数</td></tr><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td><td></td><td></td></tr><tr><td>人数</td><td>6</td><td>5</td><td>9</td><td>7</td><td>9</td><td>8</td><td>10</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="10">小児用補助人工心臓装置の使用状況</td></tr><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td><td></td><td></td></tr><tr><td>件数</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="10">心エコー画像遠隔診断実績</td></tr><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td><td></td><td></td></tr><tr><td>症例数</td><td>7</td><td>5</td><td>3</td><td>0</td><td>2</td><td>5</td><td>5</td><td></td><td></td></tr></table>	平成28年に循環器病棟に設置した準重症患者対応病室は、順調に運用されている。今後も効果的な運用を継続していく。										心臓カテーテル治療実績										区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	4年度目標	5年度見込	5年度目標	実施件数	200	179	206	192	204	187	200以上	200	200	ハイブリッド手術実績										区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込			件数	6	8	5	8	6	4	6			CCU稼働率										区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込			入院延患者数	2,939	3,063	3,176	3,021	3,011	3,994	4,000			病床稼働率	80.5	83.9	86.8	82.8	71.7	91.2	91.2			循環器センターにおける研修医の人数										区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込			人数	6	5	9	7	9	8	10			小児用補助人工心臓装置の使用状況										区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込			件数	1	1	0	0	0	0	1			心エコー画像遠隔診断実績										区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込			症例数	7	5	3	0	2	5	5			A	B	循環器科、心臓血管外科を中心とした連携により、多くの小児重症心疾患患者を受け入れた。 令和4年度のハイブリッド手術室における心臓カテーテル治療はコロナ下でも例年並みの水準を維持しているが、目標を若干下回った。また、心エコー画像の遠隔診断実績は5件と高水準であった。 例年カテーテル治療件数が高い水準で推移しているため、高機能なアンギオ装置を令和3年度に更新し、より質の高い治療を行っており、経皮的肺動脈弁置換術(TPVI)初期導入13施設の一つに指定され、令和5年3月に県内初の治療を行った。 令和3年度にPICUとCCUを統合し、CCU病棟はHCUの役割を持たせた後方病棟とした。令和4年度は、前年度以上に効率的な病棟運用が行われ、病床稼働率が大幅に上昇した。 なお、循環器センターにおいて、令和4年度、8名の研修医を受け入れた。																																																												
平成28年に循環器病棟に設置した準重症患者対応病室は、順調に運用されている。今後も効果的な運用を継続していく。																																																																																																																																																																																																																																																																												
心臓カテーテル治療実績																																																																																																																																																																																																																																																																												
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	4年度目標	5年度見込	5年度目標																																																																																																																																																																																																																																																																			
実施件数	200	179	206	192	204	187	200以上	200	200																																																																																																																																																																																																																																																																			
ハイブリッド手術実績																																																																																																																																																																																																																																																																												
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																																																																																																																																																					
件数	6	8	5	8	6	4	6																																																																																																																																																																																																																																																																					
CCU稼働率																																																																																																																																																																																																																																																																												
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																																																																																																																																																					
入院延患者数	2,939	3,063	3,176	3,021	3,011	3,994	4,000																																																																																																																																																																																																																																																																					
病床稼働率	80.5	83.9	86.8	82.8	71.7	91.2	91.2																																																																																																																																																																																																																																																																					
循環器センターにおける研修医の人数																																																																																																																																																																																																																																																																												
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																																																																																																																																																					
人数	6	5	9	7	9	8	10																																																																																																																																																																																																																																																																					
小児用補助人工心臓装置の使用状況																																																																																																																																																																																																																																																																												
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																																																																																																																																																					
件数	1	1	0	0	0	0	1																																																																																																																																																																																																																																																																					
心エコー画像遠隔診断実績																																																																																																																																																																																																																																																																												
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																																																																																																																																																					
症例数	7	5	3	0	2	5	5																																																																																																																																																																																																																																																																					
	・地域の医療機関と連携して、ハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの構築に努めるほか、新生児に対して、高度な先進的治療を提供するための体制を拡充する。	○地域の医療機関と連携したハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの維持・充実と新生児に対しての高度な専門的治療を提供する体制の拡充 ①先天異常の出生前超音波診断や、出生後の管理・処置のための機器整備 ②新生児集中治療室(NICU)における低侵襲手術の実施	52	①最新式の超音波診断装置を導入する。 ②必要に応じNICU内での手術を継続実施する。	いんせ <table><tr><td colspan="10">産科入院患者数</td></tr><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td><td></td><td></td></tr><tr><td>入院患者数</td><td>6,395</td><td>5,850</td><td>5,810</td><td>4,461</td><td>4,823</td><td>3,642</td><td>3,650</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="10">周産期医療に係る地域医療機関向け研修会等開催実績</td></tr><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td><td></td><td></td></tr><tr><td>研修会等回数</td><td>9</td><td>8</td><td>9</td><td>8</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td></td><td></td></tr><tr><td>参加者数</td><td>439</td><td>373</td><td>377</td><td>255</td><td>155</td><td>45</td><td>100</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="10">NICU診療実績</td></tr><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td><td></td><td></td></tr><tr><td>入院延患者数</td><td>6,311</td><td>5,519</td><td>5,250</td><td>5,029</td><td>5,094</td><td>5,121</td><td>5,250</td><td></td><td></td></tr><tr><td>病床稼働率</td><td>96.1</td><td>84.0</td><td>79.7</td><td>76.5</td><td>77.5</td><td>77.9</td><td>80.0</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="10">GCU診療実績</td></tr><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td><td></td><td></td></tr><tr><td>入院延患者数</td><td>4,536</td><td>4,646</td><td>4,723</td><td>4,685</td><td>4,978</td><td>5,001</td><td>5,000</td><td></td><td></td></tr><tr><td>病床稼働率</td><td>69</td><td>70.7</td><td>71.7</td><td>71.3</td><td>75.8</td><td>76.1</td><td>76.1</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="10">MFICU診療実績</td></tr><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td><td></td><td></td></tr><tr><td>入院延患者数</td><td>2,068</td><td>1,879</td><td>1,907</td><td>1,517</td><td>1,433</td><td>1,240</td><td>1,240</td><td></td><td></td></tr><tr><td>病床稼働率</td><td>94.4</td><td>85.8</td><td>86.8</td><td>69.3</td><td>65.4</td><td>56.6</td><td>56.6</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="10">新生児出生体重別入院患者実績</td></tr><tr><td>体重(g)</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td><td></td><td></td></tr><tr><td>500未満</td><td>3</td><td>4</td><td>8</td><td>4</td><td>6</td><td>2</td><td>3</td><td></td><td></td></tr><tr><td>500~1,000</td><td>28</td><td>29</td><td>41</td><td>19</td><td>22</td><td>23</td><td>25</td><td></td><td></td></tr><tr><td>1,000~1,500</td><td>28</td><td>26</td><td>25</td><td>28</td><td>15</td><td>24</td><td>25</td><td></td><td></td></tr><tr><td>1,500以上</td><td>143</td><td>165</td><td>139</td><td>168</td><td>248</td><td>180</td><td>230</td><td></td><td></td></tr><tr><td>合計</td><td>202</td><td>224</td><td>213</td><td>219</td><td>291</td><td>229</td><td>283</td><td></td><td></td></tr></table>	産科入院患者数										区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込			入院患者数	6,395	5,850	5,810	4,461	4,823	3,642	3,650			周産期医療に係る地域医療機関向け研修会等開催実績										区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込			研修会等回数	9	8	9	8	2	1	2			参加者数	439	373	377	255	155	45	100			NICU診療実績										区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込			入院延患者数	6,311	5,519	5,250	5,029	5,094	5,121	5,250			病床稼働率	96.1	84.0	79.7	76.5	77.5	77.9	80.0			GCU診療実績										区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込			入院延患者数	4,536	4,646	4,723	4,685	4,978	5,001	5,000			病床稼働率	69	70.7	71.7	71.3	75.8	76.1	76.1			MFICU診療実績										区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込			入院延患者数	2,068	1,879	1,907	1,517	1,433	1,240	1,240			病床稼働率	94.4	85.8	86.8	69.3	65.4	56.6	56.6			新生児出生体重別入院患者実績										体重(g)	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込			500未満	3	4	8	4	6	2	3			500~1,000	28	29	41	19	22	23	25			1,000~1,500	28	26	25	28	15	24	25			1,500以上	143	165	139	168	248	180	230			合計	202	224	213	219	291	229	283			A	A	最新式の超音波診断装置など最先端の機器整備を整備し、先天異常の出生前超音波診断や、出生後の管理・処置等を適切に行った。 こども病院は、他の医療機関では対応が困難な超低出生体重児、極低出生体重児を数多く受け入れており、令和4年度も1,500g未満の新生児の受入実績は例年並みであった。 また、NICUの入院延患者数は徐々に回復しており、令和4年度の稼働率は、前年に比べて上昇した。 なお、地域医療機関を対象とした研修会、検討会については、令和4年度に1回開催した。
産科入院患者数																																																																																																																																																																																																																																																																												
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																																																																																																																																																					
入院患者数	6,395	5,850	5,810	4,461	4,823	3,642	3,650																																																																																																																																																																																																																																																																					
周産期医療に係る地域医療機関向け研修会等開催実績																																																																																																																																																																																																																																																																												
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																																																																																																																																																					
研修会等回数	9	8	9	8	2	1	2																																																																																																																																																																																																																																																																					
参加者数	439	373	377	255	155	45	100																																																																																																																																																																																																																																																																					
NICU診療実績																																																																																																																																																																																																																																																																												
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																																																																																																																																																					
入院延患者数	6,311	5,519	5,250	5,029	5,094	5,121	5,250																																																																																																																																																																																																																																																																					
病床稼働率	96.1	84.0	79.7	76.5	77.5	77.9	80.0																																																																																																																																																																																																																																																																					
GCU診療実績																																																																																																																																																																																																																																																																												
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																																																																																																																																																					
入院延患者数	4,536	4,646	4,723	4,685	4,978	5,001	5,000																																																																																																																																																																																																																																																																					
病床稼働率	69	70.7	71.7	71.3	75.8	76.1	76.1																																																																																																																																																																																																																																																																					
MFICU診療実績																																																																																																																																																																																																																																																																												
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																																																																																																																																																					
入院延患者数	2,068	1,879	1,907	1,517	1,433	1,240	1,240																																																																																																																																																																																																																																																																					
病床稼働率	94.4	85.8	86.8	69.3	65.4	56.6	56.6																																																																																																																																																																																																																																																																					
新生児出生体重別入院患者実績																																																																																																																																																																																																																																																																												
体重(g)	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																																																																																																																																																					
500未満	3	4	8	4	6	2	3																																																																																																																																																																																																																																																																					
500~1,000	28	29	41	19	22	23	25																																																																																																																																																																																																																																																																					
1,000~1,500	28	26	25	28	15	24	25																																																																																																																																																																																																																																																																					
1,500以上	143	165	139	168	248	180	230																																																																																																																																																																																																																																																																					
合計	202	224	213	219	291	229	283																																																																																																																																																																																																																																																																					

										令和4年度実績 自己評価			
中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画		業務の実績(令4、第3期中期目標期間(みなし評価))		暫定	本評価	説明
			・本県における小児がんの拠点機能を有する病院として、高度な集学的治療に積極的に取り組む。		○小児がん拠点病院(厚生労働省指定)として、高度な集学的治療への積極的な取組 ①小児がんの集学的治療推進、セカンドオピニオンの受入れなど、がん診療の機能強化 ②院内がん登録の推進 ③県立静岡がんセンターとの連携強化 ④AYA世代がん診療の連携等を推進 ⑤がん公開講座や研修会(脳腫瘍関連)等の開催 ⑥病室のグリーン度アップや、AYA対応室の設置等北5病棟の改修	53	小児がん拠点病院として、整備した施設及び体制の活用により、小児がん診療の更なる充実を行う。 ①②静岡県小児がん拠点病院(厚生労働省指定)として血液腫瘍に対しては、骨髓・末梢血幹細胞・臍帯血移植などの治療法を利用して対応する。 ①②小児がん連携拠点病院の指定を念頭に置き、小児がん診療の更なる充実を図る。 ③県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスを実施する。 ④AYA世代がんに携わる医療従事者向け研修会を開催する。 ⑤がん公開講座や研修会等を開催する。 など	1 					

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（令4、第3期中期目標期間(みなし評価)）	令和4年度実績 自己評価																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
						暫定	本評価	説明																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	・精神疾患を持つ小児患者やその家族に対して、児童精神科分野における中核的機能の発揮に努める。	○子どものこころの診療分野について、総合病院、こころの医療センターとの連携を図り、県内の児童精神医療に貢献 ①子どもの精神科専門病棟を有することも病院として、成人移行を見据え、総合病院、こころの医療センターとの連携体制強化 ②「子どもの心の診療ネットワーク事業」の拠点病院として、教育・福祉・医療機関の連携ネットワークの更なる拡大、充実 ③臨床研修の充実による児童精神科医の継続的育成	56	①児童精神科医療について、県立病院機構精神科あり方検討を踏まえ、総合病院、こころの医療センターなどと連携し、体制の見直し・充実を図る。	こころの診療科診療実績（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>入院延患者数</td><td>10,864</td><td>10,011</td><td>9,445</td><td>7,890</td><td>10,353</td><td>11,258</td><td>11,300</td></tr><tr><td>入院新患者数</td><td>58</td><td>57</td><td>50</td><td>63</td><td>71</td><td>63</td><td>70</td></tr><tr><td>外来延患者数</td><td>12,607</td><td>12,376</td><td>11,604</td><td>11,416</td><td>13,211</td><td>12,506</td><td>13,200</td></tr><tr><td>外来初診患者数</td><td>502</td><td>466</td><td>514</td><td>579</td><td>617</td><td>542</td><td>620</td></tr></table> こころの診療科地域別実患者数実績（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>東部</td><td>766</td><td>779</td><td>759</td><td>744</td><td>829</td><td>796</td><td>800</td></tr><tr><td>中部</td><td>1,157</td><td>1,190</td><td>1,227</td><td>1,329</td><td>1,423</td><td>1,424</td><td>1,500</td></tr><tr><td>西部</td><td>59</td><td>56</td><td>59</td><td>56</td><td>53</td><td>44</td><td>50</td></tr><tr><td>県外</td><td>15</td><td>10</td><td>14</td><td>13</td><td>13</td><td>9</td><td>10</td></tr><tr><td>合計</td><td>1,997</td><td>2,035</td><td>2,059</td><td>2,142</td><td>2,318</td><td>2,273</td><td>2,360</td></tr></table>	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	入院延患者数	10,864	10,011	9,445	7,890	10,353	11,258	11,300	入院新患者数	58	57	50	63	71	63	70	外来延患者数	12,607	12,376	11,604	11,416	13,211	12,506	13,200	外来初診患者数	502	466	514	579	617	542	620	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	東部	766	779	759	744	829	796	800	中部	1,157	1,190	1,227	1,329	1,423	1,424	1,500	西部	59	56	59	56	53	44	50	県外	15	10	14	13	13	9	10	合計	1,997	2,035	2,059	2,142	2,318	2,273	2,360	A	A	こころの診療科の令和4年度入院延患者数は、令和3年度に比べ増加した（109％）。 また、県内の児童精神科医療の中核機関として、中部地域だけでなく、児童精神科の医療機関が少ない東部地域からも多くの患者を受け入れた。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
入院延患者数	10,864	10,011	9,445	7,890	10,353	11,258	11,300																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
入院新患者数	58	57	50	63	71	63	70																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
外来延患者数	12,607	12,376	11,604	11,416	13,211	12,506	13,200																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
外来初診患者数	502	466	514	579	617	542	620																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
東部	766	779	759	744	829	796	800																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
中部	1,157	1,190	1,227	1,329	1,423	1,424	1,500																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
西部	59	56	59	56	53	44	50																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
県外	15	10	14	13	13	9	10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
合計	1,997	2,035	2,059	2,142	2,318	2,273	2,360																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
			57	②厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に静岡県の拠点病院として参加する。	事業を行っている全国19都府県 1 政令指定都市にある29の拠点病院の一つとして参加し、学校・地域との連携強化を図った。 （拠点病院を配置している都府県等） 岩手県、千葉県、東京都、石川県、山梨県、長野県、静岡県、三重県、大阪府、兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、香川県、高知県、福岡県、佐賀県、熊本県、沖縄県、札幌市 精神保健講座等開催実績 <table><tr><th></th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>区分</td><td>精神保健 講座</td><td>児童養護 施設巡回 講座</td><td>精神保健 講座</td><td>児童養護 施設巡回 講座</td><td>精神保健 講座</td><td>児童養護 施設巡回 講座</td><td>精神保健 講座</td><td>児童養護 施設巡回 講座</td></tr><tr><td>対象</td><td>県内小中 学校教諭 ・家族</td><td>こども 県内小中 学校教諭 ・家族</td><td>こども 県内小中 学校教諭 ・家族</td><td>こども 県内小中 学校教諭 ・家族</td><td>こども 県内小中 学校教諭 ・家族</td><td>こども 県内小中 学校教諭 ・家族</td><td>こども 県内小中 学校教諭 ・家族</td></tr><tr><td>参加者数等</td><td>5回 156人</td><td>11回 11施設</td><td>5回 159人</td><td>10回 10施設</td><td>5回 96人</td><td>11回 11施設</td><td>4回 49人</td><td>10回 11施設</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>		29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	区分	精神保健 講座	児童養護 施設巡回 講座	精神保健 講座	児童養護 施設巡回 講座	精神保健 講座	児童養護 施設巡回 講座	精神保健 講座	児童養護 施設巡回 講座	対象	県内小中 学校教諭 ・家族	こども 県内小中 学校教諭 ・家族	こども 県内小中 学校教諭 ・家族	こども 県内小中 学校教諭 ・家族	こども 県内小中 学校教諭 ・家族	こども 県内小中 学校教諭 ・家族	こども 県内小中 学校教諭 ・家族	参加者数等	5回 156人	11回 11施設	5回 159人	10回 10施設	5回 96人	11回 11施設	4回 49人	10回 11施設																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
区分	精神保健 講座	児童養護 施設巡回 講座	精神保健 講座	児童養護 施設巡回 講座	精神保健 講座	児童養護 施設巡回 講座	精神保健 講座	児童養護 施設巡回 講座																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
対象	県内小中 学校教諭 ・家族	こども 県内小中 学校教諭 ・家族	こども 県内小中 学校教諭 ・家族	こども 県内小中 学校教諭 ・家族	こども 県内小中 学校教諭 ・家族	こども 県内小中 学校教諭 ・家族	こども 県内小中 学校教諭 ・家族																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
参加者数等	5回 156人	11回 11施設	5回 159人	10回 10施設	5回 96人	11回 11施設	4回 49人	10回 11施設																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												

						令和4年度実績 自己評価																																																																																																																																																																																																																																																									
中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（令4、第3期中期目標期間(みなし評価)）	暫定	本評価	説明																																																																																																																																																																																																																																																							
			63	・即時的で効果的な人材を確保するため、採用試験を適宜実施する。	看護師については、定時募集に加えて随時募集を実施し、切れ目のない採用試験を実施している。さらに優秀な人材確保のためコメディカルのアソシエイトの公募試験を実施した。 <table><tr><td colspan="4">正規職員の確保状況（各年度4月1日現在）</td><td colspan="4">（単位：人）</td></tr><tr><td>区分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td rowspan="6">法人合計</td><td>医 師</td><td>260</td><td>269</td><td>283</td><td>289</td><td>293</td><td>307</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>4</td><td>4</td><td>5</td><td>7</td><td>7</td><td>8</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>1,370</td><td>1,370</td><td>1,366</td><td>1,398</td><td>1,403</td><td>1,398</td></tr><tr><td>医療技術</td><td>315</td><td>319</td><td>333</td><td>347</td><td>362</td><td>369</td></tr><tr><td>研 究 員</td><td></td><td></td><td>2</td><td>2</td><td></td><td>1</td></tr><tr><td>事 務</td><td>118</td><td>126</td><td>123</td><td>131</td><td>136</td><td>140</td></tr><tr><td>計</td><td>2,067</td><td>2,088</td><td>2,112</td><td>2,174</td><td>2,201</td><td>2,223</td><td>2,192</td></tr><tr><td rowspan="6">本部</td><td>医 師</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>看護 師</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td><td>1</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>医療技術</td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>事 務</td><td>25</td><td>32</td><td>32</td><td>32</td><td>32</td><td>34</td></tr><tr><td>計</td><td>27</td><td>34</td><td>35</td><td>34</td><td>36</td><td>38</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="6">総合</td><td>医 師</td><td>157</td><td>165</td><td>179</td><td>184</td><td>188</td><td>195</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td><td>6</td><td>5</td><td>6</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>804</td><td>806</td><td>807</td><td>829</td><td>826</td><td>837</td></tr><tr><td>医療技術</td><td>208</td><td>214</td><td>226</td><td>237</td><td>249</td><td>255</td></tr><tr><td>研 究 員</td><td></td><td></td><td>2</td><td>2</td><td></td><td>1</td></tr><tr><td>事 務</td><td>52</td><td>54</td><td>53</td><td>59</td><td>63</td><td>65</td></tr><tr><td>計</td><td>1,224</td><td>1,242</td><td>1,271</td><td>1,317</td><td>1,331</td><td>1,359</td><td>1,341</td></tr><tr><td rowspan="6">こころ</td><td>医 師</td><td>12</td><td>14</td><td>14</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>看護 師</td><td>115</td><td>118</td><td>120</td><td>124</td><td>122</td><td>122</td></tr><tr><td>医療技術</td><td>26</td><td>25</td><td>25</td><td>26</td><td>26</td><td>27</td></tr><tr><td>事 務</td><td>13</td><td>13</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td></tr><tr><td>計</td><td>166</td><td>170</td><td>170</td><td>175</td><td>174</td><td>176</td></tr><tr><td rowspan="6">こども</td><td>医 師</td><td>91</td><td>90</td><td>90</td><td>91</td><td>92</td><td>99</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>449</td><td>444</td><td>436</td><td>444</td><td>452</td><td>436</td></tr><tr><td>医療技術</td><td>81</td><td>80</td><td>82</td><td>84</td><td>86</td><td>86</td></tr><tr><td>事 務</td><td>28</td><td>27</td><td>27</td><td>28</td><td>28</td><td>27</td></tr><tr><td>計</td><td>650</td><td>642</td><td>636</td><td>648</td><td>660</td><td>650</td></tr></table>	正規職員の確保状況（各年度4月1日現在）				（単位：人）				区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	法人合計	医 師	260	269	283	289	293	307	歯科医師	4	4	5	7	7	8	看護 師	1,370	1,370	1,366	1,398	1,403	1,398	医療技術	315	319	333	347	362	369	研 究 員			2	2		1	事 務	118	126	123	131	136	140	計	2,067	2,088	2,112	2,174	2,201	2,223	2,192	本部	医 師							看護 師	2	2	3	1	3	3	医療技術				1	1	1	事 務	25	32	32	32	32	34	計	27	34	35	34	36	38								総合	医 師	157	165	179	184	188	195	歯科医師	3	3	4	6	5	6	看護 師	804	806	807	829	826	837	医療技術	208	214	226	237	249	255	研 究 員			2	2		1	事 務	52	54	53	59	63	65	計	1,224	1,242	1,271	1,317	1,331	1,359	1,341	こころ	医 師	12	14	14	13	13	13	歯科医師							看護 師	115	118	120	124	122	122	医療技術	26	25	25	26	26	27	事 務	13	13	11	12	13	14	計	166	170	170	175	174	176	こども	医 師	91	90	90	91	92	99	歯科医師	1	1	1	1	2	2	看護 師	449	444	436	444	452	436	医療技術	81	80	82	84	86	86	事 務	28	27	27	28	28	27	計	650	642	636	648	660	650		A	医師については、専門医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力を伝え、募集に努めている。 今後、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、医学生向け説明会への参加や病院見学の受入などを行い確保に努める。 令和4年度は、看護師募集について、定時募集を第1回から3病院対象に実施し、計3回実施予定。 また、経験者を対象とした月次募集により切れ目のない募集を実施している。なお、看護師確保のため、就職説明会への参加や各種広報、養成校訪問、病院説明会など様々な確保対策を進め、採用数の増加に繋げている。 コメディカルは、必要な職種について適時、募集を実施しており、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、視能訓練士、言語聴覚士（アソシエイト）、医療ソーシャルワーカー、精神保健福祉士、心理療法士、遺伝カウンセラーについて公募試験を実施し優秀な人材の確保に努めている。 事務についても、正規職員の公募試験を実施し、優秀な人材の確保に努めている。
正規職員の確保状況（各年度4月1日現在）				（単位：人）																																																																																																																																																																																																																																																											
区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																																																																																								
法人合計	医 師	260	269	283	289	293	307																																																																																																																																																																																																																																																								
	歯科医師	4	4	5	7	7	8																																																																																																																																																																																																																																																								
	看護 師	1,370	1,370	1,366	1,398	1,403	1,398																																																																																																																																																																																																																																																								
	医療技術	315	319	333	347	362	369																																																																																																																																																																																																																																																								
	研 究 員			2	2		1																																																																																																																																																																																																																																																								
	事 務	118	126	123	131	136	140																																																																																																																																																																																																																																																								
計	2,067	2,088	2,112	2,174	2,201	2,223	2,192																																																																																																																																																																																																																																																								
本部	医 師																																																																																																																																																																																																																																																														
	看護 師	2	2	3	1	3	3																																																																																																																																																																																																																																																								
	医療技術				1	1	1																																																																																																																																																																																																																																																								
	事 務	25	32	32	32	32	34																																																																																																																																																																																																																																																								
	計	27	34	35	34	36	38																																																																																																																																																																																																																																																								
総合	医 師	157	165	179	184	188	195																																																																																																																																																																																																																																																								
	歯科医師	3	3	4	6	5	6																																																																																																																																																																																																																																																								
	看護 師	804	806	807	829	826	837																																																																																																																																																																																																																																																								
	医療技術	208	214	226	237	249	255																																																																																																																																																																																																																																																								
	研 究 員			2	2		1																																																																																																																																																																																																																																																								
	事 務	52	54	53	59	63	65																																																																																																																																																																																																																																																								
計	1,224	1,242	1,271	1,317	1,331	1,359	1,341																																																																																																																																																																																																																																																								
こころ	医 師	12	14	14	13	13	13																																																																																																																																																																																																																																																								
	歯科医師																																																																																																																																																																																																																																																														
	看護 師	115	118	120	124	122	122																																																																																																																																																																																																																																																								
	医療技術	26	25	25	26	26	27																																																																																																																																																																																																																																																								
	事 務	13	13	11	12	13	14																																																																																																																																																																																																																																																								
	計	166	170	170	175	174	176																																																																																																																																																																																																																																																								
こども	医 師	91	90	90	91	92	99																																																																																																																																																																																																																																																								
	歯科医師	1	1	1	1	2	2																																																																																																																																																																																																																																																								
	看護 師	449	444	436	444	452	436																																																																																																																																																																																																																																																								
	医療技術	81	80	82	84	86	86																																																																																																																																																																																																																																																								
	事 務	28	27	27	28	28	27																																																																																																																																																																																																																																																								
	計	650	642	636	648	660	650																																																																																																																																																																																																																																																								
			64	・就職説明会への参加、多角的な広報の実施や養成校の訪問などにより、必要な職員の確保を目指す。	看護学生向け就職説明会（単位：人） <table><tr><td>区 分</td><td>来場者数</td><td>訪問者数</td><td>受験者数</td></tr><tr><td>ナース専科（静岡）</td><td>131</td><td>131</td><td>11</td></tr><tr><td>ナースナビ（浜松）</td><td>184</td><td>62</td><td>1</td></tr><tr><td>マイナビ（静岡）</td><td>155</td><td>188</td><td>58</td></tr><tr><td>（沼津）</td><td>104</td><td>104</td><td>34</td></tr><tr><td colspan="2">業者計</td><td colspan="2">104</td></tr><tr><td>静岡県立大学</td><td>PR動画の提供</td><td colspan="2">—</td></tr><tr><td>常葉大学</td><td></td><td>52</td><td>—</td></tr><tr><td>聖隷クリストファー大学</td><td>120</td><td>120</td><td>—</td></tr><tr><td>順天堂大学</td><td>開催なし</td><td colspan="2">—</td></tr><tr><td>静岡市立看護専門学校</td><td>80</td><td>33</td><td>—</td></tr><tr><td>静岡県立看護専門学校</td><td>PR動画の提供</td><td colspan="2">—</td></tr><tr><td colspan="2">養成校計</td><td colspan="2">0</td></tr><tr><td colspan="2">計</td><td colspan="2">104</td></tr></table> ※訪問者数は病院間の重複あり 看護学生向け就職説明会（単位：人） <table><tr><td></td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td></tr><tr><td>来場者数</td><td>業者</td><td>887</td><td>226</td><td>709</td><td>709</td><td>582</td><td>574</td></tr><tr><td></td><td>養成校</td><td>997</td><td>602</td><td>35</td><td>35</td><td>137</td><td>200</td></tr><tr><td>訪問者数</td><td>業者</td><td>608</td><td>64</td><td>645</td><td>645</td><td>435</td><td>485</td></tr><tr><td></td><td>養成校</td><td>357</td><td>345</td><td>316</td><td>316</td><td>120</td><td>85</td></tr><tr><td>受験者数</td><td>業者</td><td>53</td><td>3</td><td>112</td><td>112</td><td>82</td><td>104</td></tr><tr><td></td><td>養成校</td><td>64</td><td>73</td><td>92</td><td>92</td><td>72</td><td>67</td></tr></table>	区 分	来場者数	訪問者数	受験者数	ナース専科（静岡）	131	131	11	ナースナビ（浜松）	184	62	1	マイナビ（静岡）	155	188	58	（沼津）	104	104	34	業者計		104		静岡県立大学	PR動画の提供	—		常葉大学		52	—	聖隷クリストファー大学	120	120	—	順天堂大学	開催なし	—		静岡市立看護専門学校	80	33	—	静岡県立看護専門学校	PR動画の提供	—		養成校計		0		計		104			29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	来場者数	業者	887	226	709	709	582	574		養成校	997	602	35	35	137	200	訪問者数	業者	608	64	645	645	435	485		養成校	357	345	316	316	120	85	受験者数	業者	53	3	112	112	82	104		養成校	64	73	92	92	72	67	—	A	令和4年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で今までのような病院見学会やインターンシップの開催ができない中、少しでも学生の知りたい情報を提供するため、積極的に説明会への参加を予定している。 看護師確保対策の中でも企業・養成校主催の就職説明会は、看護学生が看護部長や先輩看護師等と直接話ができることから、病院の宣伝だけでなく、看護学生個人が知りたい情報を直接伝えることができる利点がある。 説明会での内容は内定者からのアンケート結果を参考に検討をし、病院内での様子が伝わるよう動画などを用いて説明を行っている。今後も昨年に引き続き企業・養成校主催の説明会へ参加し、現在の学生の動向等をつかむことで、看護師確保に努める。																																																																																																																																							
区 分	来場者数	訪問者数	受験者数																																																																																																																																																																																																																																																												
ナース専科（静岡）	131	131	11																																																																																																																																																																																																																																																												
ナースナビ（浜松）	184	62	1																																																																																																																																																																																																																																																												
マイナビ（静岡）	155	188	58																																																																																																																																																																																																																																																												
（沼津）	104	104	34																																																																																																																																																																																																																																																												
業者計		104																																																																																																																																																																																																																																																													
静岡県立大学	PR動画の提供	—																																																																																																																																																																																																																																																													
常葉大学		52	—																																																																																																																																																																																																																																																												
聖隷クリストファー大学	120	120	—																																																																																																																																																																																																																																																												
順天堂大学	開催なし	—																																																																																																																																																																																																																																																													
静岡市立看護専門学校	80	33	—																																																																																																																																																																																																																																																												
静岡県立看護専門学校	PR動画の提供	—																																																																																																																																																																																																																																																													
養成校計		0																																																																																																																																																																																																																																																													
計		104																																																																																																																																																																																																																																																													
	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																																																																																																																																								
来場者数	業者	887	226	709	709	582	574																																																																																																																																																																																																																																																								
	養成校	997	602	35	35	137	200																																																																																																																																																																																																																																																								
訪問者数	業者	608	64	645	645	435	485																																																																																																																																																																																																																																																								
	養成校	357	345	316	316	120	85																																																																																																																																																																																																																																																								
受験者数	業者	53	3	112	112	82	104																																																																																																																																																																																																																																																								
	養成校	64	73	92	92	72	67																																																																																																																																																																																																																																																								

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（令4、第3期中期目標期間(みなし評価)）	令和4年度実績 自己評価																																																																																																																																																			
						暫定	本評価	説明																																																																																																																																																	
(1) 医療従事者の確保・育成 各病院が有する物的・人的資源を活用した研修プログラムを充実させることにより、各病院において臨床研修医や専攻医の確保・育成に取り組むほか、県との協働により、本県の医師確保対策に取り組むこと。また、看護師及びその他の医療従事者の資質向上のため、所有施設を有効活用した研修の充実を図るとともに、看護師養成施設等からの実習生受入れなど、県内の看護師の養成に協力すること。	(1) 医療従事者の確保・育成 県立病院が中心となり、医療技術向上と医師養成の特色のある取組を設け、充実した研修体制を整備し、臨床研修医や専攻医の技能や知識の向上に努めるほか、県との協働による本県の医師確保対策に取り組む。また、県立総合病院のメディカルスキルアップセンターの機能拡充や、県立こども病院のラーニングセンターを活用して、医師、看護師及びその他の医療従事者の教育研修体制の強化に努める。実習生の受入れや職員の派遣などを通じて国内外の医療機関と交流を進める。	(1) 医療従事者の確保・育成 ①研修医に選ばれる良質な臨床研修指定病院としての臨床研修機能の充実 ②地域医療連携推進法人の参画医療機関等との連携による医療従事者の確保 ③医師の技術・知識の向上のための一般研修及び海外研修の充実、海外医師の招聘による研修の充実 ④県立総合病院メディカルスキルアップセンターを活用した教育研修の充実、複数病院との共同利用で合同一次・二次救命処置トレーニングの実施 ⑤県立こども病院ラーニングセンターの運用 ⑥国際交流の推進 ⑦認定看護師等の資格取得への支援 ⑧看護学生等に対する魅力的な実習の提供 ⑨コメディカル・事務職員の研修	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																	
		【目標値】 ・医師数(総合、こころ、こども) ・看護師数(総合、こころ、こども)	65	各病院（総務）	(総合) (総合) 海外研修の実績 (4年度末時点) (単位：人) <table><tr><th colspan="2">内 容</th><th>人数</th><th colspan="2">内 容</th><th>人数</th></tr><tr><td rowspan="16">元年度</td><td>11th CONGRESS OF THE VASCULAR ACCESS SOCIETY</td><td>2</td><td>2年度</td><td colspan="2">実績なし</td></tr><tr><td>AATS 99th Annual Meeting</td><td>2</td><td>3年度</td><td colspan="2">実績なし</td></tr><tr><td>米国胸部疾患学会2019国際会議</td><td>3</td><td rowspan="7">4年度</td><td>オーストラリア交換研修</td><td>1</td></tr><tr><td>Jung Conference in Wroclaw 2019</td><td>1</td><td>34th European Congress of Pathology</td><td>1</td></tr><tr><td>24th World Congress of Dermatology Milan 2019</td><td>1</td><td>欧州呼吸器学会国際会議2022</td><td>2</td></tr><tr><td>SSAI 2019</td><td>3</td><td>ICS 2022 VIENNA</td><td>3</td></tr><tr><td>第31回欧州病理学会</td><td>1</td><td>World Allergy Congress2022</td><td>2</td></tr><tr><td>欧州呼吸器学会国際会議2019</td><td>3</td><td>Dialysis Access Synergy 2022</td><td>1</td></tr><tr><td>29th Congress of the European Society of Surgical Oncology</td><td>2</td><td>American Society of Human Genetics2022</td><td>1</td></tr><tr><td>第28回ヨーロッパ皮膚科学・性病学会学術大会</td><td>1</td><td rowspan="6">5年度</td><td>APLAR2022</td><td>1</td></tr><tr><td>ヨーロッパ 救急医学会</td><td>1</td><td>TRANCON2022</td><td>1</td></tr><tr><td>チェスト年次会議2019</td><td>3</td><td>2023米国アレルギー喘息免疫アカデミー年次総会</td><td>2</td></tr><tr><td>37th WORLD CONGRESS OF ENDOUROLOGY</td><td>2</td><td>4th congress of the European society of surgical oncology</td><td>1</td></tr><tr><td>American Pancreatic Assosiation</td><td>3</td><td>Substitutive Genetics and Genomics Gordon Research Conference</td><td>1</td></tr><tr><td>ANS Kidney Week 2019</td><td>2</td><td>臨床研修医 U C L A 研修</td><td>12</td></tr><tr><td>アジア太平洋呼吸器学会国際会議2019</td><td>2</td><td rowspan="3">5年度</td><td colspan="2" rowspan="3">未 定</td></tr><tr><td>EuroEcho 2019</td><td>2</td></tr><tr><td>ASCVTS2020</td><td>2</td></tr><tr><td>第109回 USCAP2020</td><td>1</td><td colspan="2">計</td><td>84</td></tr><tr><td>臨床研修医 U C L A 研修</td><td>18</td><td colspan="2"></td><td></td></tr></table> 例年、海外の学会に治療実績等の発表を行い、技術力の高さを示している。 海外研修の報告は、院内には定例医局会・院内連絡会で行われており、対外的には研修医募集のホームページに掲載している。 海外での学会発表実績 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>総合</td><td>23</td><td>33</td><td>65</td><td>0</td><td>0</td><td>11</td><td>11</td></tr><tr><td>こども</td><td>22</td><td>31</td><td>31</td><td>3</td><td>19</td><td>27</td><td>25</td></tr></table> 海外研修の主な実績 (4年度9月末) (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th colspan="2">内 容</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>総 合</td><td colspan="2">ICS 2022 VIENNA</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td></td><td colspan="2">その他 海外学会</td><td>13</td><td>13</td></tr><tr><td>こころ</td><td colspan="2">—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>こども</td><td colspan="2">The 2nd Asian Association for Pediatric and Congenital Heart Surgery Annual Meeting</td><td>2</td><td>0</td></tr><tr><td></td><td colspan="2">その他海外学会</td><td>6</td><td>15</td></tr></table>	内 容		人数	内 容		人数	元年度	11th CONGRESS OF THE VASCULAR ACCESS SOCIETY	2	2年度	実績なし		AATS 99th Annual Meeting	2	3年度	実績なし		米国胸部疾患学会2019国際会議	3	4年度	オーストラリア交換研修	1	Jung Conference in Wroclaw 2019	1	34th European Congress of Pathology	1	24th World Congress of Dermatology Milan 2019	1	欧州呼吸器学会国際会議2022	2	SSAI 2019	3	ICS 2022 VIENNA	3	第31回欧州病理学会	1	World Allergy Congress2022	2	欧州呼吸器学会国際会議2019	3	Dialysis Access Synergy 2022	1	29th Congress of the European Society of Surgical Oncology	2	American Society of Human Genetics2022	1	第28回ヨーロッパ皮膚科学・性病学会学術大会	1	5年度	APLAR2022	1	ヨーロッパ 救急医学会	1	TRANCON2022	1	チェスト年次会議2019	3	2023米国アレルギー喘息免疫アカデミー年次総会	2	37th WORLD CONGRESS OF ENDOUROLOGY	2	4th congress of the European society of surgical oncology	1	American Pancreatic Assosiation	3	Substitutive Genetics and Genomics Gordon Research Conference	1	ANS Kidney Week 2019	2	臨床研修医 U C L A 研修	12	アジア太平洋呼吸器学会国際会議2019	2	5年度	未 定		EuroEcho 2019	2	ASCVTS2020	2	第109回 USCAP2020	1	計		84	臨床研修医 U C L A 研修	18				区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	総合	23	33	65	0	0	11	11	こども	22	31	31	3	19	27	25	区 分	内 容		4年度	5年度見込	総 合	ICS 2022 VIENNA		3	3		その他 海外学会		13	13	こころ	—		—	—	こども	The 2nd Asian Association for Pediatric and Congenital Heart Surgery Annual Meeting		2	0		その他海外学会		6	15	A	A	(総合) 毎月、基礎臨床講座を開催し、各指導医から研修医等へ講義を行っているほか、医療英語・海外学会発表研修など臨床研修機能の充実を図っている。 この他、医師の技術力向上を目指し海外研修を奨励している。 また、海外学会発表を積極的に行っており、技術力の高さを示している。 令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた令和2年度及び3年度よりも学会への参加が増加している。 静岡県社会健康医学大学院大学の開学式(令和4年3月)において、浙江省衛生健康委員会をはじめとする関係医療機関の幹部を紹介した。 浙江大学医学院附属邵逸夫(ショウイップ)医院の新棟竣工式(令和4年4月)において、田中理事長からビデオ祝辞を送付した。 また、6月には、静岡県立病院機構及び総合病院の新体制を紹介する目的で、浙江省衛生健康委員会とWEB会談を実施した。(こども) 令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた令和2年度及び3年度よりも海外での学会発表が増加した。 また、新型コロナウイルス感染症の影響により、浙江省儿童医院との医師相互研修等は中止した。	
			内 容		人数	内 容		人数																																																																																																																																																	
			元年度	11th CONGRESS OF THE VASCULAR ACCESS SOCIETY	2	2年度	実績なし																																																																																																																																																		
AATS 99th Annual Meeting	2	3年度		実績なし																																																																																																																																																					
米国胸部疾患学会2019国際会議	3	4年度		オーストラリア交換研修	1																																																																																																																																																				
Jung Conference in Wroclaw 2019	1			34th European Congress of Pathology	1																																																																																																																																																				
24th World Congress of Dermatology Milan 2019	1			欧州呼吸器学会国際会議2022	2																																																																																																																																																				
SSAI 2019	3			ICS 2022 VIENNA	3																																																																																																																																																				
第31回欧州病理学会	1			World Allergy Congress2022	2																																																																																																																																																				
欧州呼吸器学会国際会議2019	3			Dialysis Access Synergy 2022	1																																																																																																																																																				
29th Congress of the European Society of Surgical Oncology	2			American Society of Human Genetics2022	1																																																																																																																																																				
第28回ヨーロッパ皮膚科学・性病学会学術大会	1	5年度		APLAR2022	1																																																																																																																																																				
ヨーロッパ 救急医学会	1			TRANCON2022	1																																																																																																																																																				
チェスト年次会議2019	3			2023米国アレルギー喘息免疫アカデミー年次総会	2																																																																																																																																																				
37th WORLD CONGRESS OF ENDOUROLOGY	2			4th congress of the European society of surgical oncology	1																																																																																																																																																				
American Pancreatic Assosiation	3			Substitutive Genetics and Genomics Gordon Research Conference	1																																																																																																																																																				
ANS Kidney Week 2019	2			臨床研修医 U C L A 研修	12																																																																																																																																																				
アジア太平洋呼吸器学会国際会議2019	2	5年度		未 定																																																																																																																																																					
EuroEcho 2019	2																																																																																																																																																								
ASCVTS2020	2																																																																																																																																																								
第109回 USCAP2020	1	計		84																																																																																																																																																					
臨床研修医 U C L A 研修	18																																																																																																																																																								
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																																		
総合	23	33	65	0	0	11	11																																																																																																																																																		
こども	22	31	31	3	19	27	25																																																																																																																																																		
区 分	内 容		4年度	5年度見込																																																																																																																																																					
総 合	ICS 2022 VIENNA		3	3																																																																																																																																																					
	その他 海外学会		13	13																																																																																																																																																					
こころ	—		—	—																																																																																																																																																					
こども	The 2nd Asian Association for Pediatric and Congenital Heart Surgery Annual Meeting		2	0																																																																																																																																																					
	その他海外学会		6	15																																																																																																																																																					
			66	総合	メディカルスキルアップセンター利用状況 (単位：回、人) <table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th colspan="2">29年度</th><th colspan="2">30年度</th><th colspan="2">元年度</th><th colspan="2">2年度</th><th colspan="2">3年度</th><th colspan="2">4年度</th><th colspan="2">5年度見込</th></tr><tr><th>うち外部利用</th><th></th><th>うち外部利用</th><th></th><th>うち外部利用</th><th></th><th>うち外部利用</th><th></th><th>うち外部利用</th><th></th><th>うち外部利用</th><th></th><th>うち外部利用</th><th></th></tr><tr><td rowspan="2">医師</td><td>開催回数</td><td>488</td><td>44</td><td>617</td><td>31</td><td>775</td><td>42</td><td>1097</td><td>5</td><td>1,773</td><td>5</td><td>925</td><td>0</td><td>925</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>2,713</td><td>197</td><td>2,772</td><td>145</td><td>3,236</td><td>166</td><td>3,488</td><td>16</td><td>3,194</td><td>41</td><td>1,707</td><td>17</td><td>1,707</td></tr><tr><td rowspan="2">看護師</td><td>開催回数</td><td>196</td><td>48</td><td>230</td><td>32</td><td>288</td><td>39</td><td>275</td><td>7</td><td>175</td><td>4</td><td>95</td><td>0</td><td>95</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>3,569</td><td>296</td><td>4,474</td><td>237</td><td>5,867</td><td>291</td><td>4,468</td><td>67</td><td>2,987</td><td>67</td><td>2,016</td><td>0</td><td>2,016</td></tr><tr><td rowspan="2">その他</td><td>開催回数</td><td>147</td><td>115</td><td>188</td><td>137</td><td>310</td><td>186</td><td>238</td><td>118</td><td>122</td><td>91</td><td>10</td><td>0</td><td>10</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>2,298</td><td>1,914</td><td>2,560</td><td>1,397</td><td>2,671</td><td>1,122</td><td>1,863</td><td>736</td><td>503</td><td>215</td><td>392</td><td>146</td><td>392</td></tr><tr><td rowspan="2">計</td><td>開催回数</td><td>831</td><td>207</td><td>1,035</td><td>200</td><td>1,373</td><td>267</td><td>1,610</td><td>130</td><td>2,070</td><td>100</td><td>1,030</td><td>0</td><td>1,030</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>8,580</td><td>2,407</td><td>9,806</td><td>1,779</td><td>11,774</td><td>1,579</td><td>9,819</td><td>819</td><td>6,684</td><td>323</td><td>4,115</td><td>163</td><td>4,115</td></tr></table>	区 分	29年度		30年度		元年度		2年度		3年度		4年度		5年度見込		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		医師	開催回数	488	44	617	31	775	42	1097	5	1,773	5	925	0	925	参加人数	2,713	197	2,772	145	3,236	166	3,488	16	3,194	41	1,707	17	1,707	看護師	開催回数	196	48	230	32	288	39	275	7	175	4	95	0	95	参加人数	3,569	296	4,474	237	5,867	291	4,468	67	2,987	67	2,016	0	2,016	その他	開催回数	147	115	188	137	310	186	238	118	122	91	10	0	10	参加人数	2,298	1,914	2,560	1,397	2,671	1,122	1,863	736	503	215	392	146	392	計	開催回数	831	207	1,035	200	1,373	267	1,610	130	2,070	100	1,030	0	1,030	参加人数	8,580	2,407	9,806	1,779	11,774	1,579	9,819	819	6,684	323	4,115	163	4,115	A	A	メディカルスキルアップセンターでは、各種シミュレーターを導入し、研修医を始めとする医師や看護師等の医療従事者によるトレーニングや講習に活用している。外部利用については、医師会主催の研修会や高校生の見学ツアー時の診療体験などで活用されている。 令和4年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により研修会等が中止となったこともあり、利用者数は減少した。 今後も院内利用だけでなく、外部利用の拡大に努める。
区 分	29年度		30年度		元年度		2年度		3年度		4年度		5年度見込																																																																																																																																												
	うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用																																																																																																																																												
医師	開催回数	488	44	617	31	775	42	1097	5	1,773	5	925	0	925																																																																																																																																											
	参加人数	2,713	197	2,772	145	3,236	166	3,488	16	3,194	41	1,707	17	1,707																																																																																																																																											
看護師	開催回数	196	48	230	32	288	39	275	7	175	4	95	0	95																																																																																																																																											
	参加人数	3,569	296	4,474	237	5,867	291	4,468	67	2,987	67	2,016	0	2,016																																																																																																																																											
その他	開催回数	147	115	188	137	310	186	238	118	122	91	10	0	10																																																																																																																																											
	参加人数	2,298	1,914	2,560	1,397	2,671	1,122	1,863	736	503	215	392	146	392																																																																																																																																											
計	開催回数	831	207	1,035	200	1,373	267	1,610	130	2,070	100	1,030	0	1,030																																																																																																																																											
	参加人数	8,580	2,407	9,806	1,779	11,774	1,579	9,819	819	6,684	323	4,115	163	4,115																																																																																																																																											
			67	（企画）	従来のラーニングセンターは、改修工事以降使用できないことから、代替施設（病室等）で研修を実施し、今後の運用方法については検討を行ってきた。検討の結果、L棟3階の大会議室にオンライン配信機能等を設置し、ラーニングセンター機能を付加することを決めた。 ラーニングセンター利用状況 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>利用件数</td><td>12</td><td>33</td><td>13</td><td>0</td><td>18</td><td>28</td><td>25</td></tr></table> ※各年度とも正確な研修実施回数の集計はできていない。 ※令3、令4はラーニングセンターが使用中止中のため、代替施設（病室等）での研修回数を記	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	利用件数	12	33	13	0	18	28	25	B	B	従来のラーニングセンターは、令和2年度以降の病棟工事や新型コロナ対策物品の保管場所となる等使用できない期間が続いたことから、会議室や空き病室を利用した研修を実施してきた。 ラーニングセンター再開に向け、令和3年度からワーキンググループで検討を行い、L棟3階の大会議室にオンライン配信機能等を設置し、ラーニングセンター機能を付加することを決めた。																																																																																																																																	
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																																		
利用件数	12	33	13	0	18	28	25																																																																																																																																																		
			68	各病院（企画）	⑥海外との視察者等の受け入れや派遣など、国際交流の推進を図る。 ⑥静岡県社会健康医学大学院大学と連携し、海外大学等との交流を図る。 総合病院では、平成23年度より中国浙江省からの研修受入を行っており、中国浙江省7医院と友好協力協定及び覚書を締結し、研修生を受け入れている。 令和4年度11月に機構と浙江省衛生健康委員会と友好協定を締結した。	B	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、派遣研修及び相互訪問は中止していたが、令和4年度から徐々に再開し、11月には機構と浙江省衛生健康委員会と友好協定を締結するなど交流を行った。																																																																																																																																																	

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画	業務の実績（令4、第3期中期目標期間(みなし評価)）		令和4年度実績 自己評価		
										暫定	本評価	説明
						69	⑦看護師及びその他の医療従事者のスキルアップを図るため、認定看護師の育成のほか医療従事者等の研修等を推進する。 ⑦認定看護師等病院運営に寄与する資格について、取得支援制度を拡充することで、資格取得者の増員を図る。	総合 <				

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（令4、第3期中期目標期間(みなし評価)）	令和4年度実績 自己評価																																													
						暫定	本評価	説明																																											
			74	③全職員を対象とした人事評価制度を円滑に実施する。 本部（総務）	県準拠として職員組合と合意し、平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、令和2年度から給与(勤勉手当)に活用、令和3年度の評価から昇給に活用を開始し(令和3年度前期、後期の評価を令和5年1月1日昇給に活用)、全職員(有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く)を対象に実施している。	A	A	平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、令和2年度から給与(勤勉手当)に活用、令和3年度の評価から昇給に活用を開始し(令和3年度前期、後期の評価を令和5年1月1日昇給に活用)、全職員(有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く)を対象に実施している。																																											
			75	④就労環境の改善に向けた院内施設、子育て支援や相談など福利厚生の実をすすめる。 本部・各病院（総務・企画）	【総合病院】 ・敷地内保険調剤薬局等整備事業において、令和3年9月にカフェ棟が開業し、令和4年4月に薬局・レストラン棟が開業した。 ・院内保育所については、保育所運営協議会において、事務局、委託先、利用者間の意見交換を行い、院内保育所入所者を対象にインフルエンザ予防接種を令和4年度も実施予定である。 【こころの医療センター】 ・昨年度図書室を移転して新たに整備した研修医用研究室の運用を開始するとともに、外来用の面談室を新たに整備するなど、就労環境を改善した。 【こども病院】 ・業務効率の向上等を目的に、タブレット端末(ipad)を導入し、各種会議で活用した。 ・会議室にZoomRoomsを整備し、オンライン会議への参加や主催を効率的に行った。	S	S	総合病院では、敷地内保険調剤薬局等整備事業において、令和3年9月にカフェ棟が開業し、令和4年4月に薬局・レストラン棟が開業した。 こころの医療センターでは、昨年度図書室を移転して新たに整備した研修医用研究室の運用を開始した。 こども病院では、ペーパーレス化と業務効率の向上を目的に、タブレット端末(ipad)を導入し、各種会議で活用した。また、令和4年3月に会議室に7台整備したZoomRoomsにより、Zoomによる複数人でのオンライン会議への参加や会議の主催について、非常に短時間で対応することができるようになった。 看護師等が離職することを防止するため、こころのケアだけでなく体力低下で看護業務へ支障を来さないよう日常の生活相談を含め、心身に対するきめ細かい対応を行い、長期に渡り勤務できる環境を整える取組を行っている。 また、国に先駆けて「就学前児童の養育資金貸付制度」を創設し、独立行政法人ならではの画期的な取組であるとして、全国の自治体から注目を集めた。当機構の制度をモデルケースとして同様の制度が制定される動きが広がっている。 なお、政府が、子育てと職場復帰の両立のための支援のために、育児短時間勤務で働く人向けに、新たな現金給付を創設する方向で検討に入った旨の報道もなされている。 引き続き、院内施設の充実や、就労環境の向上に取り組んでいく。																																											
			76	⑤院内保育の活用を図る。 総合・こども	保育所利用者数 (単位：人) <table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th rowspan="2">定員</th><th colspan="7">平均利用者数</th></tr><tr><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>総合「おひさま」</td><td>100</td><td>90</td><td>82</td><td>75</td><td>65</td><td>65</td><td>70</td><td>70</td></tr><tr><td>こども「ことり」</td><td>80</td><td>13</td><td>13</td><td>16</td><td>17</td><td>19</td><td>32</td><td>32</td></tr><tr><td>計</td><td>180</td><td>103</td><td>95</td><td>91</td><td>82</td><td>84</td><td>102</td><td>102</td></tr></table>	区 分	定員	平均利用者数							29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総合「おひさま」	100	90	82	75	65	65	70	70	こども「ことり」	80	13	13	16	17	19	32	32	計	180	103	95	91	82	84	102	102	A	A	各病院の院内保育所では、育児をしながら勤務する医師や看護師の就労環境の向上のため、保育メニュー等の更なる充実に努めている。 総合病院では、二重保育や夜間保育、土日預かり等の多様なメニューを揃え、子育てしながら働きやすい環境を引き続き提供できている。幼保無償化の影響により入所者数が減少しているため、有期コメディカル・正規事務の入所を開始した。また、院内保育所利用者を対象としたインフルエンザ予防接種も実施した。 こども病院では、令和4年度は45人を上限に運用し、二重保育や病後児保育等の保育サービスに対応した。
区 分	定員	平均利用者数																																																	
		29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																											
総合「おひさま」	100	90	82	75	65	65	70	70																																											
こども「ことり」	80	13	13	16	17	19	32	32																																											
計	180	103	95	91	82	84	102	102																																											

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令4、第3期中期目標期間(みなし評価))	令和4年度実績 自己評価																																																																																																																																																																																																																					
						暫定	本評価	説明																																																																																																																																																																																																																			
3 医療に関する調査及び研究	3 医療に関する調査及び研究	3 医療に関する調査及び研究	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																			
医療や県民の健康寿命延伸に関する調査及び研究を行い、県立病院が提供する医療の高度化や本県の医療水準の向上、県民の健康寿命の延伸に寄与すること。	県内医療水準の向上と県民の健康寿命延伸に寄与するため、病院が有する医療資源の活用、院外への情報発信、他の機関との連携を図りながら、調査及び研究に取り組む。また、それらを円滑に進めるため、診療録の電子化等の医療情報基盤の活用・充実強化に努める。	県内の医療水準の向上と県民の健康寿命延伸に寄与するため、県立病院としての医療資源の活用、院外への情報発信、他機関との連携等により調査・研究に取り組む。	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																			
(1) 研究機能の強化	(1) 研究機能の強化	(1) 研究機能の強化	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																			
各病院が臨床研究に取り組み、その研究成果の発信等により、県内医療水準の向上及び医療人材の確保に努めること。また、県立総合病院のリサーチサポートセンターにおいて、医療ビッグデータを活用した疫学、ゲノム研究など県が推進する社会健康医学研究に協力すること。さらに、産学官との連携による共同研究や治験に取り組むこと。	県立総合病院のリサーチサポートセンターを活用し、各病院が臨床研究に取り組み、その成果を発信することなどにより、県内医療水準の向上と医療人材の確保に努める。また、県が定めた社会健康医学研究推進計画に基づき、社会健康医学の研究推進に協力する。治験や調査研究事業の推進に参画できるよう引き続き体制の整備を行い、県立大学等の研究機関との共同研究にも取り組む。	①各大学院や研究所等との連携を強化し、病院機構が行う特色ある研究の推進・発展 ②県立総合病院リサーチサポートセンターの臨床研究を行う環境整備及び研究支援体制の充実 ③静岡社会健康医学大学院大学と連携した社会健康医学研究の充実・推進 ④聴覚障害児における言語獲得の研究支援の実施と早期治療体制の構築 ⑤県立総合病院リサーチサポートセンターにおいて、静岡県からの受託研究として、「県民の健康寿命の更なる延伸」に向けた社会健康医学研究の実施 ⑥治験や調査研究事業に積極的に参画できる体制の整備・充実による受託件数の増加 ⑦県立大学等の研究機関との共同研究	77	総合	①②臨床研究や疫学研究の充実 ・研究員を確保し、円滑な運用を行う。 ③④⑤研究体制を充実させ、受託研究を円滑に行い、研究成果を体形的に蓄積するとともに、県民へ成果の還元を行う。 ④聴覚障害児における言語獲得の研究支援について、外部機関との連携を推進する。 ④研究体制を充実させ、受託研究を円滑に行い、研究成果を体形的に蓄積するとともに、県民へ成果の還元を行う。 ⑥研究資金となる奨学寄附金を受入れる。 ⑥研究支援室による臨床研究の支援を行う。 ⑦県立大学との共同研究を行う。	<table><tr><td colspan="8">臨床研究数 (単位：件、%)</td></tr><tr><td>区分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>毎年度目標</td></tr><tr><td>研究数</td><td>279</td><td>332</td><td>376</td><td>399</td><td>329</td><td>409</td><td>280以上</td></tr><tr><td>支援研究数</td><td>43</td><td>38</td><td>50</td><td>57</td><td>68</td><td>67</td><td>—</td></tr><tr><td>支援率</td><td>15.4</td><td>11.4</td><td>13.3</td><td>14.3</td><td>20.7</td><td>16.4</td><td>—</td></tr></table> <table><tr><td colspan="8">客員研究員受入状況 (単位：人)</td></tr><tr><td>区分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td></tr><tr><td>静岡県立大学</td><td>14</td><td>14</td><td>15</td><td>15</td><td>15</td><td>13</td><td>13</td></tr><tr><td>外部</td><td>9</td><td>11</td><td>22</td><td>25</td><td>16</td><td>16</td><td>16</td></tr></table> <table><tr><td colspan="8">社会健康医学受託研究の実施状況 (単位：件)</td></tr><tr><td>区分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td></tr><tr><td>件数</td><td>—</td><td>11</td><td>11</td><td>35</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr></table> <table><tr><td colspan="3">奨学寄附金受入件数・金額</td></tr><tr><td>区分</td><td>寄附者</td><td>目的</td><td>金額(千円)</td></tr><tr><td rowspan="3">元年度</td><td>日本ペーパードレーパード株式会社</td><td>糖尿病治療に関する研究</td><td>200</td></tr><tr><td>日本ペーパードレーパード株式会社</td><td>呼吸器疾患における研究</td><td>200</td></tr><tr><td>合計</td><td></td><td>400</td></tr><tr><td rowspan="4">2年度</td><td>日本ペーパードレーパード株式会社</td><td>糖尿病治療に関する研究</td><td>200</td></tr><tr><td>日本ペーパードレーパード株式会社</td><td>呼吸器疾患における研究</td><td>200</td></tr><tr><td>アミカス・セラピューティクス株式会社</td><td>遺伝性疾患に関する研究支援</td><td>500</td></tr><tr><td>株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング</td><td>整形外科疾患における研究</td><td>1,000</td></tr><tr><td>合計</td><td></td><td>1,900</td></tr><tr><td rowspan="3">3年度</td><td>日本ペーパードレーパード株式会社</td><td>糖尿病治療に関する研究</td><td>200</td></tr><tr><td>日本ペーパードレーパード株式会社</td><td>呼吸器疾患における研究</td><td>200</td></tr><tr><td>大正製薬株式会社</td><td>糖尿病疾患の治療に関する研究</td><td>300</td></tr><tr><td>合計</td><td></td><td>700</td></tr><tr><td rowspan="4">4年度</td><td>日本ペーパードレーパード株式会社</td><td>糖尿病治療に関する研究</td><td>200</td></tr><tr><td>日本ペーパードレーパード株式会社</td><td>呼吸器疾患における研究</td><td>100</td></tr><tr><td>京セフ株式会社</td><td>変形関節症に関する研究</td><td>1,500</td></tr><tr><td>第10回日本婦人科ロボット手術学会</td><td>産婦人科の診断治療に関する研究</td><td>500</td></tr><tr><td>合計</td><td></td><td>2,300</td></tr><tr><td>5年度見込</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <table><tr><td colspan="8">新生児聴覚スクリーニング件数</td></tr><tr><td>区分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td></tr><tr><td>スクリーニング件数</td><td>456</td><td>470</td><td>541</td><td>567</td><td>549</td><td>488</td><td>488</td></tr></table> <table><tr><td colspan="8">人工内耳埋込術件数</td></tr><tr><td>区分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td></tr><tr><td>件数</td><td>12</td><td>15</td><td>13</td><td>9</td><td>13</td><td>24</td><td>24</td></tr></table>	臨床研究数 (単位：件、%)								区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	毎年度目標	研究数	279	332	376	399	329	409	280以上	支援研究数	43	38	50	57	68	67	—	支援率	15.4	11.4	13.3	14.3	20.7	16.4	—	客員研究員受入状況 (単位：人)								区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	静岡県立大学	14	14	15	15	15	13	13	外部	9	11	22	25	16	16	16	社会健康医学受託研究の実施状況 (単位：件)								区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	件数	—	11	11	35	3	3	3	奨学寄附金受入件数・金額			区分	寄附者	目的	金額(千円)	元年度	日本ペーパードレーパード株式会社	糖尿病治療に関する研究	200	日本ペーパードレーパード株式会社	呼吸器疾患における研究	200	合計		400	2年度	日本ペーパードレーパード株式会社	糖尿病治療に関する研究	200	日本ペーパードレーパード株式会社	呼吸器疾患における研究	200	アミカス・セラピューティクス株式会社	遺伝性疾患に関する研究支援	500	株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング	整形外科疾患における研究	1,000	合計		1,900	3年度	日本ペーパードレーパード株式会社	糖尿病治療に関する研究	200	日本ペーパードレーパード株式会社	呼吸器疾患における研究	200	大正製薬株式会社	糖尿病疾患の治療に関する研究	300	合計		700	4年度	日本ペーパードレーパード株式会社	糖尿病治療に関する研究	200	日本ペーパードレーパード株式会社	呼吸器疾患における研究	100	京セフ株式会社	変形関節症に関する研究	1,500	第10回日本婦人科ロボット手術学会	産婦人科の診断治療に関する研究	500	合計		2,300	5年度見込				新生児聴覚スクリーニング件数								区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	スクリーニング件数	456	470	541	567	549	488	488	人工内耳埋込術件数								区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	件数	12	15	13	9	13	24	24	S	S	病院機構では、リサーチサポートセンターを活用した研究に取り組んでおり、令和4年度における文部科学省科学研究費の応募・採択状況は、応募件数2件、採択件数1件(3,250千円)となっている。また、静岡社会健康医学大学院大学との連携も引き続き強化しており、難聴児の介入効果など3件の共同研究を行ったほか、令和5年度の修学に向けて博士前期課程に1名、新たに設置される「博士後期課程」に1名の修学候補者を選定している。 きこえとことばのセンター(静岡県乳幼児聴覚支援センター)では、令和3年10月にNTTコミュニケーション科学基礎研究所と音声知覚・言語発達のメカニズムを解明することを目的に締結した協定により共同研究を実施しているほか、言語聴覚士を増員し療育面でも聴覚障害児を支援している。令和4年度には、これまでの研究成果などを活かし、静岡社会健康医学大学院大学における全国初の「聴覚・言語コース」の認可に貢献している。
臨床研究数 (単位：件、%)																																																																																																																																																																																																																											
区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	毎年度目標																																																																																																																																																																																																																				
研究数	279	332	376	399	329	409	280以上																																																																																																																																																																																																																				
支援研究数	43	38	50	57	68	67	—																																																																																																																																																																																																																				
支援率	15.4	11.4	13.3	14.3	20.7	16.4	—																																																																																																																																																																																																																				
客員研究員受入状況 (単位：人)																																																																																																																																																																																																																											
区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																																																																																																				
静岡県立大学	14	14	15	15	15	13	13																																																																																																																																																																																																																				
外部	9	11	22	25	16	16	16																																																																																																																																																																																																																				
社会健康医学受託研究の実施状況 (単位：件)																																																																																																																																																																																																																											
区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																																																																																																				
件数	—	11	11	35	3	3	3																																																																																																																																																																																																																				
奨学寄附金受入件数・金額																																																																																																																																																																																																																											
区分	寄附者	目的	金額(千円)																																																																																																																																																																																																																								
元年度	日本ペーパードレーパード株式会社	糖尿病治療に関する研究	200																																																																																																																																																																																																																								
	日本ペーパードレーパード株式会社	呼吸器疾患における研究	200																																																																																																																																																																																																																								
	合計		400																																																																																																																																																																																																																								
2年度	日本ペーパードレーパード株式会社	糖尿病治療に関する研究	200																																																																																																																																																																																																																								
	日本ペーパードレーパード株式会社	呼吸器疾患における研究	200																																																																																																																																																																																																																								
	アミカス・セラピューティクス株式会社	遺伝性疾患に関する研究支援	500																																																																																																																																																																																																																								
	株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング	整形外科疾患における研究	1,000																																																																																																																																																																																																																								
合計		1,900																																																																																																																																																																																																																									
3年度	日本ペーパードレーパード株式会社	糖尿病治療に関する研究	200																																																																																																																																																																																																																								
	日本ペーパードレーパード株式会社	呼吸器疾患における研究	200																																																																																																																																																																																																																								
	大正製薬株式会社	糖尿病疾患の治療に関する研究	300																																																																																																																																																																																																																								
合計		700																																																																																																																																																																																																																									
4年度	日本ペーパードレーパード株式会社	糖尿病治療に関する研究	200																																																																																																																																																																																																																								
	日本ペーパードレーパード株式会社	呼吸器疾患における研究	100																																																																																																																																																																																																																								
	京セフ株式会社	変形関節症に関する研究	1,500																																																																																																																																																																																																																								
	第10回日本婦人科ロボット手術学会	産婦人科の診断治療に関する研究	500																																																																																																																																																																																																																								
合計		2,300																																																																																																																																																																																																																									
5年度見込																																																																																																																																																																																																																											
新生児聴覚スクリーニング件数																																																																																																																																																																																																																											
区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																																																																																																				
スクリーニング件数	456	470	541	567	549	488	488																																																																																																																																																																																																																				
人工内耳埋込術件数																																																																																																																																																																																																																											
区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																																																																																																				
件数	12	15	13	9	13	24	24																																																																																																																																																																																																																				
【目標値】 ・臨床研究数(総合)			78	各病院	⑤医療水準の向上と院内における医療の質の高度化に資するため、新薬開発や臨床研究などへ参画する。	A	A	令和4年度も、製薬会社等からの依頼を受け、新薬開発に係る治験を行った。 治験が終了し市販に至った薬品があり、新薬提供の一助となっている。市販薬の市販後調査を適正に実施し、安心安全な医療に寄与している。																																																																																																																																																																																																																			
(2) 診療等の情報の活用	(2) 診療等の情報の活用	(2) 診療等の情報の活用	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																			
診療等を通じて得られる情報を県立病院で提供する医療の質の向上のために活用するとともに、他の医療機関へ情報提供すること。	診療録等医療情報の電子化や管理機能の充実を図り、科学的根拠を集積・分析し、カンファレンス、臨床研修、臨床研究等において活用し、医療の質の向上を図る。また、学会、講習会、研究会等へ情報発信しやすい体制を整備する。	①診療情報等の分析のできるシステムの活用	79	総合	①DPCの診療情報に基づく症例分析を行う。	A	A	DPCデータの分析結果を元に、医局会においてDPC入院期間Ⅱ以内の退院状況や副傷病名の付与率等を報告するとともに、DPCコーディング部会における議論等により平均在院日数の短縮やDPCコーディングの適正化に努めている。																																																																																																																																																																																																																			
		①DPCの診療情報を分析し、診療へフィードバックを行う。また、職員の分析にかかるスキルアップに努める。	80	こども	DPCデータの分析結果を診療へ活かすとともに適切なコーディングを周知するため、DPC部会兼コード検討委員会を開催した。 DPC部会兼コード検討委員会開催実績 (単位：回、人) 区分 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 4年度 5年度見込 開催回数 4 4 4 4 4 4 4 出席者数 53 49 49 58 40 42 42	A	A	早期のデータ入力を継続して促し適切なコーディングを行うことで診療報酬を漏れなく請求した。																																																																																																																																																																																																																			

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（令4、第3期中期目標期間(みなし評価)）	令和4年度実績 自己評価																																																																																																																																											
						暫定	本評価	説明																																																																																																																																									
(3) 県民への情報提供の充実 公開講座や医療相談の開催、ホームページの活用などを通じて県民へ情報発信し、県民の健康意識の高揚に努めること。	(3) 県民への情報提供の充実 定期的に公開講座、医療相談会等を開催し、ホームページ等で健康管理・増進などについての情報を提供するなど、様々な方法で県民への情報提供を進め県民の健康意識の高揚や健康に関する知識の充実に努める。	(3) 県民への情報提供の充実 ①定期的な公開講座、医療相談会等の開催 ②ホームページ等による健康管理・増進などについての情報提供 ③報道機関等への情報発信	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																									
	【目標値】 ・公開講座件数(総合、こころ、こども)	【目標値】 ・公開講座件数(総合、こころ、こども)	96	①県民向け・医療機関向けの公開講座等を開催する。	各病院（企画） 特色を活かした公開講座等を企画、開催している。 公開講座 (単位：件、人) <table><tr><th>病院</th><th>区分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>毎年度目標</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td rowspan="3">総合</td><td>県民向け</td><td>実施件数 10</td><td>6</td><td>9</td><td>3</td><td>5</td><td>7</td><td>10</td><td>7</td></tr><tr><td></td><td>参加者 712</td><td>524</td><td>349</td><td>125</td><td>104</td><td>176</td><td>—</td><td>176</td></tr><tr><td>医療機関向け</td><td>実施件数 27</td><td>21</td><td>27</td><td>10</td><td>9</td><td>21</td><td>27</td><td>21</td></tr><tr><td rowspan="3">こころ</td><td>県民向け</td><td>実施件数 1,691</td><td>1,193</td><td>1,441</td><td>371</td><td>379</td><td>1,083</td><td>—</td><td>1,083</td></tr><tr><td></td><td>参加者 2</td><td>2</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>医療機関向け</td><td>実施件数 8</td><td>28</td><td>21</td><td>0</td><td>0</td><td>7</td><td>—</td><td>15</td></tr><tr><td rowspan="6">こども</td><td>医療機関向け</td><td>実施件数 5</td><td>3</td><td>8</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>5</td><td>0</td></tr><tr><td></td><td>参加者 485</td><td>88</td><td>115</td><td>20</td><td>0</td><td>0</td><td>—</td><td>0</td></tr><tr><td>県民向け</td><td>実施件数 3</td><td>3</td><td>6</td><td>1</td><td>3</td><td>3</td><td>5</td><td>4</td></tr><tr><td></td><td>参加者 149</td><td>195</td><td>188</td><td>20</td><td>127</td><td>125</td><td>—</td><td>170</td></tr><tr><td>医療機関向け</td><td>実施件数 17</td><td>13</td><td>6</td><td>10</td><td>15</td><td>12</td><td>20</td><td>15</td></tr><tr><td></td><td>参加者 799</td><td>698</td><td>218</td><td>422</td><td>721</td><td>606</td><td>—</td><td>750</td></tr></table> きこえとことばのセンター主催研修会等の開催件数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>件数</td><td>7</td><td>8</td><td>5</td><td>32</td><td>33</td><td>34</td><td>34</td></tr></table>	病院	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	毎年度目標	5年度見込	総合	県民向け	実施件数 10	6	9	3	5	7	10	7		参加者 712	524	349	125	104	176	—	176	医療機関向け	実施件数 27	21	27	10	9	21	27	21	こころ	県民向け	実施件数 1,691	1,193	1,441	371	379	1,083	—	1,083		参加者 2	2	2	0	0	2	2	2	医療機関向け	実施件数 8	28	21	0	0	7	—	15	こども	医療機関向け	実施件数 5	3	8	3	0	0	5	0		参加者 485	88	115	20	0	0	—	0	県民向け	実施件数 3	3	6	1	3	3	5	4		参加者 149	195	188	20	127	125	—	170	医療機関向け	実施件数 17	13	6	10	15	12	20	15		参加者 799	698	218	422	721	606	—	750	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	件数	7	8	5	32	33	34	34	A	B	総合病院では、外部向け講座としてがん医療公開講座を開催している。また、きこえとことばのセンターでは難聴児の早期発見、早期介入を目的に、地域の医療従事者や行政担当者による研修会等を実施している。ただし、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が残るものの、実施件数は昨年度を大きく上回った。こころの医療センターにおいては、2年ぶりにボランティア研修会を開催し、新規ボランティアの受入を行った。また、当院主催ではないが、県が主催する障害者雇用セミナーの会場として当院施設を使用するなど、関係機関との連携に努めた。
			病院	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	毎年度目標	5年度見込																																																																																																																																					
			総合	県民向け	実施件数 10	6	9	3	5	7	10	7																																																																																																																																					
	参加者 712	524		349	125	104	176	—	176																																																																																																																																								
医療機関向け	実施件数 27	21		27	10	9	21	27	21																																																																																																																																								
こころ	県民向け	実施件数 1,691	1,193	1,441	371	379	1,083	—	1,083																																																																																																																																								
		参加者 2	2	2	0	0	2	2	2																																																																																																																																								
	医療機関向け	実施件数 8	28	21	0	0	7	—	15																																																																																																																																								
こども	医療機関向け	実施件数 5	3	8	3	0	0	5	0																																																																																																																																								
		参加者 485	88	115	20	0	0	—	0																																																																																																																																								
	県民向け	実施件数 3	3	6	1	3	3	5	4																																																																																																																																								
		参加者 149	195	188	20	127	125	—	170																																																																																																																																								
	医療機関向け	実施件数 17	13	6	10	15	12	20	15																																																																																																																																								
		参加者 799	698	218	422	721	606	—	750																																																																																																																																								
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																										
件数	7	8	5	32	33	34	34																																																																																																																																										
		①【総/子】・県民向けイベントの開催や参加に努める。	97	（総合） 令和4年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、オープンホスピタルを開催中止とした。 オープンホスピタル来場者数 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>来場者数</td><td>1,400</td><td>1,200</td><td>1,200</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>1,200</td></tr></table> （こども） 例年、(株)静岡新聞社、静岡放送(株)が主催の「こどもみらいプロジェクト秋まつり inツインメッセ」に参加し、健康相談及びこども用の医師・ナース服の着用体験のブースを出展していたが、令和2年度以降はコロナ禍の状況を鑑み参加していない。 こどもみらいプロジェクト来場者数 (単位：組、人) <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>健康相談</td><td>22</td><td>10</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>3</td></tr><tr><td>写真撮影</td><td>957</td><td>1,064</td><td>792</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>800</td></tr></table>	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	来場者数	1,400	1,200	1,200	—	—	—	1,200	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	健康相談	22	10	3	0	0	0	3	写真撮影	957	1,064	792	0	0	0	800	総合、こども	—	—	オープンホスピタルの開催などにより、県民の健康意識の高揚や健康に関する知識の充実につなげてきたが、令和4年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により開催を見送っている。開催を見送っていることで、適正な評価が困難であることから、未評価とする。ただし、人数を制限した公開講座(No.96)等は、縮小して開催しており、県民への情報提供は継続している。また、「病院だより」等、健康情報が記載されている冊子をホームページに掲載しており、健康に関する知識の充実につなげている。																																																																																																	
			区 分		29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																						
			来場者数		1,400	1,200	1,200	—	—	—	1,200																																																																																																																																						
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																										
健康相談	22	10	3	0	0	0	3																																																																																																																																										
写真撮影	957	1,064	792	0	0	0	800																																																																																																																																										
		②県民及び他の医療機関従事者に、県立病院機構の有する医療情報を積極的に提供するため、機構ホームページを適時、的確に更新する。	98	各病院（企画） 機構全体のトピックスやプレスリリース等をホームページに掲載し積極的に情報発信を行った。 セクション別アクセス件数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>本部</td><td>218,435</td><td>226,519</td><td>232,673</td><td>246,234</td><td>234,744</td><td>214,098</td><td>214,098</td></tr><tr><td>総合</td><td>2,017,729</td><td>2,322,348</td><td>2,902,755</td><td>2,751,715</td><td>2,542,438</td><td>2,297,492</td><td>2,297,492</td></tr><tr><td>こころ</td><td>275,298</td><td>376,258</td><td>662,762</td><td>659,939</td><td>674,386</td><td>689,495</td><td>689,495</td></tr><tr><td>こども</td><td>1,551,263</td><td>1,690,943</td><td>1,772,069</td><td>1,800,380</td><td>1,810,951</td><td>1,545,737</td><td>1,545,737</td></tr><tr><td>合計</td><td>4,062,725</td><td>4,616,068</td><td>5,570,259</td><td>5,458,268</td><td>5,262,519</td><td>4,746,822</td><td>4,746,822</td></tr></table>	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	本部	218,435	226,519	232,673	246,234	234,744	214,098	214,098	総合	2,017,729	2,322,348	2,902,755	2,751,715	2,542,438	2,297,492	2,297,492	こころ	275,298	376,258	662,762	659,939	674,386	689,495	689,495	こども	1,551,263	1,690,943	1,772,069	1,800,380	1,810,951	1,545,737	1,545,737	合計	4,062,725	4,616,068	5,570,259	5,458,268	5,262,519	4,746,822	4,746,822	各病院（企画）	A	A	機構全体のトピックスやプレスリリース等をホームページに掲載し積極的に情報発信を行っている。各病院において、診療内容やイベント開催等の基本的な情報を掲載し業務活動の広報に努めているほか、感染症に係る情報等の突発的な情報についても丁寧かつ迅速に伝えるため、ホームページを積極的に活用している。																																																																																									
			区 分		29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																						
			本部		218,435	226,519	232,673	246,234	234,744	214,098	214,098																																																																																																																																						
総合	2,017,729	2,322,348	2,902,755	2,751,715	2,542,438	2,297,492	2,297,492																																																																																																																																										
こころ	275,298	376,258	662,762	659,939	674,386	689,495	689,495																																																																																																																																										
こども	1,551,263	1,690,943	1,772,069	1,800,380	1,810,951	1,545,737	1,545,737																																																																																																																																										
合計	4,062,725	4,616,068	5,570,259	5,458,268	5,262,519	4,746,822	4,746,822																																																																																																																																										
		③県民に病院の運営にかかる情報を戦略的に広報するため、報道機関向けの情報発信の推進を図る。	99	各病院（企画） 最先端医療への取組や各病院で開催する県民向けの公開講座、各種イベントなどについて、積極的に情報提供を行い、情報発信の推進を図った。 記者情報提供件数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>提供件数</td><td>47</td><td>43</td><td>36</td><td>19</td><td>29</td><td>21</td><td>26</td></tr><tr><td>掲載件数</td><td>36</td><td>30</td><td>24</td><td>13</td><td>20</td><td>14</td><td>18</td></tr></table>	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	提供件数	47	43	36	19	29	21	26	掲載件数	36	30	24	13	20	14	18	各病院（企画）	A	A	新型コロナウイルス感染症に関する情報提供などを適切に行っている。令和元年以前と比較すると新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントに関する情報等は減少しているが、人工内耳セミナーの開催や、睪臓がんドックの開始など、適切な時期に情報発信している。引き続き、継続して取り組みを実施していく。																																																																																																																	
			区 分		29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																						
			提供件数		47	43	36	19	29	21	26																																																																																																																																						
掲載件数	36	30	24	13	20	14	18																																																																																																																																										
※提供件数1件に対し、掲載件数が複数あった場合も掲載件数1件とカウントする																																																																																																																																																	

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画		業務の実績(令4、第3期中期目標期間(みなし評価))	令和4年度実績 自己評価																													
							暫定	本評価	説明																											
5 災害等における医療救護	5 災害等における医療救護	5 災害等における医療救護	—	—	—	—	—	—	—																											
県民の安心・安全を守るため、医療救護活動の拠点機能を担い、災害医療チームを派遣するなど医療救護に取り組むこと。	地震などによる大規模災害の発生が危惧される静岡県の県立病院として、災害等への日頃からの備えを進め、発生時においては静岡県医療救護計画等に基づき、医療救護活動に従事する。	県立病院として、県内外の災害等の発生に対し十分な備えをするとともに、医療救護活動の拠点としての役割を果たす。	—	—	—	—	—	—	—																											
(1) 医療救護活動の拠点機能	(1) 医療救護活動の拠点機能	(1) 医療救護活動の拠点機能	—	—	—	—	—	—	—																											
災害等における本県の医療救護活動の拠点機能を担うこと。特に、県立総合病院は、基幹災害拠点病院として、県内の災害時医療の中心的役割を果たすことができるよう機能強化を図ること。あわせて、国の原子力災害対策指針に基づく新たな原子力災害医療体制の整備に努めること。また、県立こころの医療センターは災害時における精神医療分野の、県立こども病院は災害時における小児医療分野の、それぞれにおける基幹的役割を果たすよう、日頃から備えること。	日頃から実戦的な災害医療訓練を定期的に開催するなど、医療救護活動の拠点となる病院としての機能を維持向上し、災害等の発生時には重篤患者の受け入れ、県内外のDMAT(災害派遣医療チーム)・DPAT(災害派遣精神医療チーム)との連携など求められる機能を発揮する。特に、県立総合病院は基幹災害拠点病院及び原子力災害拠点病院として県内の災害医療の中心的役割を、県立こころの医療センター及び県立こども病院は、それぞれの分野で基幹的役割を果たすことができるよう体制整備に取り組む。	①災害拠点病院(小児分野を含む)等として、災害時の医療救護活動の拠点機能を担う ②災害時における精神医療分野の拠点病院として、中心的な役割を担う ③小児専門医療機関間の災害時情報交換システムと相互協力関係の構築	100 102	①災害医療訓練を実施する。 ①災害対応マニュアル等の整備、見直しを行い発災時に迅速な対応ができるようにする。 ①【心】・災害等に対する日頃の備えに努め、大規模災害等における本県の精神分野の災害時医療に対応する。 ①【子】・災害時における小児医療の拠点としての院内体制の整備に努める。 ②【心】・一時避難所機能等災害時における精神医療分野の拠点病院としての役割を担うための訓練を実施する。 ③【子】・小児医療総合施設協議会において実施する小児専門医療機関間の災害時における情報交換システムに参加、協力していく。	総合 <table><tr><td>年度別実績</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td></tr><tr><td>令元.6.20 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加 令元.7.3 静岡県東海圏福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加 令元.7.11 静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施 令元.12.1 県立総合病院防災訓練 令2.1.26 静岡県DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて実施 令2.7.10 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加 令2.7.16 静岡県東海圏福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加 令2.9.17 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施 令2.7.7 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施 令3.10.30 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施 令3.11.27 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施 令3.12.5 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施 令4.3.18 静岡県DMAT衛星通信訓練を企画・実施</td><td>4年度 令4.7.13 静岡県東海圏福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加 令4.7.30 静岡県DMAT看護師研修をオンライン開催(受講者17名) 令4.9.30・10.1 静岡県DMAT通信訓練(中部地区)を実施(5病院参加) 令4.12.4 院内防災訓練実施(参加者61名) 令4.12.10・11 静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて開催(受講者45名) 令4.12.16 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施 令5.2.4 静岡県東海圏福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加(10名) 令5.2.19 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施 令5.2.23 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施</td><td>5年度 各種訓練参加、研修開催予定</td></tr><tr><td>主な活動実績</td><td>3年度 令3.4～ 新型コロナウイルス感染症に伴う静岡県DMAT隊員派遣(県対策本部・保健所等) (DMAT隊員2名) 令3.7～ 熱海伊豆山土砂災害派遣へのDMAT派遣(県対策本部・熱海被災地) (DMAT隊員19名) 4年度 令4.4～ 新型コロナウイルス感染症に伴うDMAT隊員派遣(宿泊療養施設・保健所) (DMAT隊員2名) 5年度 未定</td><td></td><td></td></tr></table>	年度別実績	元年度	2年度	3年度	令元.6.20 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加 令元.7.3 静岡県東海圏福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加 令元.7.11 静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施 令元.12.1 県立総合病院防災訓練 令2.1.26 静岡県DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて実施 令2.7.10 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加 令2.7.16 静岡県東海圏福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加 令2.9.17 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施 令2.7.7 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施 令3.10.30 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施 令3.11.27 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施 令3.12.5 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施 令4.3.18 静岡県DMAT衛星通信訓練を企画・実施	4年度 令4.7.13 静岡県東海圏福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加 令4.7.30 静岡県DMAT看護師研修をオンライン開催(受講者17名) 令4.9.30・10.1 静岡県DMAT通信訓練(中部地区)を実施(5病院参加) 令4.12.4 院内防災訓練実施(参加者61名) 令4.12.10・11 静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて開催(受講者45名) 令4.12.16 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施 令5.2.4 静岡県東海圏福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加(10名) 令5.2.19 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施 令5.2.23 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施	5年度 各種訓練参加、研修開催予定	主な活動実績	3年度 令3.4～ 新型コロナウイルス感染症に伴う静岡県DMAT隊員派遣(県対策本部・保健所等) (DMAT隊員2名) 令3.7～ 熱海伊豆山土砂災害派遣へのDMAT派遣(県対策本部・熱海被災地) (DMAT隊員19名) 4年度 令4.4～ 新型コロナウイルス感染症に伴うDMAT隊員派遣(宿泊療養施設・保健所) (DMAT隊員2名) 5年度 未定			大規模災害等における本県の精神分野における中核的拠点として災害時医療に対応できるよう、各種訓練を実施したほか、DPAT隊を派遣した。 令和3年2月に県内初となる災害拠点精神科病院の指定を受けている。 防災訓練(避難訓練)実績 <table><tr><td>元年度</td><td>令元.7.11 県東海圏福祉部防災訓練におけるEMTS情報伝達訓練に参加 令元.8.23 院内防災訓練(初期消火・避難誘導訓練)を実施 令元.8.26 県立総合病院(本部運営訓練)におけるEMTS情報伝達訓練に参加 令元.9.1 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加 令元.9.7 政府訓練(大規模地震時医療活動訓練)参加 令元.11.25 院内防災訓練(初期消火・避難誘導訓練、災害対策本部設置)を実施 令元.12.18 静岡県国民保護共同実動訓練(小山町)に参加 令2.1.17 県東海圏福祉部防災訓練におけるEMTS情報伝達訓練に参加 令2.7.16 県東海圏福祉部防災訓練におけるEMTS情報伝達訓練に参加 令2.8.31 院内安否情報確認システムのメール送受信訓練実施 令2.10.26 院内防災訓練(第1回) 令3.1.25 院内防災訓練(第2回) 令3.7.7 県東海圏福祉部防災訓練におけるEMTS情報伝達訓練に参加 令3.8.30 院内安否情報確認システムのメール送受信訓練実施 令3.11.29 院内防災訓練 令4.1.17 県東海圏福祉部防災訓練におけるEMTS情報伝達訓練に参加 令4.1.31 院内防災訓練(第2回)</td><td>4年度 令4.7.13 県東海圏福祉部防災訓練におけるEMTS情報伝達訓練に参加 令4.9.4 院内防災訓練 令4.9.5 院内防災訓練 令4.10.1 政府訓練(大規模地震時医療活動訓練)参加 令4.11.28 院内防災訓練(第2回) 令5.1.17 県東海圏福祉部防災訓練におけるEMTS情報伝達訓練に参加</td><td>5年度 院内防災訓練(第1回) 院内防災訓練(第2回) 県東海圏福祉部防災訓練におけるEMTS情報伝達訓練参加</td></tr></table>	元年度	令元.7.11 県東海圏福祉部防災訓練におけるEMTS情報伝達訓練に参加 令元.8.23 院内防災訓練(初期消火・避難誘導訓練)を実施 令元.8.26 県立総合病院(本部運営訓練)におけるEMTS情報伝達訓練に参加 令元.9.1 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加 令元.9.7 政府訓練(大規模地震時医療活動訓練)参加 令元.11.25 院内防災訓練(初期消火・避難誘導訓練、災害対策本部設置)を実施 令元.12.18 静岡県国民保護共同実動訓練(小山町)に参加 令2.1.17 県東海圏福祉部防災訓練におけるEMTS情報伝達訓練に参加 令2.7.16 県東海圏福祉部防災訓練におけるEMTS情報伝達訓練に参加 令2.8.31 院内安否情報確認システムのメール送受信訓練実施 令2.10.26 院内防災訓練(第1回) 令3.1.25 院内防災訓練(第2回) 令3.7.7 県東海圏福祉部防災訓練におけるEMTS情報伝達訓練に参加 令3.8.30 院内安否情報確認システムのメール送受信訓練実施 令3.11.29 院内防災訓練 令4.1.17 県東海圏福祉部防災訓練におけるEMTS情報伝達訓練に参加 令4.1.31 院内防災訓練(第2回)	4年度 令4.7.13 県東海圏福祉部防災訓練におけるEMTS情報伝達訓練に参加 令4.9.4 院内防災訓練 令4.9.5 院内防災訓練 令4.10.1 政府訓練(大規模地震時医療活動訓練)参加 令4.11.28 院内防災訓練(第2回) 令5.1.17 県東海圏福祉部防災訓練におけるEMTS情報伝達訓練に参加	5年度 院内防災訓練(第1回) 院内防災訓練(第2回) 県東海圏福祉部防災訓練におけるEMTS情報伝達訓練参加	A	A	令和4年度においては、DPAT隊の派遣実績はなかったものの、県主催の訓練や合同訓練への参加及び院内訓練の実施等により、災害時に対する日頃の備えに努めた。												
年度別実績	元年度	2年度	3年度																																	
令元.6.20 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加 令元.7.3 静岡県東海圏福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加 令元.7.11 静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施 令元.12.1 県立総合病院防災訓練 令2.1.26 静岡県DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて実施 令2.7.10 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加 令2.7.16 静岡県東海圏福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加 令2.9.17 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施 令2.7.7 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施 令3.10.30 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施 令3.11.27 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施 令3.12.5 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施 令4.3.18 静岡県DMAT衛星通信訓練を企画・実施	4年度 令4.7.13 静岡県東海圏福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加 令4.7.30 静岡県DMAT看護師研修をオンライン開催(受講者17名) 令4.9.30・10.1 静岡県DMAT通信訓練(中部地区)を実施(5病院参加) 令4.12.4 院内防災訓練実施(参加者61名) 令4.12.10・11 静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて開催(受講者45名) 令4.12.16 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施 令5.2.4 静岡県東海圏福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加(10名) 令5.2.19 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施 令5.2.23 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施	5年度 各種訓練参加、研修開催予定																																		
主な活動実績	3年度 令3.4～ 新型コロナウイルス感染症に伴う静岡県DMAT隊員派遣(県対策本部・保健所等) (DMAT隊員2名) 令3.7～ 熱海伊豆山土砂災害派遣へのDMAT派遣(県対策本部・熱海被災地) (DMAT隊員19名) 4年度 令4.4～ 新型コロナウイルス感染症に伴うDMAT隊員派遣(宿泊療養施設・保健所) (DMAT隊員2名) 5年度 未定																																			
元年度	令元.7.11 県東海圏福祉部防災訓練におけるEMTS情報伝達訓練に参加 令元.8.23 院内防災訓練(初期消火・避難誘導訓練)を実施 令元.8.26 県立総合病院(本部運営訓練)におけるEMTS情報伝達訓練に参加 令元.9.1 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加 令元.9.7 政府訓練(大規模地震時医療活動訓練)参加 令元.11.25 院内防災訓練(初期消火・避難誘導訓練、災害対策本部設置)を実施 令元.12.18 静岡県国民保護共同実動訓練(小山町)に参加 令2.1.17 県東海圏福祉部防災訓練におけるEMTS情報伝達訓練に参加 令2.7.16 県東海圏福祉部防災訓練におけるEMTS情報伝達訓練に参加 令2.8.31 院内安否情報確認システムのメール送受信訓練実施 令2.10.26 院内防災訓練(第1回) 令3.1.25 院内防災訓練(第2回) 令3.7.7 県東海圏福祉部防災訓練におけるEMTS情報伝達訓練に参加 令3.8.30 院内安否情報確認システムのメール送受信訓練実施 令3.11.29 院内防災訓練 令4.1.17 県東海圏福祉部防災訓練におけるEMTS情報伝達訓練に参加 令4.1.31 院内防災訓練(第2回)	4年度 令4.7.13 県東海圏福祉部防災訓練におけるEMTS情報伝達訓練に参加 令4.9.4 院内防災訓練 令4.9.5 院内防災訓練 令4.10.1 政府訓練(大規模地震時医療活動訓練)参加 令4.11.28 院内防災訓練(第2回) 令5.1.17 県東海圏福祉部防災訓練におけるEMTS情報伝達訓練に参加	5年度 院内防災訓練(第1回) 院内防災訓練(第2回) 県東海圏福祉部防災訓練におけるEMTS情報伝達訓練参加																																	
(2) 他県等の医療救護への協力	(2) 他県等の医療救護への協力	(2) 他県等の医療救護への協力	—	—	—	—	—	—	—																											
他県等の大規模災害等においても、災害医療チームを派遣するなど、積極的に医療救護に協力すること。	災害時医療救護派遣マニュアルに基づき、速やかに医療チームを派遣できるよう定期的な要員訓練やマニュアルの点検を行う。	①災害発生初期におけるDMAT(災害派遣医療チーム)・DPAT(災害派遣精神医療チーム)の派遣及び県からの要請に基づく支援等の実施	103	①災害医療救護応援班の訓練を実施する。	総合 <table><tr><td>年度別実績</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td></tr><tr><td>令元.8.23 静岡県総合防災訓練(本部運営訓練)にDMAT隊員5人が参加した。 令元.9.1 静岡県総合防災訓練(実動訓練)にDMAT隊員14人が参加した。 令元.8.25 大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)にDMAT隊員6人が参加した。 令元.12.18 国民保護共同実動訓練(実動)にDMAT隊員10人が参加した。 令2.1.17 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練の企画・実施(3月までに合計3回) 令2.9.17 富士山静岡空港航空機事故対応訓練(DMAT隊員5名) 令2.4～3 新型コロナウイルス感染症に伴う静岡県DMAT隊員派遣(県対策本部) (DMAT隊員6名) 令3.10.30 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練(政府訓練)に参加(受講者) (DMAT隊員1名) 令4.3.18 静岡県DMAT衛星通信訓練を企画・実施</td><td>4年度 令4.7.21 静岡県DMAT衛星通信訓練(中部地区)を実施(5病院参加) 令4.8.30 静岡県総合防災訓練(本部運営訓練)に参加(DMAT隊員4名) 令4.9.4 静岡県総合防災訓練(実動訓練)に参加(DMAT隊員7名) 令4.9.30・10.1 静岡県DMAT通信訓練(政府訓練)に参加(DMAT隊員20名、他職員15名) 令4.10.20 静岡県DMAT通信訓練(中部地区)を実施(4病院参加) 令4.11.13 緊急消防援助隊全国合同訓練(実動)に参加(DMAT隊員7名) 令4.11.26・27 中部ブロックDMAT実動訓練(石川町)に参加(DMAT隊員5名) 令5.1.17 静岡県DMAT通信訓練(政府訓練)に参加(受講者) (DMAT隊員1名) 令5.1.19 静岡県DMAT衛星通信訓練(中部地区)を実施(5病院参加)</td><td>5年度 各種訓練参加予定</td></tr><tr><td>主な活動実績</td><td>3年度 令3.4～ 新型コロナウイルス感染症に伴う静岡県DMAT隊員派遣(県対策本部・保健所等) (DMAT隊員2名) 令3.7～ 熱海伊豆山土砂災害派遣へのDMAT派遣(県対策本部・熱海被災地) (DMAT隊員19名) 4年度 令4.4～ 新型コロナウイルス感染症に伴うDMAT隊員派遣(宿泊療養施設・保健所) (DMAT隊員2名) 5年度 未定</td><td></td><td></td></tr></table>	年度別実績	元年度	2年度	3年度	令元.8.23 静岡県総合防災訓練(本部運営訓練)にDMAT隊員5人が参加した。 令元.9.1 静岡県総合防災訓練(実動訓練)にDMAT隊員14人が参加した。 令元.8.25 大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)にDMAT隊員6人が参加した。 令元.12.18 国民保護共同実動訓練(実動)にDMAT隊員10人が参加した。 令2.1.17 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練の企画・実施(3月までに合計3回) 令2.9.17 富士山静岡空港航空機事故対応訓練(DMAT隊員5名) 令2.4～3 新型コロナウイルス感染症に伴う静岡県DMAT隊員派遣(県対策本部) (DMAT隊員6名) 令3.10.30 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練(政府訓練)に参加(受講者) (DMAT隊員1名) 令4.3.18 静岡県DMAT衛星通信訓練を企画・実施	4年度 令4.7.21 静岡県DMAT衛星通信訓練(中部地区)を実施(5病院参加) 令4.8.30 静岡県総合防災訓練(本部運営訓練)に参加(DMAT隊員4名) 令4.9.4 静岡県総合防災訓練(実動訓練)に参加(DMAT隊員7名) 令4.9.30・10.1 静岡県DMAT通信訓練(政府訓練)に参加(DMAT隊員20名、他職員15名) 令4.10.20 静岡県DMAT通信訓練(中部地区)を実施(4病院参加) 令4.11.13 緊急消防援助隊全国合同訓練(実動)に参加(DMAT隊員7名) 令4.11.26・27 中部ブロックDMAT実動訓練(石川町)に参加(DMAT隊員5名) 令5.1.17 静岡県DMAT通信訓練(政府訓練)に参加(受講者) (DMAT隊員1名) 令5.1.19 静岡県DMAT衛星通信訓練(中部地区)を実施(5病院参加)	5年度 各種訓練参加予定	主な活動実績	3年度 令3.4～ 新型コロナウイルス感染症に伴う静岡県DMAT隊員派遣(県対策本部・保健所等) (DMAT隊員2名) 令3.7～ 熱海伊豆山土砂災害派遣へのDMAT派遣(県対策本部・熱海被災地) (DMAT隊員19名) 4年度 令4.4～ 新型コロナウイルス感染症に伴うDMAT隊員派遣(宿泊療養施設・保健所) (DMAT隊員2名) 5年度 未定			DMAT訓練回数 (単位:回) <table><tr><td>区分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td></tr><tr><td>訓練</td><td>8</td><td>8</td><td>8</td><td>1</td><td>4</td><td>9</td><td>9</td></tr></table>	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	訓練	8	8	8	1	4	9	9	A	A	令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により過去2年実施されていなかった訓練が実施されるようになり、各訓練にDMAT隊員が参加している。 今年度、本県を対象県として行われた大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)では、企画に係るコアメンバー会議にDMAT隊員6名が参加し、訓練企画及び事前準備を行った。訓練当日には26名のDMAT隊員が参加した また、県からの要請に伴い、新型コロナウイルス宿泊療養施設へのDMAT隊員派遣を継続的に実施している。
年度別実績	元年度	2年度	3年度																																	
令元.8.23 静岡県総合防災訓練(本部運営訓練)にDMAT隊員5人が参加した。 令元.9.1 静岡県総合防災訓練(実動訓練)にDMAT隊員14人が参加した。 令元.8.25 大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)にDMAT隊員6人が参加した。 令元.12.18 国民保護共同実動訓練(実動)にDMAT隊員10人が参加した。 令2.1.17 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練の企画・実施(3月までに合計3回) 令2.9.17 富士山静岡空港航空機事故対応訓練(DMAT隊員5名) 令2.4～3 新型コロナウイルス感染症に伴う静岡県DMAT隊員派遣(県対策本部) (DMAT隊員6名) 令3.10.30 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練(政府訓練)に参加(受講者) (DMAT隊員1名) 令4.3.18 静岡県DMAT衛星通信訓練を企画・実施	4年度 令4.7.21 静岡県DMAT衛星通信訓練(中部地区)を実施(5病院参加) 令4.8.30 静岡県総合防災訓練(本部運営訓練)に参加(DMAT隊員4名) 令4.9.4 静岡県総合防災訓練(実動訓練)に参加(DMAT隊員7名) 令4.9.30・10.1 静岡県DMAT通信訓練(政府訓練)に参加(DMAT隊員20名、他職員15名) 令4.10.20 静岡県DMAT通信訓練(中部地区)を実施(4病院参加) 令4.11.13 緊急消防援助隊全国合同訓練(実動)に参加(DMAT隊員7名) 令4.11.26・27 中部ブロックDMAT実動訓練(石川町)に参加(DMAT隊員5名) 令5.1.17 静岡県DMAT通信訓練(政府訓練)に参加(受講者) (DMAT隊員1名) 令5.1.19 静岡県DMAT衛星通信訓練(中部地区)を実施(5病院参加)	5年度 各種訓練参加予定																																		
主な活動実績	3年度 令3.4～ 新型コロナウイルス感染症に伴う静岡県DMAT隊員派遣(県対策本部・保健所等) (DMAT隊員2名) 令3.7～ 熱海伊豆山土砂災害派遣へのDMAT派遣(県対策本部・熱海被災地) (DMAT隊員19名) 4年度 令4.4～ 新型コロナウイルス感染症に伴うDMAT隊員派遣(宿泊療養施設・保健所) (DMAT隊員2名) 5年度 未定																																			
区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																													
訓練	8	8	8	1	4	9	9																													

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令4、第3期中期目標期間(みなし評価))	令和4年度実績 自己評価																																																																																																																																																																	
						暫定	本評価	説明																																																																																																																																																															
第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項	第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																															
医療の質の向上を目指して、地方独立行政法人制度の特徴を最大限に活かし、一層効果的・効率的な業務運営に努め、生産性の向上を図ること。	業務運営に関しては、医療の質の向上のため、適切な職員配置や組織づくりに努めるとともに、業務改善への職員の意欲を高め、効率的な業務運営の実現を図る。	業務運営に関しては、医療の質の向上のため、適切な職員配置や組織づくりに努めるとともに、業務改善への職員の意欲を高め、効率的な業務運営の実現を図る。	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																															
1 効率的な業務運営体制の強化	1 効率的な業務運営体制の強化	1 効率的な業務運営体制の強化	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																															
医療を取り巻く環境の変化とそのスピードに迅速かつ的確に対応するため、医療資源の有効活用や業務の見直し、職員参加型の業務改善等を推進し、業務運営体制の強化を図ること。特に、未稼働病床については、その活用方法について検討すること。	医療環境の変化や県民の医療需要に的確に応じられるよう簡素で効果的、効率的な組織づくりを進め、適時適切な意思決定ができる組織運営に努める。 県立病院が有する人的、物的等医療資源を有効に活用するため、常に効率的な業務運営に取り組み、経営情報を共有し職員の経営意識の醸成を図る。 県立病院の病床については、未稼働病床を含め、社会経済情勢や地域医療の状況を踏まえ、最適な方法での配置や活用を図る。 業務の改善改革への取組を奨励し、その活動を積極的に評価し、職員の意見が反映されやすい風通しの良い組織運営を進めるなど、職員の意欲が高い活気に溢れた病院づくりに取り組む。	①意思決定の迅速化・情報の共有化等、機動的な法人運営 ②医療ニーズや業務量の適切な把握と組織体制等への反映 ③効率的な施設運用を行うため、県立総合病院のリニューアル工事等の計画的施工 ④県立総合病院の施設機能が継続的、最適に活用できるよう、修繕計画の策定・実施 ⑤県立こども病院のマスタープランや小児医療をめぐる環境の変化等を踏まえ、今後のあり方などについて検討 ⑥公平・公正な人事評価制度の実施 ⑦効果的な職員採用 ⑧柔軟な採用試験の実施等、業務の質と量に応じた人材の適時採用 ⑨看護師確保のため、看護師修学資金の活用推進や広報活動など多様かつ多角的な確保対策の実施 ⑩経営情報を把握及び適時適切な措置を講じられる体制整備 ⑪経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上 ⑫業務の改善の取組等を通じた職員の意識向上及び病院運営の活性化	104	①②組織の効率化、各種権限の病院長への委任により事務のスピード化を図る。 ①②理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を毎月開催(8月を除く)し、法人の運営情報の共有化を図るとともに、予算の補正等の緊急な課題に対する即時的な対応を行う。 ③リニューアル工事により、病院機能の強化を図るとともに、基幹災害拠点病院としてふさわしい耐震性能を確保する。 ④建物劣化診断結果に基づき、改修計画を策定するための準備を行う。 ⑤病棟再編検討会(WG)を実施し、具体的な計画を立てる。 ⑥全職員を対象とした人事評価制度を円滑に実施する。	本部・各病院(総務・企画・経営)	理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を8月を除く原則毎月開催し、意思決定の迅速化に努めた。 人事評価制度については、全職員(有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く)を対象に令和2年度から給与(勤勉手当)への活用を開始しており、令和3年度の評価から昇給へ活用が開始されている。 リニューアル工事、大規模修繕工事の実施計画及び進捗状況(総合病院) 年度別実績 <table><tr><td>元年度</td><td>年度末における第Ⅰ期リニューアル工事進捗率 91.8% 令和2年2月 第Ⅱ期リニューアル工事の入札実施、業者決定</td><td>4年度</td><td>令和5年2月 精神科病棟改修工事完了 令和5年3月 本館非常用発電機更新工事着工</td></tr><tr><td>2年度</td><td>令和3年7月 第Ⅰ期リニューアル工事完了、8月より第Ⅱ期リニューアル工事着工 年度末における第Ⅱ期リニューアル工事進捗率 38.7%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>3年度</td><td>令和3年11月 内視鏡室改修完了 令和4年2月 渡り廊下増築工事完了 令和4年2月 第Ⅱ期リニューアル工事完了</td><td>5年度見込</td><td>令和6年2月 劣化改修工事設計完了予定</td></tr></table> 病棟再編検討会(WG)開催数(こども病院) <table><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td></tr><tr><td>開催件数</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>11</td><td>5</td><td>8</td></tr></table>	元年度	年度末における第Ⅰ期リニューアル工事進捗率 91.8% 令和2年2月 第Ⅱ期リニューアル工事の入札実施、業者決定	4年度	令和5年2月 精神科病棟改修工事完了 令和5年3月 本館非常用発電機更新工事着工	2年度	令和3年7月 第Ⅰ期リニューアル工事完了、8月より第Ⅱ期リニューアル工事着工 年度末における第Ⅱ期リニューアル工事進捗率 38.7%			3年度	令和3年11月 内視鏡室改修完了 令和4年2月 渡り廊下増築工事完了 令和4年2月 第Ⅱ期リニューアル工事完了	5年度見込	令和6年2月 劣化改修工事設計完了予定	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	開催件数	—	—	—	—	11	5	8	S	S	令和4年度については、理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を原則毎月開催し、機構内での情報の共有化、緊急案件についての対応が問題なく行われた。 医師確保を図るため、令和3年4月に職務に応じた適切な給与制度を構築(級別標準職務表の見直し)した。これにより、医師の確保だけでなく、「職務の級」が役職による職責に応じて適用されることで、能力や意欲の高い職員が上位の職位に登用されることとなり、職員の能力や意欲の向上につなげることができた。また、平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、全職員(有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く)を対象に令和2年度から給与(勤勉手当)に活用、令和3年度の評価から昇給に活用を開始する。(令和3年度前期、後期の評価を令和5年1月1日昇給に活用) 総合病院では、精神科病棟の開棟に向け、令和4年度中に4D病棟の改修工事を完了させた。設計及び工事にあたり、十分なコスト削減を図った上で実施している。 また、精神科リエンゾンチーム及び認知症ケアチームが中心となって精神・身体合併症に対する医療ニーズを踏まえ、令和5年度から精神科病棟(精神科身体合併症病棟)を開棟予定している。																																																																																																																																		
元年度	年度末における第Ⅰ期リニューアル工事進捗率 91.8% 令和2年2月 第Ⅱ期リニューアル工事の入札実施、業者決定	4年度	令和5年2月 精神科病棟改修工事完了 令和5年3月 本館非常用発電機更新工事着工																																																																																																																																																																				
2年度	令和3年7月 第Ⅰ期リニューアル工事完了、8月より第Ⅱ期リニューアル工事着工 年度末における第Ⅱ期リニューアル工事進捗率 38.7%																																																																																																																																																																						
3年度	令和3年11月 内視鏡室改修完了 令和4年2月 渡り廊下増築工事完了 令和4年2月 第Ⅱ期リニューアル工事完了	5年度見込	令和6年2月 劣化改修工事設計完了予定																																																																																																																																																																				
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																																																
開催件数	—	—	—	—	11	5	8																																																																																																																																																																
			105	⑦優秀な職員を確保する仕組みを設け、効果的な採用を実施する。 ・職員の採用に対し、広報等様々な取組を行うことで、必要な職員数の確保に努める。 ⑧柔軟な採用試験の実施により、必要な人材の確保に努める。 ⑨パンフレット作成、ホームページへの情報掲載、就職セミナー等での周知を行う。 ・看護師修学資金制度の活用推進により、更なる看護師確保を目指す。	本部・各病院(総務)	アソシエイト採用実績(単位:人) <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td></tr><tr><td>看護師</td><td>3</td><td>—</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>事務</td><td>10</td><td>3</td><td>8</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>コメディカル</td><td>3</td><td>1</td><td>5</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>16</td><td>4</td><td>14</td><td>3</td><td>1</td></tr></table> 看護師修学資金の状況(単位:人) <table><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td></tr><tr><td>決定</td><td>114</td><td>55</td><td>50</td><td>36</td><td>40</td><td>19</td></tr><tr><td>継続</td><td>163</td><td>182</td><td>147</td><td>128</td><td>104</td><td>89</td></tr><tr><td>取消</td><td>▲9</td><td>▲8</td><td>▲7</td><td>▲4</td><td>▲5</td><td>▲2</td></tr><tr><td>貸付計</td><td>268</td><td>229</td><td>190</td><td>160</td><td>139</td><td>100</td></tr><tr><td>採用</td><td>63</td><td>62</td><td>53</td><td>46</td><td>44</td><td>42</td></tr></table> 看護学生向け就職説明会(単位:人) <table><tr><td>区 分</td><td>来場者数</td><td>訪問者数</td><td>受験者数</td></tr><tr><td>ナース専科(静岡)</td><td>131</td><td>131</td><td>11</td></tr><tr><td>ナースナビ(浜松)</td><td>184</td><td>62</td><td>1</td></tr><tr><td>マイナビ(静岡)</td><td>155</td><td>188</td><td>58</td></tr><tr><td>(沼津)</td><td>104</td><td>104</td><td>34</td></tr><tr><td>業者計</td><td>104</td><td></td><td></td></tr><tr><td>静岡県立大学</td><td>PR動画の提供</td><td>—</td><td></td></tr><tr><td>常葉大学</td><td>—</td><td>52</td><td>—</td></tr><tr><td>聖隷クリストファー大学</td><td>120</td><td>120</td><td>—</td></tr><tr><td>順天堂大学</td><td>開催なし</td><td>—</td><td></td></tr><tr><td>静岡市立看護専門学校</td><td>80</td><td>33</td><td>—</td></tr><tr><td>静岡県立看護専門学校</td><td>PR動画の提供</td><td>—</td><td></td></tr><tr><td>養成校計</td><td>—</td><td>0</td><td></td></tr><tr><td>計</td><td>104</td><td></td><td></td></tr></table> 看護師募集における広報等の実施状況 ・人材広告業者の求人情報ウェブサイト、雑誌への求人情報掲載 ・静岡新聞求人情報掲載(看護の日) ・県民だより求人情報掲載 ・県内コンビニ、ショッピングモールへの看護師募集ポスター掲示 柔軟な採用試験の実施状況(単位:件) <table><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td></tr><tr><td>件数</td><td>7</td><td>6</td><td>7</td><td>9</td><td>6</td><td>9</td><td>4</td></tr></table> ホームページアクセス数 <table><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td></tr><tr><td>アクセス数</td><td>年間 69,291</td><td>88,655</td><td>104,100</td><td>107,956</td><td>96,782</td><td>91,367</td></tr></table> ※平成27年に現システムを使用開始	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	看護師	3	—	1	1	1	事務	10	3	8	1	0	コメディカル	3	1	5	1	0	計	16	4	14	3	1	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	決定	114	55	50	36	40	19	継続	163	182	147	128	104	89	取消	▲9	▲8	▲7	▲4	▲5	▲2	貸付計	268	229	190	160	139	100	採用	63	62	53	46	44	42	区 分	来場者数	訪問者数	受験者数	ナース専科(静岡)	131	131	11	ナースナビ(浜松)	184	62	1	マイナビ(静岡)	155	188	58	(沼津)	104	104	34	業者計	104			静岡県立大学	PR動画の提供	—		常葉大学	—	52	—	聖隷クリストファー大学	120	120	—	順天堂大学	開催なし	—		静岡市立看護専門学校	80	33	—	静岡県立看護専門学校	PR動画の提供	—		養成校計	—	0		計	104			区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	件数	7	6	7	9	6	9	4	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	アクセス数	年間 69,291	88,655	104,100	107,956	96,782	91,367	A	A	令和4年度については、効果的な職員採用に繋げるため、看護師や事務職員に続き、コメディカルでもアソシエイト職員を採用し、優秀な人材確保を進めた。 また、看護師確保のため、就職説明会への参加や各種広報、修学資金貸与制度の拡充、養成校訪問に加えて、病院説明会など様々な確保対策を進めた。 こうした取組みの結果、採用数の増加に繋げることができた。今後も職員確保に向けた取組みを継続していく。
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																																																		
看護師	3	—	1	1	1																																																																																																																																																																		
事務	10	3	8	1	0																																																																																																																																																																		
コメディカル	3	1	5	1	0																																																																																																																																																																		
計	16	4	14	3	1																																																																																																																																																																		
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度																																																																																																																																																																	
決定	114	55	50	36	40	19																																																																																																																																																																	
継続	163	182	147	128	104	89																																																																																																																																																																	
取消	▲9	▲8	▲7	▲4	▲5	▲2																																																																																																																																																																	
貸付計	268	229	190	160	139	100																																																																																																																																																																	
採用	63	62	53	46	44	42																																																																																																																																																																	
区 分	来場者数	訪問者数	受験者数																																																																																																																																																																				
ナース専科(静岡)	131	131	11																																																																																																																																																																				
ナースナビ(浜松)	184	62	1																																																																																																																																																																				
マイナビ(静岡)	155	188	58																																																																																																																																																																				
(沼津)	104	104	34																																																																																																																																																																				
業者計	104																																																																																																																																																																						
静岡県立大学	PR動画の提供	—																																																																																																																																																																					
常葉大学	—	52	—																																																																																																																																																																				
聖隷クリストファー大学	120	120	—																																																																																																																																																																				
順天堂大学	開催なし	—																																																																																																																																																																					
静岡市立看護専門学校	80	33	—																																																																																																																																																																				
静岡県立看護専門学校	PR動画の提供	—																																																																																																																																																																					
養成校計	—	0																																																																																																																																																																					
計	104																																																																																																																																																																						
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																																																
件数	7	6	7	9	6	9	4																																																																																																																																																																
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度																																																																																																																																																																	
アクセス数	年間 69,291	88,655	104,100	107,956	96,782	91,367																																																																																																																																																																	
			106	⑩月次決算の集計等により、病院の経営状況の早期把握を図る。	本部(経営)	理事会等における月次決算の報告回数 <table><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td></tr><tr><td>回数</td><td>6</td><td>6</td><td>6</td><td>10</td><td>10</td><td>10</td><td>8</td></tr></table>	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	回数	6	6	6	10	10	10	8	A	A	令和4年度は、理事会開催の度に月次決算の報告を実施し、病院の経営状況の早期把握及び機構内の情報共有を円滑に行うことができた。																																																																																																																																														
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																																																																																																
回数	6	6	6	10	10	10	8																																																																																																																																																																
			107	⑩⑪毎月の理事会や病院幹部会議において、経営状況を報告・分析するとともに、それらの経営状況の職員への周知を図る。 ⑩機構の直近の経営状況を職員(特に病院の幹部職員、県からの新しい派遣職員や新規採用職員)に認識させるため、会議や研修、広報誌等を通じて周知徹底する。	各病院(企画・経営)	理事会や運営会議において、毎月の月次決算により経営状況を分析し、報告を行っている。また、3病院合同幹部会議において各病院の幹部職員に定期的に報告し、周知を図っている。 職員研修などにおいて、病院経営や効率的な業務運営に関する取組等の科目を設け、意識の醸成を図った。 院内コミュニケーションシステムや職員報(トライアングル等)を通じて、理事会資料等の経営情報を全職員に向け提供し、意識醸成を図っている。 上記取り組みを継続して行い、経営情報の把握や適時適切な措置を講じられる体制整備を図っている。	A	A	月次決算等により、経営状況の報告・分析を着実に進めている。 また、会議や職員報を通じた経営分析結果の職員への周知、理事長、副理事長自らによる研修等により、職員の経営に対する意識啓発を図っている。 令和4年度は、コロナ禍による診療収益の減と、補助金の見込額を随時把握し、月次決算報告に反映させた。																																																																																																																																																														
	【目標値】 ・業務改善運動推進制度実績件数(総合、こころ、こども、本部)	【目標値】 ・業務改善運動推進制度実績件数(総合、こころ、こども、本部)	108	⑫院内コミュニケーションシステムを活用するなどして、職員が経営・業務改善を常時提案できる体制を整備する。	各病院(企画)	業務改善について、院内コミュニケーションシステム等を利用して、誰もが経営・業務改善を常時提案できる体制の整備に努めた。また、他職員の改善提案を確認できるよう仕組みを整備している。 業務改善運動推進制度実績件数(単位:件) <table><tr><td>区分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>毎年度目標</td><td>5年度</td></tr><tr><td>総 合</td><td>80</td><td>72</td><td>113</td><td>27</td><td>164</td><td>95</td><td>80件以上</td><td>100</td></tr><tr><td>こころ</td><td>29</td><td>24</td><td>32</td><td>4</td><td>53</td><td>36</td><td>36件以上</td><td>36</td></tr><tr><td>こども</td><td>50</td><td>34</td><td>50</td><td>29</td><td>38</td><td>75</td><td>71件以上</td><td>71</td></tr><tr><td>本 部</td><td>19</td><td>10</td><td>8</td><td>8</td><td>21</td><td>20</td><td>19件以上</td><td>19</td></tr><tr><td>計</td><td>178</td><td>140</td><td>203</td><td>68</td><td>276</td><td>226</td><td>—</td><td>226</td></tr></table>	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	毎年度目標	5年度	総 合	80	72	113	27	164	95	80件以上	100	こころ	29	24	32	4	53	36	36件以上	36	こども	50	34	50	29	38	75	71件以上	71	本 部	19	10	8	8	21	20	19件以上	19	計	178	140	203	68	276	226	—	226	—	A	「業務改善運動推進制度」については、職員が常時業務の改善提案できる体制を整備し、各病院で広く業務の改善に取り組んでいる。令和4年度は、目標を上回る高い水準の実績を上げた。なお、優れた取り組みについては、ホームページなどで広く周知を図っている。																																																																																																								
区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	毎年度目標	5年度																																																																																																																																																															
総 合	80	72	113	27	164	95	80件以上	100																																																																																																																																																															
こころ	29	24	32	4	53	36	36件以上	36																																																																																																																																																															
こども	50	34	50	29	38	75	71件以上	71																																																																																																																																																															
本 部	19	10	8	8	21	20	19件以上	19																																																																																																																																																															
計	178	140	203	68	276	226	—	226																																																																																																																																																															

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（令4、第3期中期目標期間(みなし評価)）	令和4年度実績 自己評価		
						暫定	本評価	説明
2 事務部門の専門性の向上	2 事務部門の専門性の向上	2 事務部門の専門性の向上	—	—	—	—	—	—
						A	A	階層別、業務に必要なスキルを身につける専門研修を実施している。
3 収益の確保と費用の節減	3 収益の確保と費用の節減	3 収益の確保と費用の節減	—	—	—	—	—	—
						A	A	令和4年度については、診療情報管理機能の強化をするため、引き続き診療情報管理士資格の取得支援制度を活用するなど、必要な資格者を育成するとともに、適切な人員配置を行った。
3 収益の確保と費用の節減	3 収益の確保と費用の節減	3 収益の確保と費用の節減	—	—	—	—	—	—
						A	A	（総合） DPC入院期間Ⅱ以内の退院割合を高めるため、定例医局会で月次報告を行い、入院期間Ⅱ以内の退院について協力を求めるとともに、クリニカルパス見直し等の取組を行っている。 （こども） 令和4年度も、前年度に引き続き退院後の受入れが停滞していることもあり、長期入院患者率が増加している。 （こども） DPC部会を開催し、状況確認や課題の解決について取り組んだ。
3 収益の確保と費用の節減	3 収益の確保と費用の節減	3 収益の確保と費用の節減	—	—	—	—	—	—
						A	A	（総合） 破棄・破損については、部署、原因、金額等の記録を徹底し、特に高額なものはインシデントレポートの提出を義務化している。また、委員会において事象報告を行い、対応策を議論することにより、破棄・破損の削減に努めている。患者の容態変更により高額な診療材料を使用せず破棄することがあり前年度の額を上回ったが、落下や誤開封等の対策が可能なものについては150千円削減できた。 （こども） 薬品類については、前年度までの取組に引き続き、破棄・破損額の抑制のため、3病院間での薬品の譲受譲渡を推進し、不動在庫の軽減に繋がった。 診療材料については、病棟内における在庫の適正化をすすめ、病棟内の在庫を減らし必要時に度発注することとして、前年度までの取組を継続して、期限切れによる廃棄の削減に努めた。 （こども） 各部署と金額等の情報共有を徹底するとともに、委員会等で破棄・破損額の情報共有、適切な在庫管理の周知を行い、破棄・破損の削減に努めた。 希少疾病用医薬品の一部を使用した結果、使用用途が限られることから他では使用できず期限切れとなった品があり、令和4年度は前年度の額を上回った。
3 収益の確保と費用の節減	3 収益の確保と費用の節減	3 収益の確保と費用の節減	—	—	—	—	—	—
						A	A	総合病院及びこども病院の感染対策向上加算をはじめ、各病院において、施設基準の新規及びランクアップの届出を積極的に行い、診療単価の向上に寄与している。 また、研修会等を通じて、病院全体として適正請求に関する意識を高めるよう努めている。

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（令4、第3期中期目標期間(みなし評価)）	令和4年度実績 自己評価																																																																																															
						暫定	本評価	説明																																																																																													
			114	④SPD導入により、薬品・診療材料の期限切れ、病棟の在庫額減少に努める。	総合 薬品、診療材料期限切れ廃棄額（単位：千円） <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>薬品</td><td>2,832</td><td>2,931</td><td>2,279</td><td>2,553</td><td>2,638</td><td>2,031</td><td>2,031</td></tr><tr><td>診療材料</td><td>675</td><td>969</td><td>973</td><td>627</td><td>1,631</td><td>979</td><td>979</td></tr></table> 薬品・診療材料在庫額（単位：千円） <table><tr><th>区分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>薬品</td><td>102,777</td><td>92,244</td><td>136,694</td><td>153,688</td><td>160,916</td><td>168,436</td><td>168,436</td></tr><tr><td>診療材料</td><td>216,079</td><td>224,292</td><td>221,511</td><td>227,708</td><td>239,545</td><td>251,101</td><td>251,101</td></tr></table>	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	薬品	2,832	2,931	2,279	2,553	2,638	2,031	2,031	診療材料	675	969	973	627	1,631	979	979	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	薬品	102,777	92,244	136,694	153,688	160,916	168,436	168,436	診療材料	216,079	224,292	221,511	227,708	239,545	251,101	251,101	A	A	薬品及び診療材料については、使用期限を確認し、期限切迫品の表示や使用頻度の高い部署へ移管を行うことにより、多くのロスを防ぐなどSPD業務の改善を図っている。しかしながら、稀な症例に使用する物品(ただし緊急時になければ困るもの)が期限切れになっており、今後も管理方法について検討を行っていく。 薬品は、SPDによる在庫管理に加え、3病院間における移管や担当職員の関与により、期限切れ廃棄額の削減と在庫額減少に努めている。 診療材料は、手術室において期限切迫品カートを設置し、使用を促している。医療の高度化により高額材料が増加したが、ピッキングリストの見直し提案を行う等、在庫の削減に努めている。 新型コロナウイルス感染症の影響により、マスクや手袋等、供給体制が不安定な物品について、在庫量を一時的に増やす対応、また値上げ物品の増加に伴い在庫額が増えている。																																													
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																														
薬品	2,832	2,931	2,279	2,553	2,638	2,031	2,031																																																																																														
診療材料	675	969	973	627	1,631	979	979																																																																																														
区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																																																																														
薬品	102,777	92,244	136,694	153,688	160,916	168,436	168,436																																																																																														
診療材料	216,079	224,292	221,511	227,708	239,545	251,101	251,101																																																																																														
			115	④材料費等の節減のための対策を実施する。	各病院（企画） 診療材料コスト縮減実績（単位：千円） <table><tr><th>区 分</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>総 合</td><td>27,923</td><td>85,869</td><td>82,971</td><td>71,680</td><td>132,620</td><td>81,872</td><td>81,872</td></tr><tr><td>こころ</td><td>446</td><td>95</td><td>13</td><td>3</td><td>105</td><td>99</td><td>60</td></tr><tr><td>こども</td><td>6,182</td><td>15,458</td><td>16,734</td><td>12,229</td><td>22,956</td><td>24,366</td><td>25,000</td></tr><tr><td>合 計</td><td>34,551</td><td>101,422</td><td>99,718</td><td>83,912</td><td>155,681</td><td>106,337</td><td>106,932</td></tr></table> 4年度3月末 新規導入・廃止した診療材料・薬品 品目数の実績（単位：件） <table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th colspan="4">診療材料品目数</th><th colspan="4">薬品目数</th></tr><tr><th>4年度当初契約数(a)</th><th>新規採用数(b)</th><th>廃止数(c)</th><th>契約数(a+b-c)</th><th>4年度当初契約数(a)</th><th>新規採用数(b)</th><th>廃止数(c)</th><th>契約数(a+b-c)</th></tr><tr><td>総合</td><td>17,025</td><td>907</td><td>503</td><td>17,429</td><td>1,629</td><td>38</td><td>29</td><td>1,638</td></tr><tr><td>こころ</td><td>407</td><td>9</td><td>10</td><td>406</td><td>585</td><td>78</td><td>92</td><td>571</td></tr><tr><td>こども</td><td>4,231</td><td>62</td><td>56</td><td>4,237</td><td>1,335</td><td>47</td><td>16</td><td>1,366</td></tr><tr><td>合 計</td><td>21,663</td><td>978</td><td>569</td><td>22,072</td><td>3,549</td><td>163</td><td>137</td><td>3,575</td></tr></table>	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総 合	27,923	85,869	82,971	71,680	132,620	81,872	81,872	こころ	446	95	13	3	105	99	60	こども	6,182	15,458	16,734	12,229	22,956	24,366	25,000	合 計	34,551	101,422	99,718	83,912	155,681	106,337	106,932	区 分	診療材料品目数				薬品目数				4年度当初契約数(a)	新規採用数(b)	廃止数(c)	契約数(a+b-c)	4年度当初契約数(a)	新規採用数(b)	廃止数(c)	契約数(a+b-c)	総合	17,025	907	503	17,429	1,629	38	29	1,638	こころ	407	9	10	406	585	78	92	571	こども	4,231	62	56	4,237	1,335	47	16	1,366	合 計	21,663	978	569	22,072	3,549	163	137	3,575	A	A	診療材料は共同購入の取組を継続しており、一層の価格削減を進めているほか、令和4年度は燃料費の高騰を受け、電気料金が上昇していることから、3病院に空調・照明をはじめとした節電対策への呼びかけを行い、電気使用量について継続的に情報共有を図るなど、経費の削減に努めている。 (総合) 診療材料の値上げ物品増加に伴い、価格交渉による削減は390万円に留まった。しかしながら、共同購入の取り組みによる還元額は切替活動を積極的に行った結果、7,798万円になり、前年度より895万円増加となった。 (こころ) 後発品の採用率は前年度と比較して上昇した。また、診療材料については、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響もあって上昇していたメーカーの販売単価が下降傾向に入り、中には大きく価格が減少したものがあった。さらに、入院患者の持参薬の臨時採用の見直しなどを進めたこともあり、コスト縮減を図ることができた。 (こども) 後発医薬品への切り替えに当たっては、小児病院の特性から、先発品との同等性を十分に確認することが必要であるため、安全性・使用性・生物学的同等性の視点を重視し、他の小児専門病院の採用状況を参考にしながら切替え候補品目を選定した。
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																														
総 合	27,923	85,869	82,971	71,680	132,620	81,872	81,872																																																																																														
こころ	446	95	13	3	105	99	60																																																																																														
こども	6,182	15,458	16,734	12,229	22,956	24,366	25,000																																																																																														
合 計	34,551	101,422	99,718	83,912	155,681	106,337	106,932																																																																																														
区 分	診療材料品目数				薬品目数																																																																																																
	4年度当初契約数(a)	新規採用数(b)	廃止数(c)	契約数(a+b-c)	4年度当初契約数(a)	新規採用数(b)	廃止数(c)	契約数(a+b-c)																																																																																													
総合	17,025	907	503	17,429	1,629	38	29	1,638																																																																																													
こころ	407	9	10	406	585	78	92	571																																																																																													
こども	4,231	62	56	4,237	1,335	47	16	1,366																																																																																													
合 計	21,663	978	569	22,072	3,549	163	137	3,575																																																																																													
			116	④効率的な医療機器購入及び管理のための対策を実施する。	各病院（企画） 各病院において、徹底した価格交渉や価格調査を行い、入札・見積合わせ等により競争性を確保することなどにより、効率的な購入及び管理に努めている。 価格交渉では事務と連携して医師等自らも業者と交渉するほか、スケールメリットを生かした複数台購入も行っている。 価格調査では、他病院実績の調査や関係団体への照会、ベンチマーク調査により目安となる金額の把握を徹底し、適正な金額設計に生かしている。 医療機器保守委託では、3病院一括の契約を結ぶなど、機器に応じた契約や不要になった保守機器の随時の見直しを行いコスト低減を図っている。	A	A	総合病院において、令和4年9月に購入した国産初の手術支援ロボット(hinotori)は、メーカー・ディーラーを交えた複数回の交渉の結果、238,975千円(定価より▲30,738千円)で契約することができた 3病院一括での契約については、保守の必要性が低下した機器につき、随時必要性の見直しを行い変更契約している。 引き続き各病院と連携し、コスト低減を図っていく。																																																																																													
			117	④複数年契約や集約化等による契約方法の見直しを継続的に実施する。	各病院（企画） 委託費の節減を図るため、契約更新時に引き続き一括化・複数年化を行うか適するか検討している。 コスト削減による業務水準の低下を防ぐため、一部の委託については、定期的にモニタリング（委託業者の業務を評価）を行い、質の維持・向上を図っている。 4年度 委託契約等の見直し状況（単年度ベース）（単位：千円） <table><tr><th>業務名(連携)</th><th>連携</th><th>年数</th><th>期間</th><th>種類</th><th>令4決議額</th></tr><tr><td>医療機器等保守点検業務委託</td><td>3病院</td><td>1年</td><td>令4.4～令5.3</td><td>定額</td><td>260,645</td></tr><tr><td>放射線機器保守管理等業務委託</td><td>3病院</td><td>1年</td><td>令4.4～令5.3</td><td>定額</td><td>200,824</td></tr><tr><td>シーメンス社製医療機器保守業務委託</td><td>総・子</td><td>1年</td><td>令4.4～令5.3</td><td>定額</td><td>83,930</td></tr><tr><td>建築基準法の定期報告業務委託</td><td>3病院</td><td>1年</td><td>令4.6～令5.3</td><td>定額</td><td>8,360</td></tr><tr><td colspan="5">合 計</td><td>553,759</td></tr></table> 4年度 委託モニタリング評価結果 <table><tr><th>区 分</th><th>第1期</th><th>第2期</th><th>第3期</th><th rowspan="2"></th></tr><tr><td>給食</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td></tr><tr><th>区 分</th><th>第1四半期</th><th>第2四半期</th><th>第3四半期</th><th>第4四半期</th></tr><tr><td>清掃</td><td>可</td><td>-1%</td><td>可</td><td>可</td></tr><tr><td>警備（心・子）</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td></tr><tr><td>医事（総・心）</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td></tr></table> ※業務に関するアンケートや業務提案の有無などにより業務内容を評価。 ※-〇％：業務実績が不良だったため、契約に基づき委託料を一部減額したもの	業務名(連携)	連携	年数	期間	種類	令4決議額	医療機器等保守点検業務委託	3病院	1年	令4.4～令5.3	定額	260,645	放射線機器保守管理等業務委託	3病院	1年	令4.4～令5.3	定額	200,824	シーメンス社製医療機器保守業務委託	総・子	1年	令4.4～令5.3	定額	83,930	建築基準法の定期報告業務委託	3病院	1年	令4.6～令5.3	定額	8,360	合 計					553,759	区 分	第1期	第2期	第3期		給食	可	可	可	区 分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	清掃	可	-1%	可	可	警備（心・子）	可	可	可	可	医事（総・心）	可	可	可	可	A	A	令和4年度は複数年契約の間の年に当たり、新たに複数病院契約や、複数年契約を結んだ委託事業はなかったが、複数病院で集約化した委託費等の契約は既に20件、うち複数年化を行ったものは、16件に上っており、一括化・複数年化による費用削減及び事務の簡素化につながっている。 医事や警備を始めとした一部の委託については、定期的にモニタリング(委託業者の業務を評価)を行い、質の維持・向上が図られている。																												
業務名(連携)	連携	年数	期間	種類	令4決議額																																																																																																
医療機器等保守点検業務委託	3病院	1年	令4.4～令5.3	定額	260,645																																																																																																
放射線機器保守管理等業務委託	3病院	1年	令4.4～令5.3	定額	200,824																																																																																																
シーメンス社製医療機器保守業務委託	総・子	1年	令4.4～令5.3	定額	83,930																																																																																																
建築基準法の定期報告業務委託	3病院	1年	令4.6～令5.3	定額	8,360																																																																																																
合 計					553,759																																																																																																
区 分	第1期	第2期	第3期																																																																																																		
給食	可	可	可																																																																																																		
区 分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期																																																																																																	
清掃	可	-1%	可	可																																																																																																	
警備（心・子）	可	可	可	可																																																																																																	
医事（総・心）	可	可	可	可																																																																																																	
			118	⑤弁護士事務所への未収金回収業務委託を活用し、未収金の縮減、効率的な回収を実施する。 ⑤未収金に関する研修や、弁護士事務所への相談により、事務担当者のレベルアップを図る。	本部・各病院（経営） 平成24年度から弁護士法人へ委託先を変更。 未収金回収実績(弁護士事務所委託分) 単位:百万円) <table><tr><th>年度</th><th>新規委任金額</th><th>回収額</th><th>累計回収率</th></tr><tr><td>24～28年度</td><td>186</td><td>88</td><td>47.5%</td></tr><tr><td>29年度</td><td>38</td><td>17</td><td>47.1%</td></tr><tr><td>30年度</td><td>23</td><td>16</td><td>49.4%</td></tr><tr><td>元年度</td><td>26</td><td>20</td><td>52.0%</td></tr><tr><td>2年度</td><td>30</td><td>16</td><td>52.0%</td></tr><tr><td>3年度</td><td>24</td><td>12</td><td>52.0%</td></tr><tr><td>4年度</td><td>32</td><td>17</td><td>52.1%</td></tr><tr><td>5年度</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	年度	新規委任金額	回収額	累計回収率	24～28年度	186	88	47.5%	29年度	38	17	47.1%	30年度	23	16	49.4%	元年度	26	20	52.0%	2年度	30	16	52.0%	3年度	24	12	52.0%	4年度	32	17	52.1%	5年度	—	—	—	A	A	累計回収率については、令和元年度以降50%を超えており、令和4年度末時点で52.2%となった。 平成23年度以前に委託していたサービスの回収率が20.4%であったのに対して、高い回収率を維持している。																																																									
年度	新規委任金額	回収額	累計回収率																																																																																																		
24～28年度	186	88	47.5%																																																																																																		
29年度	38	17	47.1%																																																																																																		
30年度	23	16	49.4%																																																																																																		
元年度	26	20	52.0%																																																																																																		
2年度	30	16	52.0%																																																																																																		
3年度	24	12	52.0%																																																																																																		
4年度	32	17	52.1%																																																																																																		
5年度	—	—	—																																																																																																		

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令4、第3期中期目標期間(みなし評価))	令和4年度実績 自己評価																																										
						暫定	本評価	説明																																								
第4 財務内容の改善に関する事項	第4 予算、収支計画及び資金計画	第3 予算、収支計画、資金計画及び収支予算等	—	—	—	—	—	—																																								
業務運営の改善及び効率化を進めるなどして、第3期中期目標期間を累計した損益計算において、経常収支比率を100%以上とすること。 業務運営に当たっては、日頃から経営状況を的確に把握するとともに、社会保障制度の見直しや診療報酬制度の改定など、病院経営に大きく関わる環境変化に対しても適切な対応を図ること。これら取組を通じて、中長期的な病院運営の健全化や経営基盤の強化を図ること。	「第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためのとるべき措置」で定めた計画を確実に実施することにより、業務運営の改善及び効率化を進めるなどして、第3期中期目標期間を累計した損益計算において、経常収支比率を100%以上とすることを目指す。 業務運営に当たっては、日頃から経営状況を的確に把握し、社会保障制度の見直しや診療報酬制度の改定など、病院経営に大きく関わる環境変化に対しても適切な対応を図り、経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上に努める。これら取組を通じて、中長期的な病院運営の健全化や経営基盤の強化を図ること。	119	・新規施設基準取得などによる増収への取組みと業務見直しによる支出節減への取組みを効率的に進めることにより、各年度での3病院黒字化を図る。	各病院（経営）	経常収支の状況 (単位：％) <table><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度見込</td></tr><tr><td>総 合</td><td>100.4</td><td>100.8</td><td>100.6</td><td>100.6</td><td>102.4</td><td>100.9</td><td>100.1</td></tr><tr><td>こころ</td><td>113.3</td><td>112.9</td><td>103.1</td><td>108.6</td><td>106.8</td><td>103.9</td><td>100.0</td></tr><tr><td>こども</td><td>103.1</td><td>103.4</td><td>101.4</td><td>102.3</td><td>102.9</td><td>100.6</td><td>100.1</td></tr><tr><td>機構全体</td><td>101.9</td><td>102.2</td><td>100.9</td><td>101.5</td><td>102.7</td><td>101.0</td><td>100.1</td></tr></table> 目標：第3期目標期間を累計した損益計算において経常収支100%以上	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込	総 合	100.4	100.8	100.6	100.6	102.4	100.9	100.1	こころ	113.3	112.9	103.1	108.6	106.8	103.9	100.0	こども	103.1	103.4	101.4	102.3	102.9	100.6	100.1	機構全体	101.9	102.2	100.9	101.5	102.7	101.0	100.1	A	A	令和4年度も、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、医療面では充実した質の高い医療を提供し、経営面では機能的で効率的な病院経営を推進した。空床補償等の新型コロナ関連補助金が適切に交付されたこともあり、地方独立行政法人化後、14年連続で経常収支比率100%以上を達成した。
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度見込																																									
総 合	100.4	100.8	100.6	100.6	102.4	100.9	100.1																																									
こころ	113.3	112.9	103.1	108.6	106.8	103.9	100.0																																									
こども	103.1	103.4	101.4	102.3	102.9	100.6	100.1																																									
機構全体	101.9	102.2	100.9	101.5	102.7	101.0	100.1																																									

用語解説

(参考)

用語 (50音順)	解 説
A C T	A C Tとは、Assertive Community Treatment(包括型地域生活支援プログラム)の略で、重い精神障害を持つ人たちに対して、住み慣れた地域で支援する、集中型・包括型ケースマネジメントプログラム。
C C U	C C Uとは、Coronary Care Unitの略で、冠疾患集中治療室と呼ばれ、主に心筋梗塞などの冠動脈疾患の急性危機状態の患者を収容し、専門の医師・看護師により、厳重な監視モニター下で持続的・集中的に管理・治療する部門。 ※こども病院では、C C UをCardiac (心臓病の) I C Uと位置付けている。
D M A T	D M A Tとは、Disaster Medical Assistance Teamの略で、医師、看護師、業務調整員(医師・看護師以外の医療職及び事務職員)で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期(おおむね48時間以内)に活動できる機動性を持ち、専門的な訓練を受けた医療チーム(D M A T:ディーマット)
D P A T	D P A Tとは、disaster psychiatric assistance teamの略で、大規模災害発生後、被災地域に入り、精神科医療及び精神保健活動の支援を行う災害派遣精神医療チーム(D P A T:ディーパット)
D P C	D P Cとは、Diagnosis Procedure Combinationの略で、診断群分類のこと。これに基づく診断群分類包括評価(しんだんぐんぶんるいほうかつひょうか)により、日本の急性期入院医療費の定額支払制度が平成18年から(試行は平成15年から)運用されている。(総合:H20.7導入、こども:H21.7導入)
E S C O	E S C Oとは、Energy Service Companyの略で、1970年代アメリカで始まり、1990年代後半に日本に導入された省エネ化を目指す事業で、省エネルギーに関わる一連の業務を一括して請け負うことや、計画した省エネ効果が出なかった場合、省エネ相当分を顧客に補償する義務を負うことなどが特徴。
H C U	H C Uとは、High Care Unitの略で、集中治療室に準ずる機能を持つ高度な治療室。看護配置数は集中治療室の1/2であるが、一般の病棟よりはるかに多いため両者の中間に位置する病室。集中治療室から一般病棟への転室は落差が大き過ぎ、移行が難しいため、一般病棟への移行を円滑に行うために設置される。手術後の患者や集中治療を脱した重症患者の経過観察を受け持つことが多い。
I C U	I C Uとは、Intensive Care Unitの略で、集中治療室と呼ばれ、内科系・外科系を問わず呼吸、循環、代謝そのほかの重篤な急性機能不全の患者を収容し、強力かつ集中的に治療看護を行う部門。
I M R T	I M R Tとは、Intensity Modulated Radiation Therapyの略で、強度変調放射線治療を言い、コンピュータの助けを借りて正常組織への照射線量を抑えつつ、腫瘍部分に放射線を集中して照射することができる放射線治療である。
m-E C T	m-E C Tとは、修正型電気けいれん療法で麻酔科医による全身麻酔の下、筋弛緩剤の投与により体幹のけいれんを起こさせないもので、うつ病、躁うつ病、統合失調症などの治療に用いられており、従来の有けいれん療法に比べ、安全で有効な治療法とされている。
M F I C U	M F I C Uとは、Maternal Fetal Intensive Care Unitの略で、重い妊娠中毒症、前置胎盤、合併症妊娠、切迫早産や胎児異常など、ハイリスク出産の危険度が高い母体・胎児に対応するための設備と医療スタッフを備えた集中治療室
M i t r a C l i p	M i t r a C l i p (マイトラクリップ)とは、手術リスクの高い僧帽弁閉鎖不全症患者に対して行う経カテーテル僧帽弁クリップ術である。 2003年にヨーロッパで始まり、欧米を中心に6万人以上の治療実績を有する。日本では2017年10月に認可があり、全国12施設で約300症例に対して治療が行われている。
M S W	M S Wとは、Medical Social Workerの略で、疾病を有する患者が、病気になることで生じる生活上の様々な困難に対して、自立した生活を送ることができるように、社会福祉の立場から、患者の生活全体を支援していく専門家のこと。

用語（50音順）	解 説
N I C U	N I C Uとは、Neonatal Intensive Care Unitの略で、未熟児をはじめとするハイリスク新生児は専門的な医療機関で集中治療・管理する必要がある、このような医療を展開する場所全体を一般的に広義の新生児集中治療室と呼んでいる。
P C I	血管に刺入する管（カテーテルという）を用いて冠動脈疾患に様々な治療を行うことを総称して（経皮的）冠動脈インターベンション（PCI）と呼ぶ。 風船療法（カテーテルの先端の風船（バルーン）で狭窄した冠動脈を拡げる）や経皮的冠動脈ステント留置術（拡げた冠動脈にステントという金属のコイルを内側に張り付けて血管を支え再狭窄を防ぐ）やD C A（カッターで狭窄病変部位を削り取り拡げる治療法）やローターブレードというドリルのような先端を回転させて病変を削り取るなどの治療法がある。
P E T	P E Tとは、Positron Emission Tomography（ポジトロン・エミッション・トモグラフィ）の略で、PET検査とは、陽電子（ポジトロン）を放出する放射性核種（ポジトロン核種）で標識した薬剤を静脈から注射して、細胞の活動状態を画像化する診断技術である。 がん等の診断、治療効果・治療後の経過観察に有用な最先端の検査法で、同様にがんの早期発見にも有用である。
P I C U	P I C Uとは、Pediatric Intensive Care Unitの略で、小児集中治療室と呼ばれ、専属の専門医が配置され独立病棟として24時間小児重症患者を受け入れている。
P S W	P S Wとは、Psychiatric Social Workerの略で、精神保健福祉士と言い、社会福祉学を学問的基盤として、精神障害者の抱える生活問題や社会的問題の解決のための援助や、社会参加に向けての支援活動を通じて、患者を支援していく専門家のこと。
S P D	S P Dとは、Supply Processing Distributionの略で、物品・物流の包括的管理業務のことを指す。物品の発注、検収、入庫、払出、搬送、格納、出庫、在庫確認、棚卸を一元管理すること。
T A V I	T A V I（タビ）とは、Transcatheter Aortic Valve Implantationの略で、「経カテーテル大動脈弁置換術」と言い、重症の大動脈弁狭窄症に対する手術療法である。T A V Iは、胸を開かずに、心臓が動いている状態で、カテーテルを用いて人工弁を患者の心臓に装着する治療法である。
医療観察制度	心神喪失又は心神耗弱の状態で大変な他害行為を行った人を対象として、国の責任による手厚い専門的な医療と、退院後の継続的な医療を確保するための仕組み等によって、その円滑な社会復帰を促進することを目的とした制度であり、こころの医療センターにおいては、平成21年3月24日付で指定入院医療機関指定書（東海北陸厚生局長指定、第0004号）により指定入院医療機関として指定された。
医療ビッグデータ	医療ビッグデータとは、人の健康、病気、治療等に関するビッグデータを言い、レセプトデータ、電子カルテ等に記録された診療データ、特定の疾患に関する臨床データ、薬局における調剤データ、健康診断データ等があげられる。
がんゲノム医療	がんゲノム医療とは、がんの組織を用いて多数の遺伝子を同時に調べ（がん遺伝子パネル検査）、遺伝子変異を明らかにすることにより、一人一人の体質や病状に合わせて治療等を行う医療である。
看護師修学資金制度	当機構への就職を希望する看護学生に対して、資質の向上に資することを目的に修学資金（月5万円）を貸与する制度のこと。なお、当機構に看護師として就職した期間に相当する額の返還が免除される。 また、既に静岡県外の病院等から貸与を受けている同種の修学資金に対して、借り換えをするための資金（返還資金）を貸与するメニューも用意している。

用語（50音順）	解 説
緩和ケア	主に治癒を目的とする治療ではなく、全人的なケアで、痛み、その他の症状コントロール、心理面、社会面、精神面のケアを行うもの。
がんサバイバルボード	がんの症例について、手術・化学療法・放射線治療・緩和医療、画像診断、病理診断等、院内のがん診療・診断に携わる医師をはじめ、看護師、薬剤師等関連する専門職が、診療科や職種の垣根を越えて一堂に集まって、さらに連携する地域の医療者（医師会の医師、看護師、薬剤師、訪問看護師、介護関係職等）にも参加してもらい、それぞれの専門的な知識・技能を集約して、がん患者の症状・状態や治療法・治療方針等の情報を共有して意見交換し、最適な治療方針を協議・決定する場のことを言う。
クリニカルパス	クリニカルパスとは、ある病気の治療や検査に対して、標準化された患者様のスケジュールを表にまとめたもので、1つの治療や検査ごとに1つずつ作られている。 クリニカルパスには、病院用、患者様用と2つ準備されており、患者用クリニカルパスには、「入院診療計画書」として、患者が入院してからの食事や処置、検査・治療、そのための準備、退院後の説明等が日ごとに詳しく説明されている。
クロザピン	クロザピンは抗精神病薬で、H21.4月に製造承認され、7月より発売開始となった。クロザピンの使用にあたっては、高い治療効果の反面、重篤な副作用（白血球の減少）が報告されていることから、安全管理体制の整備が義務付けられている。
ゲノムコホート研究	コホート研究とは、ある特定の集団を一定期間にわたり追跡し、生活習慣等の環境因子や遺伝的要因と疾病発症との関係を解析するための研究である。ゲノムコホート研究は、遺伝子型と疾病発症との関係を解析する研究である。
コーディング	疾病や手術、検査などをコード化する仕事。 最近、病院では診療情報を活用するために、あるいはDPCやがん登録などの国の制度の義務付けにより、標準化されたコードへのコーディングとそのシステムへの登録が必要となり、そのためコーディングする人の需要が、増えている。正しいコーディングのためには、コード体系の知識とともに医学知識やカルテを読み解く能力が要求される。 疾病のコーディング：膝の関節炎⇒M13.96（Mは骨・筋肉などを示す。13は関節炎を示す。9は詳細不明を示す。6は膝を示す）
コメディカル	薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・歯科衛生士・理学療法士・作業療法士などの、医師・看護師以外の医療従事者の総称のこと。
紹介率・逆紹介率	・紹介率とは、初診患者のうち、他の医療機関から紹介状により紹介された患者の数が占める割合のことである。 紹介率＝（初診患者のうち紹介患者数）÷初診患者数×100 ・逆紹介率とは、地域医療支援病院の全患者のうちから他の医療機関に紹介した者で、診療情報提供料を算定したもの数（同一人に複数回又は複数紹介先算定の場合あり）と、初診患者の総数との比較のことである。 逆紹介率＝逆紹介患者数÷初診患者数×100
初期臨床研修医 後期臨床研修医	免許取得の後に、臨床研修の名で上級医の指導の下に臨床経験を積む卒業教育が制度化された。病院独自に「前期・後期研修医」の名称を使用することがあるが、研修医（広義、1-5年目程度）＝研修医（狭義、=前期研修医、1-2年目）＋後期研修医（3-5年目程度）としていることが一般的である。 一般に「研修医」の語を使う場合、「前期研修医」を指す。後期研修医とはほぼ同義の語として、専修医、修練医、などがあるが、各々の病院独自のものである。

用語（50音順）	解 説
新専門医制度	新専門医制度とは、平成29年度以降に専門研修を開始する医師を主な対象として開始を予定していた制度で、今まで各学会が独自に定めた基準により認定をしていた専門医資格を、中立的第三者機関である日本専門医機構が統一的に専門研修プログラムの審査・承認を行い、承認を受けたプログラムに基づいて専門研修施設群がカリキュラムの修了を判定。その判定をもとに日本専門医機構が専門医の認定を行うものとされていたものである。 ただし、医師の地域偏在への懸念が解消されなかったことから1年の延期が決定された。（小児科学会（小児科専門医）はH29より先行実施）
心理教育・家族教室	心理教育とは、精神障害やエイズなど受容しにくい問題を持つ人たちに、病気に関する必要な基礎知識を提供するとともに、療養生活を営む自信と地域で暮らしていく力量を身につけ、医療機関で提供される各種リハビリテーションプログラムや、地域の援助プログラムを主体的に利用することを促すことによって、医療機関における治療や援助から、精神障害者を日常的に支える地域リハビリテーションへの連続的な移行を目指して行う支援法のこと。 患者の家族だけを対象に行う支援を家族教室と言う。
心理・社会的治療	精神科における薬物療法と電気けいれん療法以外の心理療法的プログラムの総称で、多職種のチーム医療が原則である。 デイケア、作業療法、認知行動療法、心理教育・家族教室、A C Tなどの各種治療法を含む。
診療情報管理士	診療情報管理士とは、四病院団体協議会（日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神科病院協会）及び医療研修推進財団が付与する民間資格のこと。 主な業務内容として、診療録の物理的な管理や内容の精査を行う「物の管理」、診療情報をコーディングするなどしてデータベースを構築する「情報の管理」、構築されたデータベースから必要な情報を抽出・加工・分析する「情報の活用」がある。
ステントグラフト内挿術	ステントグラフト内挿術とは、大動脈瘤に対する手術療法で、胸部、腹部を切開することなく足の付け根の血管から人工血管（ステントグラフト）を大動脈瘤内に誘導して蓋をする治療法である。
精神科リエゾンチーム	リエゾンとはフランス語で連携、連絡を意味する言葉である。精神科リエゾンチームとは、身体疾患に伴うさまざまな精神症状を有する患者に対して、身体科及び精神科の医師、看護師、公認心理師、精神保健福祉士等の連携による専門チームが高度な精神科治療を提供するものである。
ダ・ヴィンチ	3D画像を確認しながら、離れた場所からロボットアームを操作して内視鏡下手術を行うもので、皮膚切開を最小限にすることで、患者の負担をできるだけ抑えることが可能（術中の出血量が少ない、術後の疼痛が少ない）。
地域医療支援病院	1997年（平成9年）4月の医療法の第3次改正で制度化された医療機関の機能別区分のひとつ。 目的としては、地域の病院、診療所などを後方支援するという形で医療機関の役割分担と連携を目的に創設された。都道府県知事によって承認される。 （承認要件） ・病院の規模は原則として病床数が200床以上の病院であること。 ・紹介率及び逆紹介率が基準を満たしていること。 ・他の医療機関に対して高額な医療機器や病床を提供し共同利用すること。 ・地域の医療従事者の向上のための生涯教育等の研修を実施していること。 ・救急医療を提供する能力を有すること。
地域医療連携推進法人	地域医療連携推進法人とは、地域において良質かつ適切な医療を効率的に提供するため、病院等に係る業務の連携を推進するための方針（医療連携推進方針）を定め、医療連携推進業務を行う一般社団法人を都道府県知事が認定（医療連携推進認定）する制度である。

用語（50音順）	解 説
地域連携クリニカルパス	病院の医師と診療所の医師、疾患によってはリハビリ施設など地域の医療提供施設が役割分担して連携して患者を診る仕組みの中で、疾患別に、以降の診療予定をスケジュール表の形式で表わしたもの。患者は診療所にいつ受診し、病院にいつ受診し、あるいはリハビリ施設にいつ受診し、どういう治療を受けるのかが分かり、医療施設は患者の診療の進捗管理をし、施設間で情報を共有するために使われる。診療報酬点数表上では、疾患が限られているが、「地域連携計画書」といい、計画管理料や退院時指導料等が算定できる。
頭部冷却装置（PAXMAN）	がん薬物療法に伴う脱毛抑制を目的とした頭部冷却装置 頭皮冷却を継続的に実施すると頭皮血管が収縮し、毛包への抗がん剤量の到達を減少させることが可能になる
ドクターカー	平成20年4月25日に道路交通法施行令の一部が改正され緊急自動車の指定対象に追加された乗用車型のドクターカー（患者搬送のための特別な構造又は装置を有しない医師派遣用自動車）。静岡市消防局の要請により「ドクターカー」に当院の救命救急センターのスタッフが搭乗し、災害や事故の現場に急行したり、搬送途中の救急車とドッキングして治療を開始する。
認知行動療法	認知行動療法とは、人間の気分や行動が認知のあり方（ものの考え方や受け取り方）の影響を受けることから認知の偏りを修正し、問題解決を手助けすることによって精神疾患を治療することを目的とした精神療法であり、2010年から、一部保険点数化がされた。
認定看護師	認定看護師とは、日本看護協会及び日本精神科看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することを認められた者をいい、水準の高い看護実践を通して看護師に対する指導・相談活動を行う者をいう。
ハイブリッド手術室	据置型血管撮影装置（アンギオ）を設置した手術室であり、カテーテル血管内治療と外科的手術の双方に対応が可能。 ・合併症などの緊急時の対応が可能。（カテーテル治療から外科的手術への移行） ・手術のみでは到達困難な部位に対する治療が可能。 ・カテーテルのみでは治療できない緊急時の病変に対しても外科的手術を同時に行うことで対応が可能。 ・鮮明な透視画像により治療精度が向上
バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）	バンコマイシンに対する薬剤耐性を獲得した腸球菌（VRE）
リニアック	リニアックとは、日本語では「直線加速器」といわれるもので、荷電粒子を一直線上で加速させて発生した放射線を当てることで、がんなどの治療をする機器です。 多方向からピンポイントで放射線を当てることにより、正常組織への放射線の照射量を低減し、腫瘍部分の放射線量が高くなり細胞を死滅させる治療方法。
レスパイト	レスパイト（レスパイトケア）とは、患者や要介護者等を在宅で日常的にケアしている家族を、他の者がケアを代替することで一時的にケアから解放させ、休息させる家族介護者支援のこと。
レジデント	初期臨床研修医はジュニアレジデント、初期レジデント、スーパーローテーターなどと呼ばれ、それ以降に専門科での研修を行うものを単にレジデントと呼んだり、後期研修医、後期レジデント、シニアレジデント、専攻医などと呼ばれている。